401 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/03(土) 11:06:38 ID:1yYsx+7U
（゜∀゜）＜マサは凄いぞ ED 気味だぞ将来心配だー
402 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/03(土) 13:09:06 ID:O0eqANJx
>>394
Wiz5 懐かしいな…
403 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/03(土) 15:04:13 ID:+qS0upWd
WIZ で LV1 からﾏｻﾊｰﾚﾑﾊﾟｰﾃｨｰ作ってやりたくなっちまった。FFPPTM で。
404 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/04(日) 10:49:56 ID:pJ3sWCI3
マサ、リンコ、リョーコは普通にゲームやってるんだよな
アイも興味を持ちはじめ、ママンはエロゲーマー、と
405 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/05(月) 07:59:42 ID:azTNJk3J
次の祭候補はホワイトデーかそれとも濱中連載終了一周年か
406 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/05(月) 20:23:25 ID:3Qr/h3HY
静かだな…
407 名前： 名無しさん@ピンキー 投稿日： 2007/03/06(火) 01:25:48 ID:7fBDmQsf
ミサキがマサヒコの家に泊まりに来た（親不在）本編

あのとき、作ってあった餃子に大量の媚薬が入ってあり（母親の仕業）二人が結ばれる話はないですか？
408 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/06(火) 13:25:23 ID:jq3hd+gw
あの回を題材にした SS は確かあったと思うが、どの職人さんでどんな題だったかまでは思い出せないなあ
409 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/06(火) 23:54:51 ID:IFEK05Cu
にんにくは媚薬の一種、と言ってみる。折角体力つけさしたのに.....。本当に
マサは母親不孝な奴だ。
410 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 19:28:13 ID:OWC51Ruw
だがそれがいい
411 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:34:49 ID:oddVq3bQ
はい、どうも郭です。
それでは遅延しまくった後半、投下です。>>268 の続き
412 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:35:28 ID:oddVq3bQ
ふたりは、再び見つめ合った後、
“ちゅッつッ”
唇を、重ねた。互いの体温を混ぜて、同じ温度にするかのような、長いキス。
“くぅッ……つちゅぅ”
音がたつほど、唇を吸う。口内に、舌を挿れる。舌と舌を、絡める。
ざらざらとした、舌の表面の感覚。柔らかくて、ねっとりとして、熱い。
「は……んッ。こくぼ、くぅん……」
キスを続けながら。舌先で、マサヒコの唇を舐めながら。
アヤナがもどかしそうにマサヒコのブレザーを脱がす。
無言で頷いたマサヒコは、ブレザーを、ワイシャツを、脱ぎ捨てた。
ベルトに手をかけてパンツのジッパーを下ろし、トランクスも脱いで全裸になった。
じっとマサヒコの仕草を見つめていたアヤナだが、ふっ、と可笑しそうな表情を浮かべる。

「……？」

「……ふ、ふふ」
「？どうした、若田部」
「いまさらだけど。ふたりとも裸って、なんだか、恥ずかしいね」
「まぁ、な……」
「恥ずかしいのに、嬉しくて、可笑しくて……不思議だね」
（可愛いな、若田部……）
今更のように、マサヒコは思った。今のこのシチュエーションとは全くそぐわないが――
小さくて恥ずかしげな笑顔は、無邪気な少女のような微笑みだった。
“ぎゅッ”
マサヒコは、アヤナを強く抱きしめた。柔らかな乳房が、自分の胸元を押し返すのを感じた。
「若田部、オレは、後悔しない。もう、後悔、しない。
多分、オレがこれからすることは、最低で、格好悪くて、最悪なことなんだ。
でも、オレは……やっぱり、お前が好きだ。だから、オレは」
「いいよ……あなたは、最低でも、格好悪くても、最悪でも、小久保君だから。
私が……好きに、なった人だから。好きになってしまった、人だから」
それ以上、言葉は要らなかった。
“っちゅ……ちゅ”
軽くキスをした後、アヤナの頬にもキスをした。そのまま、舌先を、首筋に這わす。
「あ……」
小さく、アヤナが震える。汗が、分泌されるのを間近で見る。
“つ、つ～～～～”
「ふ……きゃ……ぁあ、うぅん……」
首から鎖骨のラインを、跡を付けるように、舐める。
震えが、少しずつ嗚咽に――快楽を忍ぶ声へと、変わるのを確認した後。
“ちゅぅううッ”
「？！Ｗ＃？きゃ、きゃあああああッ！」
耳の裏を、舐めた。弱点への不意打ちに、思わず悲鳴を上げるアヤナ。
「ココ、やっぱ弱いんだ、若田部？」
「やだ……お、覚えて……たの？」
「うん。あんときの若田部、びっくりするくらい可愛い声出したから」
「馬鹿……あのときも、言ったのに。力、抜けちゃうって」
「でも、マジで可愛い声だったよ？若田部。だから……」
「あ！や！ひゃんッ……」
耳の裏から、耳の周りを、舌先で、舐める。唾液を彼女の肌に、馴染ませるように、舐める。
「ひゃ……。馬鹿ッ！……あ……きゃッ！」
耳を責められて身悶えするアヤナがたまらなく愛おしくなったマサヒコは、
思わずアヤナの耳をかぷり、と口の中に含んでいた。
小さな耳は折り畳まれるように、マサヒコの口中に半分近くすっぽりと納まってしまった。

“くちゅ……ぷちゅ”
しつこいくらいに、舌先で口の中の耳を、舐める。嬲る。
少しだけ、固いところを。柔らかいところを。耳の溝を。べとべとになるまで、舐める。
「はぁ！はッ！やだ……ダメえ！小久保君、ば、馬鹿ぁ～～～！」
§

413 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:36:08 ID:oddVq3bQ
弱々しい罵倒の言葉とともに、アヤナの体から力が抜けたのを、マサヒコは感じた。
（え……？まさか、こんだけで？）
真っ赤になって、上気しきった顔。くたっ、と脱力した、表情。潤んで焦点が合わない、瞳。
それは、完全に―――彼女が、達してしまったことを、マサヒコに伝えていた。
「あの……若田部？」
「……弱いって、言ったのに……」
「ご、ゴメン……でも、そんなに弱いって思わなかったから」
「謝ったって……ダメ！今度は、私の番！」
「え？お、おい！」
ふざけたようなふくれっ面をつくると、アヤナが覆い被さってきて、馬乗りに近い状態になった。
（お……おお、ちょっと、若田部……）
見事な美乳が至近距離でたぷたぷと揺れる絶景を堪能するマサヒコだが、
アヤナはちょっと冗談っぽく、微笑んだ。
「私も、今思い出した」
「？？へ？何を？」
「小久保君の……弱点」
「へ？わぁッ！ちょい、ストップ！若田部！」
“つぷッ”
アヤナがマサヒコの腋の下に頭を潜らすと、強く、吸い出すようなキスをしてきた。
くすぐったさと共に襲ってくる、ぞくぞくとした快感に思わず身を捩るマサヒコ。
「えへへ〜〜〜ワキ、弱いんだよね、小久保君？」
「う……ゴメン若田部、さっきのは謝るから」
「ダメよ。私だけイジメて……これで、あいこなんだから」
“つくぅ〜〜〜”
「！〜＝％＆あ、あひっ……」
舌先をすぼめて突起のようにして、マサヒコの腋から脇腹を、舐める。
ほとんど贅肉のついていない、痩せて硬いそこを、丹念に舐める。
途中でとんとん、とリズムを取るように、つつく。そのたびに、
「ひ……ひゃあッ！」
マサヒコが、甲高い声を漏らす。その様子を、アヤナは悪戯っ子のような表情で見つめていた。
（感じてるんだ……可愛い、小久保君）
“はぷ……”
腋の下にうっすらと生えた毛を、愛おしく思いながら口に含んだ。
鼻腔に、マサヒコの汗の薫りが満ちる。唾液で浸すように、腋の毛を舐める。
「や……ひぃッ！マジで、無理……ぎ、ギブだって、若田部ぇ！」
「うふ〜〜♪可愛い声出すのね、小久保君」
「も、もう勘弁してくれ、マジで、若田部」
「うふふっ♪ね？小久保君ってドMだよね」
「……いきなりそんなこと言われても」
「で、ちなみに私はかなりのＳなの。だから、あなたがそんな顔してくれると……」
“ぷつッ”
「は、はひゅうッ！」

腋の窪みに激しく吸いつくようなキスをするアヤナ。マサヒコの反応を、たっぷりと楽しむ。
「すっごく、ゾクゾクしちゃうの。うふ、でも、本当にあなたって女の子みたい♪」
「だ、だから、わ、わかたべ……止めてって」
情けなく懇願するマサヒコだがそんな姿は完全に逆効果で、
“つっ”
アヤナのＳ魂に油を注いでしまうだけだった。脇腹に、強いキス。
そこから、舌先でちろちろと肋骨の線をなぞるように舐める。
「う……ひ……ひゃ、ええ？」
そしてそのままマサヒコの胸に顔を埋めると、マサヒコの小さな乳首を、吸った。
「男のひとも……ここ、感じるの？」
「？！？だ、だから、若田部、もう、マジでオレ、ギブ」
「うふ。可愛いんだから、小久保君♪それに、ギブって言ってる割には……」
「！！！あひ……」
§
414 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:36:47 ID:oddVq3bQ
アヤナの指が、マサヒコの股間をまさぐる。少しぎこちなく、ペニスに触れる。
先ほどからの彼女の口撫によってそこは、既にガチガチに固くなってしまっていた。
「こんなになっちゃうんだ……男のひとのって……」
「て言うか、お前だって確かお兄さんがいたから、その、こういうの見たこと」
「？ううん……年が離れてたから、あんまり、えっと……ふうん、でも、本当におっきくなるんだ」
「！ひ？！ば、馬鹿止めろって、若田部」
アヤナは興味のおもむくまま、すりすり、と根元からマサヒコのペニスを撫でた。
それは、アヤナの愛撫に反応してぴくぴくと震えるように動いた。
（ふぅん……男のひとのって……思ったより）
想像ではもっとずっとグロテスクなものだと思っていた。しかし実際に目の前にしてみると――
それは、ちんまりとした肉の塊のように、見えた。
それは、なんとなく情けなく、なんとなく可愛らしいものだった。
（えっと……これならお姉様に習ったとおり、で、できるかな？思ったより、き、汚い感じじゃないし）
「？あのさ、若田部。ブツブツ言ってるんなら、もう止めてくれな……ええええ？？」
“あむ……”
アヤナが頭をマサヒコの下半身へと移動させると、なんの予告も無しにそれを、口に含んだ。
突然のアヤナの行為と、彼女の口内の温かさに驚愕するマサヒコ。
「んッ……ひもち、いい？こふぼくん」
口に含んでいたペニスをいったん離して、上目遣いで問うアヤナ。
潤んだ瞳と興奮のためか赤く染まった目元が、たまらなく色っぽかった。
「い、いや、その気持良いとか悪いとかそれはどっちかと言えばその、気持ち良いんだけど、
ってそんなことじゃなくて！！！お前、いきなり、なな、何を」
「ん？ごほーしぷれー？って、言うのよね？」
「？はぁ？」
「お姉様に、習ったの。ご奉仕プレーって」

（！！！！！メガネ、アンタはいったいどこまで！）
アヤナと中村の珍妙な師弟関係は、帰国後も全く変わらないようだ。
その事実に改めて激しく脱力するマサヒコだが。
「それで、私なりに猛練習したから……ごほーし」
“ちゅぷぅく”
「＠＄＃お、おお！！」
アヤナが一気に、奥深くまでペニスを飲みこむ。
喉奥のぬるり、とした柔らかな感触に思わず声をあげるマサヒコ。
「ん……っん……ん、ぷきゅう……」
“ぬ……ぬるっ〜〜ぅるぅ〜〜”
ゆっくり、ゆっくり、呑み込みを浅くしていく。
浅くしていきながら、ペニスの裏側を舌先で添わすように舐める。
亀頭だけを口の中に残して、包皮の周辺をなぞるようにちゅぷちゅぷと吸う。
「あ……わ、わかたべ……」
抵抗することも忘れ、マサヒコは目を閉じて快楽に身を任せていた。
（あ……ああ……すげえ……これ……わかたべの口の中で……オレ）
ペニスの先から、自分自身がとろり、と熔けるような錯覚。
アヤナが舐め、くわえ、吸うたびに、マサヒコの爪先がぴくッ、と小さく反応する。
「ん……ひもちいい？小久保君」
「あ……ああ。き、気持いいよ。凄く……」
「えへ、良かった。お姉様に教えてもらって、バナナのオモチャで一生懸命練習したから」

（それは……どうかと思うけど）
ツッコミどころ満載のアヤナの発言に心中そう呟くマサヒコだが、
無邪気なアヤナの笑顔になにも言えなくなってしまうのだった。
“ちゅ……ちゅる〜〜〜はむッ”
「わ！ぉおおお！ちょ、若田部、すす、ストップ！」
脱力しかけたマサヒコだが、肝心のそこは全く脱力していなかった。
練習の成果か中村の指導の賜か、ビギナーと思えぬほどの見事な口技を繰り出すアヤナに、

今にもノックダウン寸前になってしまい、慌てて彼女の頭に手をのせる。
「んにゅ？あ、ごめんなさい。今の痛かった？」
§
415 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:37:24 ID:oddVq3bQ
「いや、痛くはないけど……その、ムチャクチャ気持ち良かったけど……
あの若田部、その、オレもうそろそろ限界で」
「？別に口の中でしても良かったのに」
「だ、だからそんなの、汚いだろ？」
「？だって、飲むんでしょう？こういうとき」
「……そうと決まったわけじゃ」
（はぁぁぁ……これもどーせメガネの仕込みなんだろうが）
今日何度目かの脱力感にぐったりとなってしまうマサヒコだが——
（……天野さんは、飲んでくれないのかな？）
アヤナはそんな彼のことをじっと見つめ、勘違い気味のジェラシーを抱いてしまうのだった。
“かぷッ”

「！｀～Φ！いい？若田部？」
勢いよく、アヤナが再びペニスをくわえた。ちょっと怒ったような、上目遣いでマサヒコを見る。
「んぐ……らして、ろくぼくん」
「はひ？」
「出して。私、飲むから」
「だ、だからな、きたな……」
「嫌。小久保君のだから、汚くない。私……飲みたい」
“ぢゅぷッ！ぷじゅッ！！ぷぅちゅう！！！”
一気に、アヤナは勢いを早めた。強く、吸う。舌先で、ペニスを掬い上げる。
白く滑らかな指先で、フクロを揉んで、刺激する。
「＠＄！ど、あ……や、やめ、わかた……あ、あああ！！！」
“びゅぐッ……どぷ、ずびゅうッ”
抵抗も虚しく、あっさりとマサヒコはアヤナの口内で射精してしまっていた。
小さく腰を震わせ、快感に酔うように、何度も、何度も、ペニスから精を吐き出す。
（ああ……やっちゃった。若田部に……飲ませちゃったよ、オレ）
ミサキには、まだ一度も飲ませたことがなかった。これが、初めての体験だった。
「んっ！んくッ！！……んうう……」
“こくッ、こくッ”
喉を鳴らして、アヤナはマサヒコのペニスから迸る精液を飲んでいた。
（あ……すごい、生ぐさい。でも、これが……小久保君の……精液）
美味、という類のものでは当然無かった。
生まれて初めて味わうそれからは、少しの苦みと、しょっぱさと、何とも言えない生臭さを感じた。
“こくっ……く、ずぅ、ちゅうううううぅ……こくん、ごく”
吐き出さないよう、必死にアヤナは飲み続ける。ペニスから、搾り取るように、吸い出す。

“ぴゅ……ぷ”
何度も続いたマサヒコの射精は、やがて、ようやく終わろうとしていた。
“ちゅぷ……”
勢いを失い、だらりと柔らかくなったペニスから、やっと口を離すアヤナ。
「は……はぁッ……こくぼ……くん」
真っ赤に興奮したアヤナが、譫言のように呟く。つるッ、と口の端から精液が、漏れる。
それに気付いたアヤナは、慌てて舌先でちゅるり、とそれを舐め取る。
「わ、若田部……だから、そんな……お前、無理して飲まなくても……初めてなのに」
「熱い……小久保君。熱いよ……すごく……」
こくり、と口の中に残った精液を飲みほす。普段のキリリ、としたアヤナではなく、
どこかとろん、と焦点のぼやけた瞳がたまらなく色っぽかった。
「ゴメン……不味かったろ？」
「ううん。美味しい……小久保君の、せいえき。ねえ……気持ち良かった？、私のごホーシ」
「あ、ああ」
「私……したい。もっと」
「若田部……でも、あの……そんな、すぐには、その、男の事情ってもんが」
「？」
射精し終わったばかりであり、すぐに回復するわけには、と言ったつもりなのだが。

そのへんはアヤナも初めての体験であり、マサヒコが含んでいるところが理解できず――
きょとん、と不思議そうに彼を見つめるしかなかった。
§
416 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:38:04 ID:oddVq3bQ
「えっと……じゃあね」
「？え？きゃあ」
マサヒコがアヤナを抱き寄せ、乳房に顔を埋めた。
柔らかく、大きな乳房から、ほのかな汗の匂いと、甘く青い薫りがした。
「可愛い……若田部」
「やだ……いきなり、恥ずかしいよ、小久保君」
「キレイだよ。やわらかくて、おっきくて、いいにおいで」
「あの……小久保君、ヘンなこと、聞いてもいい？」
「なに？」
「……大きくない？私の」
「？若田部の胸は、確かに大きい方だと思うけど」
「ううん。違うの。その……わ、私の、ち、乳首、大きくない？」
「？あ、もしかして気にしてんの？」
恥ずかしそうに、アヤナがこくん、と頷く。
「ふぅん……そうなんだ？」
改めて見ると、確かにアヤナ本人が気にしているとおり、少し大きめの乳首だった。
乳首だけでなく乳輪も大きめなのだが、なにせ乳房そのものがあまりに豊かなので、
バランス的に乳首だけが大きすぎるとは感じなかった。
「やん。ダメえ……そんなにジロジロ見ないで」
思わず両手で胸を隠してしまうアヤナだが、
高校生になって更にサイズを増した彼女の乳房は思いっきり手のひらに余るわけで。
「いや、見ないと分かんないし。それにあんま隠れてないし。でも、そんな大きくは無いと思うよ」
「……ホント？」
「うん。だから……」
“ちゅッ”
「あン！」
アヤナの手をどかせると、マサヒコが乳首を口に含んだ。
ぽってりと熱を帯びた小さな果実を、軽く吸い出す。
「気にすること無いよ、若田部。ココもすごく美人だし」
「やん。乳首に美人なんて、ないでしょ？」
「いや、でも、なんて言うか、若田部の乳首は、大丈夫だよ。可愛くて、美人だって。ホラ」
“ちゅッ、ちゅう〜〜……かに、ぴにっ”
「あ……やン……」
先ほどのフェラチオのお返しとばかりに、マサヒコがアヤナの乳首を吸う。
指先で、摘んでみる。ぴちぴちと、指の腹で弾く。唾液をたっぷりと含ませて、舐める。
ふにふに、と張りがあって大きな乳房を揉む。舌先で、ちろちろと突く。
「あ……ふぁぁ……」
「どう？若田部」
「く……ん……ンンッ、ど、どうって……く、くすぐったい」
「くすぐったい……だけ？気持ち良くない？」

「わ、わかんないよぉ……」
恥ずかしくなってしまったアヤナは手で顔を隠していやいや、と左右に振った。
（可愛い……若田部）
大きな胸がアヤナのコンプレックスなのは、中学生の頃から本人から聞いていた。
心優しいマサヒコは彼女の気持ちを思って、なるべくそこを責めないように我慢していたのだが。
いったん愛撫し始めると、ブレーキが効かずに止められなくなっていた。
“くつ……かにぃ、れろ、くりゅうぅ〜〜〜”
丹念に舐められ、転がされ、吸われた乳首は赤っぽく腫れ、ぷっくりと勃ちはじめた。
夢中になったマサヒコは、かにかにと甘く、そこを、噛んだ。
「ふやぁ……きゃあン……噛んじゃ、ダメえ……」
言葉では抵抗するものの、それはひどく弱々しいだけで―――
逆に、マサヒコの加虐心を刺激してしまうのだった。
“ちゅッ……かむ、かむ、ふみゅ、むにゅ”
しつこいくらいに、アヤナの乳首を責め続けるマサヒコ。そのたびに面白いように彼女は反応し、
背をのけ反らせ、震え、おおきな乳房には玉の汗が浮かび始めた。
§
417 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:38:41 ID:oddVq3bQ
（胸の大きい女の子は感度が悪いって……嘘なのかな？）
某思春期漫画の兄とは真逆の感想を抱きながら、マサヒコはアヤナの中心に左手を伸ばす。

“すッ”
「あ……」
見せつけるようにしていたオナニーのときから、既にそこが湿っていたのは分っていた。
直接触れると、薄く生い茂った恥毛がしっとりと指先に絡みついてきた。
“くちゅ……”
「あ……はぁ」
確認するように。緩く閉じられた裂け目の筋を沿うように。指を、這わす。
小さな声が口から漏れて、アヤナのからだがぶるぶるっ、と震えた。お尻にきゅっ、と力が入る。
口の中に、左の乳首を含んで転がしながら。指先で、右の乳首を弄りながら。
彼女の繊細なそこを傷つけないよう、優しく、なぞるように。何度か左の人差し指を往復させた。
「ン……い……ふぁ……」
「痛くない？若田部」
「だ……大丈夫。気持ち……いいよ」
恥ずかしさと快感に耐えるアヤナの表情を見つめたマサヒコは、
“くちゅう……じゅッ”
「あ！」
一気に、人差し指を裂け目の中に、挿れた。
（あ……若田部の、中、あったかい……）
そこは、明らかに、体の温度よりも、ぬるくて、ねっとりとしていた。
“くにゅ”
「ふいぁん……あ……」
中指も、挿れた。二本の指先を折り曲げるようにして、少しだけそこを広げてみる。

アヤナのからだが、一瞬だけ硬くなった。脚の爪先が伸びて、また弛緩する。
“くちゅッ……くちゅ、ちゅじゅ、ぢゅ”
なでるように――ひろげるように――ほぐすように――ただ、マサヒコはアヤナの中心を、愛した。
「あ……あンぅ……あはぁ……うン……」
初めはぎこちなかった反応も、繰り返しマサヒコに責められるたび、
少しずつ艶やかなものに変化していった。そして中心から、染み出るように、愛液が滲む。

“くちゅッ、ちゅ、ぢゅっ”
柔らかく濡れていたそこは、マサヒコの指先に優しく嬲られて、歓ぶように、小さく、蠢く。
「あぁ……こ……くぼ……ひゃん！……くぅん……」
言葉も切れ切れに、アヤナが喘ぐ。きゅッ、とマサヒコの肩を掴んで、ふわあ、と息を吐く。
（若田部……濡れてる。なら、もう……いいかな？）
流石に若さというものか、彼女の艶姿を見て、マサヒコのペニスはしっかり回復していた。

いったん愛撫を止めて指を引き抜くと、マサヒコは――
“ちょこん”
「！！！」
ペニスの先を、アヤナの裂け目に、触れるように押しつけてみせた。
突然の感触に、驚いて目を見開くアヤナ。
「あの……若田部？もう、大丈夫？」
「う……ウン」
不安そうに、嬉しそうに、愛おしそうに、アヤナが頷く。
「あの……でも、小久保君、その前に……もう一回」
目を閉じて、ねだるように唇を突きだすアヤナ。マサヒコはにっこりと彼女に微笑んで――
“ちゅッ”
唇を、重ねた。そして、ふたりは、もつれるように、絡み合う螺旋のように、抱き合った。

アヤナは、マサヒコのからだに齧り付いた。マサヒコのからだから伝わる、体温。
喜びを感じた。ゆるやかな、恐怖も。しかし、それはどちらも―――
自分自身が、ずっと、ずっと待ち焦がれてきたものだということを、彼女は知っていた。
「私は……ずっと、ずっと、待っていたの。アメリカに行ってからも。帰ってきてからも。
ううん。違う。あなたと……出会ってから、ずっと。待ってた。あなたの……ことを」
「……若田部」
ふたりはもう一回、強く抱き合ってから、少しだけ、離れた。
§
418 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:39:18 ID:oddVq3bQ
マサヒコが、ペニスの先端を敏感な裂け目に触れさせる。ぴくん、とアヤナのからだが震えて強ばる。
既に先ほどから続けた愛撫で、そこは充分過ぎるくらい、潤い、柔らかくなっていた。
「少し……我慢してね？若田部」
「は……はい」

“ち……くち、ぷちちち……”
「あ……う……あ……」
開きかけた裂け目をなぞるように、ペニスの先端を挿し入れていく。
アヤナの口から、痛みと羞恥に耐える、喘ぎ声が漏れた。
（うわ……あったかい……若田部）
思ったよりもずっと滑らかに先端が入ったことに安心しながらも、
マサヒコは熱くぬかるんだアヤナの感触に、思わず溜息を吐いた。
「あ……はい……ったの？小久保君」
「まだ、先の方だけだけど……入ったよ。大丈夫？」
「少しだけ、痛いけど。でも……大丈夫」
「じゃ……ちょっとずつ、深くしてもいい？」
「……うん」
“ぐ……ぐぅち……ずち……”
「あ！ああッ……う、うあッ！」
少しずつ、少しずつ、マサヒコはアヤナの奥へと侵入していった。
途中、少しだけ侵入を阻むような、固いなにかを感じた。
“ち……ち……ずるッ”
「う……ぅあん……あ、いた……痛ッ！ああ」
行く手を阻むそれを押し破ろうと何度か試みるが、
そのたびにアヤナの顔が苦痛に歪むのを見て、マサヒコは躊躇していた。
（えっと……ミサキのときは……）
過去の唯一の経験を思い出し、事態を打開しようとするが―――
“ぎゅッ”
突然、アヤナはマサヒコの背中に、引っ掻くように、爪先を立てた。
「？！で、イテ！」
「……嫌」
「？？どうした？若田部？」
「他のこと考えちゃ……嫌。お願い。なにも考えないで。今は……ただ、私のことだけを……」
「……ゴメン」
素直に、マサヒコは謝った。そして、彼女の弱点である耳元に唇を寄せる。
「きゃ……」
「好きだよ、若田部」
「……」
アヤナは、無言でマサヒコを見つめていた。マサヒコの表情に、嘘は無かった。
彼女には、分っていた。マサヒコが、憐れみや、同情でこんなことをする人間ではないことを。
彼女には、分っていた。マサヒコが、好きだから、分っていた。
さっき彼が躊躇したのは、自分を、大切に思ってくれているからだということを。
「お願い……来て。小久保君」
熱い息を吐いて、アヤナがマサヒコに懇願する。
（これ以上……若田部に）
痛みを、与えたくは、なかった。マサヒコが、無言で頷いて、一気に。
“ぢっつ……ずるぅ、ちくくくく……ぬッ、ずぷぅ！”
「あ！ああッ！！！あぁぁんッ！！んんッ！！」
ペニスを、奥へと突き立てていった。たまらず、アヤナは鋭い悲鳴を上げる。

狭くぬるぬるとした処女口を押し破るように、彼女の叫びをあえて無視して、深く、深くねじ込む。
ぷちり、となにかが裂けるような音を、マサヒコは聞いた気がした。
そして今までそれに堰き止められていた、熱いものが流れるのをマサヒコは感じた。
“ぬッ！ぬう、とろ……”
アヤナの中芯から愛液と破瓜の血が混じって、溢れるように滴り落ちてきた。
ひくつく膣の中の感触を味わいながら、マサヒコは背中に快楽の電流が走るのを感じた。
「あ……うぁ……いたい……ぁあ」
§
419 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:39:52 ID:oddVq3bQ
引きつったような悲鳴は、やがて短く、小さくなっていった。
痛みを耐えるアヤナのつぶらな瞳から、涙が零れる。
“ちゅッ”
「あ……」
マサヒコは、目尻から流れ出たアヤナの涙を舐めた。
その瞬間、ほんの少しだけ彼女のからだから力が抜ける。
（わかたべ……やらかいのに、かたくて……あったかくて）
入り口こそ苦しいくらいに狭かったアヤナの中芯だが、中から奥はすっぽりとペニスを包んでいた。
柔らかな襞肉が絡みつき、先端からは子宮にこつん、と当たる感触がした。
「あぅん、こくぼくん……熱い……あつくて、おっきい……」
生まれて初めて、男を受け入れた痛み。それが愛しいマサヒコであるという歓び。
自分の中に、確かにマサヒコのペニスがあるという熱さと違和感と痛みに、怯え、震えながら――
アヤナは、無意識のうちにそれをきゅいきゅい、と締めつけていた。
「う！う……あ、若田部……気持ちいいよ……すごい、よ……」
「あぁ……今……小久保君、私たち……つながってる？よね？」
「あ、ああ……一緒になってるよ。今……オレたち……」
「うン……小久保君、あついの……熱いよォ……はいって……つながって……あ」
「若田部……もっと、いい？」
「あ……あ、はい……来て。もっと……奥まで……」
“ぐぅ……ぬるぅ〜〜〜、くちゅぅう〜〜”
「あ！あ！はンああぁッ！」
マサヒコが、ゆっくりと、ゆっくりと、ピストン運動を開始する。
ぬるぬるとした襞がそのたびにペニスを擦り、締めつけてくる。
「あ……ン！あ……んァア！……くぅ……」
汗と涙に濡れたアヤナの表情は、やがて痛みから興奮へと変り、
ぎゅっ、とマサヒコに抱きついてきた。アヤナの豊かな乳房にマサヒコの顔がすっぽりと埋まる。
たっぷりと柔らかな感触を顔面いっぱいに感じながら、乳房の谷間にちろちろと舌を這わす。
「あ！やぁあ……ダメ……くすぐったぁい……」
アヤナが甲高い声で応える。マサヒコはそのまま、彼女の腰に手を回してより密着させて、

ぐいぐいと腰の動きを強く、激しくしていった。
“ぐちゅッ！ぱん！にゅちゅ、ぐ！ぐちッ！ぐちゅ”

「あ……あ！あ……うン！あ、はぁ！ん、やぁん」
バストに比べると信じられないほど細い腰を引き寄せ、深く、深くペニスを打ち込む。
アヤナは何度も痙攣するように震え、からだを撓らせる。
“ぐちゅッ！パンッ！くちゅ！ちゅぐッ！”
「ひゃん……！あ、ぃあッ、ひゃう！あはぁッ！ふぁ……ああ」
加速するマサヒコの動きにあわせ、アヤナの声も高く、澄んだものになっていく。
既にその表情は痛みに耐えるものから、とろん、と蕩けたものへと変わっていた。
唇が甘く戦慄き、吐息は艶やかで絞り出すような音へと昇華しようとしていた。
「あン！あッ！やだ……もう……あ……」
「若田部……ああ……いいよ。お前ン中……すごく、気持ち、イイ」
「あ……や！あ！わ、私も……私も……あッ！！でも……ダメ、私……」
アヤナは、高みへと―――昇りつめようと、していた。
擦られ、抉られ、埋められ、打ち込まれて――我を忘れ、喘ぎ声をあげて、からだを、揺らす。
“ぐちゅッ！ぷッ、ぱん！ぶぷッ！”
「あ！くぅ、ウん！あッ！あぁ――――ッ！！！」
（あぁ……あ……あ……わたし……あ？ああ……）
マサヒコより一足先にアヤナは、生まれて初めて、達してしまっていた。
歓びと怯えとが混じり合った声を洩らして、啜り上げるように、泣いた。
“くきゅうううう……！！！”
「あ！若田部、いきなり、そんな！！！！」
マサヒコに縋りついて、激しく波打つアヤナの肉体。同時に膣奥がペニスを思いっきり締めつけた。
「あ……は、ああああン！」
マサヒコの言葉も耳に入らないアヤナは、忘我のままマサヒコの腰に脚を絡める。
“きゅう……きゅ、きゅうう……”
§
420 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:40:29 ID:oddVq3bQ
アヤナの中芯が、繰り返し、繰り返し収縮する。
ペニスだけでなく肉体の全てが包まれたまま、奥まで引っ張られるような錯覚を感じながら、
「あ……ああ……わか　　たべ
あ」
マサヒコは、熱く青い飛沫をアヤナの中で破裂させた。
“ぴゅ！どおぷ、どくッ！ぴゅぶッ！！”
「あ……ああ！熱い！熱いの、来てる！あぁン……小久保……くうん……はぁっぁああ
あ！」
透明な悲鳴を上げながら、アヤナは自分の奥まで精液が浴びせかけられたのを感じていた。

「あ……若田部……あ……ゴメン……オレ……あ……」
あまりの快楽に、危険を避けられなかったマサヒコはがっくりと肩を落しながら―――
ペニスを引き抜くことすらできず、何度も、何度も、最後まで。精を、アヤナの中に迸らせていた。
「いい……小久保君……謝らなくて……いいから」
「でも……」
「いいの……私が、望んだことだから。これは、私が思っていた……ことだから」

そう言って、アヤナは細い腕をマサヒコに巻き付けてきた。
マサヒコも、優しく彼女を抱き返した。からだとからだがぴったりと、くっつく。
肉体と肉体の間を、互いの体温と思いで、埋める。
ふたりは、言葉すら忘れ、そうしていた。ふたりは、ずっと———ずっと、そのままでいた。
なにを話すでもなく、ただ、抱き合って———そのままで、いた。

「……なんで」
ようやく、小さな声でアヤナが呟く。それが、自分の声なのか最初は分らないくらい、小さな声で。
「？どうしたの、若田部」
「ううん、なんでもない」
アヤナは、なぜ自分がマサヒコのことを好きになったのか、思い出していた。
それは、自覚したことさえないくらい自然な感情で、逆に思い出す必要もないようなことだった。
ふとした彼の仕草、彼の肉体、彼の表情を見るたびに、アヤナは安心できたのだ。
それは、マサヒコと自分が間違いなく同じ魂と同じ肉体でできているという、確信だった。

勝手な思いこみかもしれないが、いつもそう、アヤナは思っていたのだ。
ふと、なぜかひどく寂しい気持ちになって、アヤナは彼からからだを離し、シーツで顔を隠した。
「……」
彼女の様子をじっと見つめていたマサヒコは、ぽん、とアヤナのつむじのあたりに手を乗せた。
アヤナはシーツから顔を出して彼の横顔を見あげた。マサヒコは、もうアヤナの方を見ていなかった。
ずっと、部屋の天井を見つめていた。優しげで、照れくさそうで、そしてどこか物憂げな———
アヤナが、ずっと愛してきた、マサヒコの表情だった。
髭が薄くて睫毛の長い人だ、となぜか改めて思った。
手は、まだアヤナの頭のうえに置かれたままだった。
その手の温度は、やはり自分の温度と似て、少しだけ冷たくて、少しだけ温かかった。
ふたりの心の温度と同じく、似通った温度をしていたように、アヤナは感じられた。
「————」
突然、アヤナの双眸から涙が零れた。
彼女自身も、いつから泣き出してしまったのか分らないほど、唐突な涙だった。
しかし———マサヒコは、全く慌てていなかった。むしろそれを予期していたかのように、

当然のように、アヤナを抱き寄せた。
（気が付かなければ……良かったのに……知らなければ……良かったのに）
マサヒコのことを知らなければ。マサヒコと出会わなければ。
なにより、彼のことを愛しているという、自分の感情に気付かなければ。
こんなに苦しむことは、なかったのかもしれない。
それは、親友であるミサキを裏切った事に対する後悔でも、贖罪でも、なかった。
もう、アヤナは知ってしまったのだ。マサヒコがいるということを。彼の肉体を。彼の魂を。

アヤナは、泣き続けながら、マサヒコに抱きついた。彼の体温を、もう一度感じようとして。
怖かった。アヤナはただ、怖かった。
ふたりのからだが離れてしまうときのことを想像するのが、怖かった。
「……手」
「え？」
「手を、つなごう、若田部」
§
421 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:41:00 ID:oddVq3bQ
「……うん」
ぎゅっ、と強く手を握った。手の温度よりも先に、彼の手のひらの汗を感じて、アヤナは驚いた。
なぜか、マサヒコは汗をあまりかかないような気がしていた。
しかし、その汗は、マサヒコのだけではなくて、アヤナの汗も混じったものだということに気付いた。
ふたりは、ひどく、たくさん、汗をかいていたのだ。夜の冷気が、少しだけその汗を冷やした。

マサヒコは、すやすやと寝息を立てているアヤナを見つめていた。
頬に涙の痕が残っていた。泣き腫らしたせいか、目元が少しだけはれぼったかった。
（……オレは）
結局、アヤナと関係を持ってしまったことに、マサヒコは意外なほど冷静でいた。
アヤナを起こさないよう、慎重に、握っていた手をほどいた。
それでも、なんとなく彼女は手をほどかれたことに気付いているような気がしていた。
静かに、マサヒコはアヤナの髪の毛の匂いを、嗅いだ。
清潔で、ふわりとした香り。アヤナの香りと混じって、それはひどく華やかな薫りをしていた。
（……やっぱり香水？なのかな？）
化粧品について知識をほとんど持ち合わせていないマサヒコでも、
アヤナのその香りが高級なものであることは、分った。
押しつけがましくなく、それでいてきちんと香りを主張してきた。
アヤナの汗の匂いに混じって、肌に馴染んで、つけているということを感じさせなかった。

＜「ねえ、マサちゃん？」＞
＜「なに？」＞
＜「私が―――マサちゃんのこと、すごく好きだってこと、知ってた？」＞
なぜか、マサヒコは少し前に。アヤナが帰ってくる前に、ミサキとした会話を思い出していた。
ミサキは、幸せそうだった。満ち足りていて、楽しそうで、少しだけ、照れていた。
知ってるよ、とマサヒコは答えた。
＜「嘘」＞
＜「こんなことで、嘘をついても仕方がないだろ？」＞
＜「ううん。そういうのじゃなくて。私はね……今、知ってることじゃなくて」＞
それ以上なにかを言おうとして、ミサキは言葉をなおも探していたが、
結局諦めてマサヒコに抱きついてきた。
＜「いいや。えへ……大好きだよ、マサちゃん」＞

マサヒコの胸元で、くすぐるような吐息をかけながら、ミサキが囁く。
オレもだよ、そう言いながら、マサヒコはミサキのワンピースをめくって、ブラを脱がせた。
小さくて、可愛らしい蕾のようなミサキの胸に顔を埋める。
ミサキの肌からは、香水の匂いはしなかった。フレグランスか、シャンプーのような、控えめな匂い。
生まれたての乳飲み子が発するような、甘い匂いだった。
アヤナの肉体と匂いは大輪の薔薇を思い出させたが、
ミサキの香りとからだは、名もないが可憐に咲く、雑草のような花を思い起こさせた。
アヤナの匂いはマサヒコをひどく興奮させたが、ミサキの香りは温かく包んで安心させてくれた。
ミサキは、何度も声を出した。マサヒコのことを、好きだと言った。
アヤナも、声を出した。小さな叫び声のようなその声は、澄んだ、細くてきれいな声だった。
ふう、とマサヒコは息をついた。ふたりを比べていることに、罪の意識を抱いていた。
なにより、自分がひどく醒めた頭でそのことを考えていたことに、マサヒコは困惑していた。

ミサキ、と口の中で呟いた。何の感情もなく、ただ、ミサキ、と思った。
若田部、と思った。出来る限り単純に、ただ若田部、と心の中で呟いた。
（オレは―――）
冷たい人間なのだろうか、優柔不断な人間なのだろうか、それとも多情な人間なのだろうか、
そう、マサヒコは思った。どれでもありそうで、どれでもないような気がした。
ただ単に、自分はからっぽな、なんの中身もないだけの人間のような気がしていた。
（……先生）
唐突に、アイのことを思い出していた。なぜか、分らなかった。
アイは、マサヒコのことを、慰めてくれるだろうか？叱るだろうか？怒るだろうか？悲しむだろうか？
そんなことを思いながら、マサヒコは、ひたすらアイのことを、思い出していた。
（せんせい……先生。センセイ）
何度も、何度も。無意味なくらい、呟いていた。マサヒコは、虚空に向かって、ただ。

（続く）
422 名前： 郭×伊東 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/03/07(水) 22:42:49 ID:oddVq3bQ
今回は以上。ダラダラは芸風だ！！！と開き直ってみたり

すいません、嘘です。
やっぱ私エロ書くの、向いてないっすよ～～～と、今更ながら撃沈。
次回は文化祭本番、ただしエロなし若干修羅場あり、みたいな予定。では。
423 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/08(木) 00:09:18 ID:Z+gTgUlQ
GJ！！OP 戦にあわせたかのようなエースの調整登板、
楽しませてもらいましたぜ。エロくて切なくて相変わらず豪速球っした！

昨日久しぶりに保管庫で郭氏のSS読みあさってたら
氏のディープなパヲタぶりに昇天
424 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/08(木) 00:11:34 ID:r0fGvDmw
郭×伊東氏ＧＪ!!!
次は修羅場か
楽しみにしちょります
425 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/08(木) 01:01:34 ID:hJradXDq
エース乙！
426 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/08(木) 12:16:42 ID:X+h8waVn
いまかいまかと待っちょりました
ジャイロＧＪ！
427 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/03/08(木) 14:54:09 ID:Zq9plzjx
郭氏乙です！
久々のマサアヤに心踊りましたｗ
428 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/09(金) 02:47:30 ID:nxUXBCeE
この独特の「ちょっと暗いエロス」がたまらない
429 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/09(金) 12:26:36 ID:DOttlukJ
もうこの際マサはスクイズの伊藤誠並にぶっ壊れて良いよ
430 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/09(金) 18:10:28 ID:Csr8i7CB
マサハーレム、シンジハーレム、ヒロキハーレム
明るくやらしいさっぱりとした氏家ＳＳハーレムワールド
431 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/10(土) 16:37:17 ID:cRYzSKEz
性豪マサヒコ
432 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/03/10(土) 23:42:47 ID:6ww588xZ
職人の皆さん、古田氏、お疲れ様です。
あかほんでホワイトデー、小ネタです。
スルー対象ワードは「エロ無し」「アルコール」「駆け足気味」です。
題は「オトコを見せる日」でお願いします。
433 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/03/10(土) 23:44:08 ID:6ww588xZ
　ホワイトデー。
バレンタインのお返しをする日。
そして、男が「オトコを見せる」日である。

「ヒロくーん、今日は何の日だか知ってるー？」
「今日……？」
　シホの言葉に、ヒロキは少し首を捻った。
今日はテレビの撮影も雑誌のインタビューもないし、イベント出演の予定も入っていない。

「えーと……」
　ヒロキはカレンダーを見た。
そして、今日の日にちを確認し、そこで改めて気づいた。
「ああ、ホワイトデーか」
「そうそう、ホワイトデー」
　何かを期待するかのような表情で、シホがヒロキの顔を覗きこむ。
その顔と、わざわざ今日という日の意味を聞くという行為からして、

魂胆はミエミエであるが、この辺りのわかりやすさが、飯田シホというアイドルの魅力でもある。
「で、ヒロ君は何をお返ししてくれるの？」
「お返し、ねえ……」
　今から一ヶ月前のバレンタインデー、シホがヒロキに渡したのは、
コンビニで売られている一枚百円ちょっとのありふれた板チョコだった。
「……マク〇ナルドのセットくらいなら」
「ぶーっ、何よそれー」
　一転、ふくれっ面になるシホ。
「アイドルからチョコを貰ったんだよ、ばばーんとお返しするのがオトコってもんじゃないの？」
「ばばーん？」
「都心が見渡せる高層ビル最上階のフレンチレストランで高級ディナーとか、ブランドもののバッグとか」
「義理の板チョコに何でそこまでせにゃならん」
「義理とかチョコの値段とか関係ない、アイドルから貰ったってところに絶大な価値があるの」
　シホは両腕を腰にあて、自信満々に言い切る。
成る程、確かに現役アイドルの手渡しチョコレートともなると、それなりに価値はつく。
だが、そうは言ってもヒロキとシホはマネージャーとその担当アイドルでしかなく、別に恋人関係でもなんでもないわけだし、
ホワイトデー三倍返しの法則（どこの誰が言い出したのやら）に則っても、
義理の板チョコ一枚に高級ディナーやらブランドバッグはあまりに高価過ぎる。
「お兄ちゃん、私にも私にも」
「……私も確かあげましたよね」
「二人まで、そんな」
　ユーリがヒロキに渡したのは、例によって股間が元気になるチョコレートであり、
カルナは一応ゴ〇ィバのチョコなんぞをくれたわけだが、そのほとんどをシホに食べられてしまった。
やはり、高級ディナーやブランドものを返すには程遠いバレンタインチョコである。
434 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/03/10(土) 23:45:23 ID:6ww588xZ
「あ、私もあげたじゃん」
「私も」
「そーいや私も」
「……急に顔を出さないで下さいよ、皆も」
　社長の柏木レイコ、事務の三瀬エリコ、そしてTBの先輩にあたる小池マイが続いてひょひょいと立候補（？）。
「私たちもホワイトデーのお返しを受ける権利があるわよね」
「社長まで威張って言わないで下さい」
　レイコがヒロキのあげたのは、営業回りに配ったチョコの残りであり、
小池マイのチョコもドラマの撮影先で配ったものの残り。
唯一、三瀬エリコだけが手作りチョコだったが、こちらは事務所全員に配られた義理チョコ。
エリコの手作りチョコはともかく、営業贈答品と外面確保のために配られたチョコの余りにお返しを要求されては、
ヒロキとしてもたまったものではない。

「カンベンして下さいよ、ホント」
「あーら、ここはオトコの株を上げるために太っ腹なところを見せておきなさいよ」
「そうそうヒロティー、オトコは細かいこと言わないの」
「お兄ちゃん、お返しお返しー」
「……三倍返しとまでは言いません、二倍返しで手をうちます」
「ね？　皆こう言ってるじゃん。ドピュッとホワイトデーでホーシュツドロドロにしちゃいなよ！」
　自分勝手な理由を口々に、ヒロキに迫るレイ・プリンセス芸能事務所の女性陣。
三瀬エリコですら、モノ欲しそうな瞳をウルウルと輝かせてヒロキを見つめている。
「わ……わかった、わかりましたよ！」
　ついに音をあげるヒロキ。
多勢に無勢、さすがに敵いようが無いと悟ったわけだが、これは正しい判断だと言えよう。

「あとで何かお返ししますから、許して下さい！」
　ここで下手に逆らえば、後々さらにトンデモない要求を突きつけられかねない。
「ホントー？　ヒロ君」
「あ、ああ」
「約束だよ、約束っ！」
「はいはい……」
　シホに無理矢理小指を引っ張られ、ヒロキは強引に指きりげんまんをさせられた。
脅迫紛いのことをしておいて約束もクソも無いだろう、という言葉を、ヒロキは喉の奥でぐっと飲み込む。
「やれやれ……とにかく、出かけてくるから話は帰ってからしよう」
「え、今からどっか行くの？」
「今度のグラビア撮影の件で、少し向こうさんと話を詰める必要があるんだよ」
「とか言って、そのまま逃げないよね」
「……逃げないよ」
　風貌こそキンパツロンゲでチャラチャラしているように見えるが、ヒロキは実のところ、

かなり仕事に対しては真面目である。
小さい仕事にも手を抜かず、ＴＢのバックアップを無難に果たしている。
逆に言えば、隠れてズルをするだけの要領の良さがないわけであり、
その点を、レイコやシホに「オトコとして大物感が無い」と指摘されることがある。
もっとも、彼女らはヒロキが変にスケールが大きければ、
それならそれで「いい加減だ、目立ち過ぎだ」と怒るだろうが。
「約束だからね、お返し！　ドピュッとだからね！」
「……」
　シホ、ユーリ、カルナ、そしてレイコにエリコにマイ。
彼女らに見送られ、ヒロキは事務所のドアを開けた。
背中に突き刺さる期待の眼差しと、自分の溜め息の大きさを感じながら。

◆　　◆

435 名前：　ピンキリ　◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日：　2007/03/10(土) 23:46:57 ID:6ww588xZ

　収穫はあった。

ヒロキは充足感を胸に、事務所への帰路についていた。
撮影内容について、向こうのカメラマンとやや意見の食い違いがあったが、
最終的にはヒロキの言い分を聞いてもらえることになったのだ。
カメラマンは「ティーンズの青い色っぽさ」を前面に押し出したかったようだが、ヒロキは納得出来なかった。
ＴＢの現状と掲載雑誌の読者層を考えて、もう少しソフトにしてもらえるようにと短時間ながら必死に交渉、
そしてそれが見事実ったわけだ。
「ただいまー」
　事務所に戻った彼の鼻に、かぐわしい香りが漂ってきた。
食欲をソソる、いい匂いが。
「……な、何だ？」
「あっ、ヒロ君お帰り～」
「……シ、シホちゃん？」
　ヒロキは驚いた。
シホの頬が、真っ赤に染まっていたからだ。
明らかにそれは、アルコールによるものだった。
「ちょ、どうしたんだよ！」
「んん～、ごちゅそうさま」
「ご、ごちそうさま？」
　しがみついてくるシホを引き摺りつつ、社長室の中へとヒロキは突入した。
「……」
　で、絶句。
ヒロキの眼前に広がるのは、机に散乱した空の皿、床に転がるワインの空き瓶。
「こ、これは……」
「おお、お帰り井戸田」
「しゃ、社長！」
　大きくはだけられた胸元、そして妖しく光る唇。
実に色っぽい格好のレイコだが、ヒロキは構わずに問いただしにかかる。
「ど、どうしたんですか、これ！」
「あー、ホワイトデーよホワイトデー」
「ホ、ホワイトデー！？」
「そう。で、ごちそうさま」
「な、ご、ごちそうさまって……」
　ここでヒロキは、唐突に思い出した。
先日、ＴＢが出演したテレビ番組の内容を。
最近話題に上っている料理店を、タレントが突撃取材するという流れで、
ＴＢの担当はケータリングをやっていることで評判の高いフレンチレストランだった。
436 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/03/10(土) 23:48:17 ID:6ww588xZ
「ま、まさか」
「はい、これ」
「うえぃ？」
　レイコが差し出した紙を、ヒロキは反射的に受け取った。
「領収書」
「りょ、りょうしゅうしょ？」
　そこに書かれていた店名、それこそ、まさにそのフレンチレストランのもの。

そして、その下に書かれている名前と、金額を見て、ヒロキは仰天した。
「は、はわわわわわわ！」
　ヒロキはへたりこんだ。
自分の名前と、一ヶ月分の給料に匹敵する額のケータリング代が、
ボールペンによってハッキリと書き込まれている。
「やっほ〜、ヒロティー♪」
「うふふ、うふふふふふっ」
　領収書を手に、膝立ちで硬直するヒロキ。
そんな彼に、背後からマイとエリコがしなだれかかる。
「おいしーフレンチとおいしーワイン、ごちそーさま」
「うふふふ、ふふふふふ、ふふふふ」
　二人とも頬が朱に火照っており、相当に酔っ払っているのは一目瞭然である。
「やー、ヒロティーもサイコーね！　よっ、太っ腹！」
「うふふふ、うふふふふ、ふふふふ」
「ヒロくん、ヒロくん、ヒロくぅーん」
　シホはヒロキにしがみついたままで、まるで仔猫のように喉を鳴らしながら、その胸に頬を摺り寄せている。
マイはヒロキの頭を抱えて自分の胸に押し付け、
エリコはエリコでヒロキの右肩に頭を預けてひたすらうふふと笑うのみ。
「……」
　美人と美少女に密着され、男なら歓喜のあまり泣いてもおかしくない図であるが、
ヒロキの目から零れ落ちる涙は、喜びのそれではない。
「やあ、いいホワイトデーになったわね」
　ワインが満たされたグラスを掲げて微笑むレイコ、その背後では、
ユーリとカルナが抱き合うようにしてソファーで眠っている。
「ヒロティー、ごちそーさまーっ！」
「うふふふ、うふふふふ、ふふふふふふっ」
「ヒーロくん、ヒロくーん、ヒーロくぅーん♪」
「シホは一杯だけだし、ユーリとカルナは飲んでないから、ま、安心してちょうだい」

　ヒロキは動かない。
真っ白に燃え尽きたかのように。
あまりに大きなショックを受けた時、人はしばらくの間、衝撃で体を動かすことが出来なくなるというが、
今のヒロキは、まさにそれだ。
「……」
　と、小田が社長室へと入ってきた。
その手には、フォークと、料理が盛られた皿がある。
ヒロキの姿を確認すると、小田は皿とフォークを机の上に置き、
ヒロキに向かって手を合わせ、小さく一礼した。
ご愁傷様、いや、いただきますという風に。

　ホワイトデー。
バレンタインのお返しをする日。
そして、男が「オトコを見せる日」である―――多分。

Ｆ　Ｉ　Ｎ

437 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/03/10(土) 23:49:03 ID:6ww588xZ
以上です。
次こそハッピー（セックス）ライフの続きのマサ×ミサキ＆アイ＆アヤナ＆リンコで。
438 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/11(日) 07:57:14 ID:7p0xw5dE
ピンキリ氏ＧＪです
久々のあかほんネタがうれしかた
439 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/11(日) 17:40:42 ID:XGaOXxKE
では次に進む↓
440 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/12(月) 07:51:36 ID:j7IORRa0
静かな週末だった…
441 名前： ルーク ◆Wixlu9loZM [sage] 投稿日： 2007/03/12(月) 13:40:56 ID:uY8vBXxh
２　２００６　６／９　１９：１５

「じゃあルール説明の続きよ。みんなには出発する時にデイパック渡すっていうのはさっき説明したわね。
その中にはあなたたちの戦いをサポートする武器も入っているの。
もちろん武器といってもナイフとかじゃなくてアダルトグッズよ。
会場内で調達してもいいけど、基本的には支給された武器で戦ってね」
満足そうな様子で小宮山が武器の説明をする。
「さて、これから出発だけど、何か質問はあるかしら？」
小宮山が全員を見渡すのと同時に、ある一角ですっと手が伸びていた。マナカだった。
マナカは相変わらず不機嫌な様子を隠そうともせず小宮山を睨み、
小宮山は小宮山で嫌味なぐらいの余裕をマナカに見せ付けている。
だが、そのマナカの口から発せられた言葉は、ある意味とんでもない言葉だった。
「私の貞操帯は、どこにやったんですか？」
その言葉はむしろ加藤や坪井といった教師陣に衝撃を与えていた
（マリアも驚いたような表情をしていたが、彼女が受けているショックはまた違った類のものだろう）。
いつも通りのおだやかな口調で、それでいて怒りのこもった声。
それは普段小宮山に喧嘩を売られたときの声そのものだった。
「あー、あなたの貞操帯ね。あれはゲームを進めるのに有利になりすぎちゃうから、悪いけど外させてもらったわ。
それで、皆さんに朗報です。その黒田さんの貞操帯はこれから支給される武器の中に混ぜました。
まあ、それを黒田さんが引いてしまう可能性もあるけどね」
小宮山が誇らしげにデイパックを一つ掲げ、マナカの方を嫌みったらしく見た。
両者のにらみ合いはマナカが渋々席に着いたことで終わりを告げ、再度小宮山によるルール説明が始まった。

442 名前： ルーク ◆Wixlu9loZM [sage] 投稿日： 2007/03/12(月) 13:44:13 ID:uY8vBXxh
「最初の出発者は私がくじを引いて決めるわ。選ばれた人から名前のあいうえお順で２分感覚の出発よ。
そして、最初の人に出発してもらう時間は、覚えやすいようにシックスナインでイクイク

よ。
今日は６月９日。今の時刻は午後７時１７分。あとちょうど２分で
最初の人の出発ね」
　その２分はあっという間に過ぎた。小宮山は時間を確認すると、
テーブルの下から茶封筒を取り出した。
慣れた手つきで上の部分をハサミで切り取り、しばらく中をまさぐってから一枚の紙を取り出した。
　「じゃあ、最初の出発者は９番の城島シンジ君に決定。
そこから先は２分感覚で番号順に１人ずつよ。
早速だけど城島、デイパックを受け取って出発してね」
　アキの隣でいささか大げさな音を立てて城島シンジは立ち上がった。
一歩一歩前に進むその足取りはアキの、そして何よりシンジ自身の緊張のせいか震えているように見えた。
参加人数とほぼ同数だけ存在するデイパックの山までシンジが歩み寄ると、マリアがそれを手渡した。
　「あっ、出発する前にここでみんなに誓いを立ててから行くのよ」
　思い出したようにそう発言した小宮山の言葉を聞き、部屋から出て行こうとしていたシンジの足が止まった。
小宮山はそれを確認すると改めてマイクを取り、スイッチを確認して声を上げた。
　「私達はイカし合いをする。入れなきゃ入れられる」
　シンジや、アイの表情が引きつるのが見えた。当然だ。
アイは知らないが、シンジはまだ初体験を済ませていないと以前カナミが言っていた。
まさか、こんなゲームで童貞を失う可能性が出てしまうなんてシンジは思ってもいなかっただろう。
　「俺達はイカし合いをする。入れなきゃ入れられる」
　羞恥プレイ級の言葉を何十人の前で言わされ、シンジの顔が赤く染まっていた。
普段自分が家に遊びに来ている時ですらＡＶを見ているある意味とんでもない男であるシンジですら、この言葉には抵抗があるようだった。
そしてみんなから目を逸らすようにして部屋の出入り口の方を向き、ようやく出て行こうとしたまさにその時、またもや小宮山が彼を呼び止めた。
　「そうそう、さっきの『入れなきゃ入れられる』って言葉だけど、男子だから関係ないって訳じゃないのよー。
私が過去に受け持った奴でも…。おっと失敬。余計な事を喋っちゃったわ」
　「アンタ前からこんなことやってたんか！」
　アキとシンジの見事な突っ込みのハーモニー。
シンジはそのツッコミの余韻を少しだけ残しつつ部屋を後にした。

　２００６　６／９　１９：１９　試合開始

443 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/12(月) 23:14:42 ID:yvwi+Hzn
ｗｋｔｋ
444 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 00:14:53 ID:2tltjsci
ロワイアルキター
期待してます、GJ！
445 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 15:38:06 ID:U8NjDC0g
＞ピンキリ氏

乙、なんですが少しコンパクトすぎる印象も受けました
氏の他のネタもそうですが、上手にまとまりすぎているためか、
他の職人諸氏より色や味が薄くなっているような感があると浅薄な身で失礼ながら愚考しました

＞ルーク氏
乙です
まだまだ序盤みたいですが、とても先が楽しみです
期待しています
446 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:31:01 ID:Tm4e9Wdj

　トマソンです。

しばらく間が空きました。
このところ異動やら何やらでばたついています。

さて、シンジの夢十夜、その第７回。
ミホ編です。

では投下。

447 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:32:14 ID:Tm4e9Wdj

　こんな夢を見た。

　その時、シンジはむしゃくしゃしていた。つまらないことがいくつか重なり――朝は宿題を忘れて小宮山先生に説教され、昼は緒方先生には服装について重箱の隅をつつくような注意をされ、挙句の果てに夕方には、ズボンのチャックが開いていたためマナカに散々からかわれ――それぞれはまったく大したことではないのだが、小さなことが積み重なり、散々な気分で高校の門を出たところだったのだ。
　そこへ、シナをつくって誘うような視線をぶつけながら、栗色のロングヘアを風にたなびかせた可愛らしい女の子が声をかけてきたのだった。
「千円で私を抱きません？」

　普段のシンジなら、軽くスルーしたろう。おまけにこの娘――名前は知らないが――には以前、階段の上からフライングボディアタックを食い、全治一週間の怪我を負わされたことがある。君子危うきに近寄らず、だ。
　だがこのときのシンジの心理状態は君子どころか、まともではなかったのだ。

（――飲む打つ買うは男の甲斐性と言うし、こういうときは買うのもいいかもな――）

　こっそり財布を確かめると、一万円札が一枚。
「細かいのがないんだけど、いいかな？」
「えっ……あ、はい……お釣りはまた今度でよければ……」
　その娘、叶ミホのほうがびっくりしてしまった。下駄箱ラブレター作戦、階段上からのドジッ娘アピール・フライングボディアタック作戦、図書室での書庫からシャワー作

戦をはじめ、あれだけあの手この手でアタックしてみて効果がなかったのに、いきなり体の関係をＯＫされたのだから無理もない。

　といってもあたりは住宅地で、ホテルなどない。城島家には妹のカナミがいるということで、二人は叶家でプレイすることになった。叶家の共働きの両親はもうしばらくは帰ってこない。
「お邪魔します……」
　ミホの家に上がりこみつつ、今更ながらシンジは少々後悔していた。見ず知らず――でもないが――の女の子との援助交際、それも同じ高校の後輩とエッチというのは、後腐れがないとは限らないし、第一、違法行為である。
　だが、ミホの部屋のベッドの上に腰を落ちつけ、隣にミホが座ったとたん、そんな思考はどこかへ飛んでしまった。

448 名前：　トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日：　2007/03/13(火) 22:33:16 ID:Tm4e9Wdj

（かっ……可愛い……）
　思わずシンジが見とれるほど、改めて眺めるミホは美しかった。
　しっとりと栗色に輝く豊かな髪の毛は見事なまでにストレートで、一本の枝毛もない。ほっそりした指先は一つ一つの爪の隅々まで丁寧にマニキュアがなされている。控えめな化粧はあくまでも自然に素材を生かし、健康な肌の色を強調していた。睫毛も眉毛も綺麗に整えられ、形のよい二重のまぶたに囲われたこれも栗色の瞳は、はかなげに潤んでシンジを見つめている。
　ミホの体は隅から隅まで手入れが行き届き、いかにもマメに美容に気を使っているのがはっきり伺えた。この体をこれから裸に剥いて肌を合わせると思うと、シンジは鼓動が高鳴るの抑えようもなかった。

「城島……先輩」
　一方のミホも、もう頭が真っ白になりそうだった。ずっと長いこと想いを寄せていた男性が、すぐ隣に腰かけ、自分を抱いてくれようとしている。あとは、このときのために磨いてきた性技を――小宮山とマリアに教わった点が不安ではあったが――生かし、誠心誠意、奉仕するだけだった。
「え、えーと……まず、なんて呼べばいいかな」
「ミホ……です。叶ミホです」
「ミホちゃんね。それじゃ……いいかい？」
　そっと腕を体に回されただけで、ミホの頭はオーバーヒートした。
「……せんぱ……い……」
「むっ、むぐ……」
　シンジが驚いたことに、ミホのほうからシンジに強引に唇を合わせてきた。勢いのままに自分よりはるかに大柄なシンジをベッドに押し倒すと、柔らかな舌をシンジのそれに絡み合わせる。粘膜と粘膜が濃厚に密着しては離れるうち、二人の唾液が混ざりあい、ぴちゃぴちゃと淫靡な音を響かせた。
　シンジもまた、熱烈な先制攻撃を受けて一気に気分が盛り上がった。ようやく口が離れた隙に、遅れをとるまいとミホの胸に手を伸ばす。
「ああ……先輩……」
　制服の上から強引に揉みしだく荒々しい手のひらを、ミホは目を閉じて受け止めた。
　やがて、シンジがミホの制服のボタンを外しはじめる。ミホもまた顔を赤らめながら

も、ひるまずにシンジのボタンに手を伸ばす。みるみるうちに、二人は互いに素肌を晒していった。

449 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:38:53 ID:Tm4e9Wdj

　裸に剥きあげたミホの体は、見事に均整が取れていた。そして見た目もさることながら、この感度はどうだ！
「あっ……あっ……はぁ……」
　適度に熟れた、開発途上を思わせるミホの体は、可愛らしく息づくピンク色の乳首を指先で転がされるだけで、ピクンピクンと震えた。脇腹を抱き寄せるだけで甘い吐息を漏らす敏感な体は、どこに触れても、そこの素肌があっという間に桜色に上気させてゆく。シンジは調子に乗ってすべすべの肌を撫で回した。
　やがてすっかり全身を上気させたミホは体を起こした。
「……せ、先輩……先輩も……気持ちよくなってください……」
　攻めに回ったミホは献身的だった。シンジの全身にマッサージ風の愛撫を加え、耳たぶに吐息を吐きかけ、首筋へはキスの雨を降らせ、全身に唇を滑らせ――ミホは知る限りの手練手管の限りを尽した。
　そのテクは、さしものシンジも驚くほどだった。なかでも、シンジを仰向けに寝かせておいて彼の胸――たくましいというには少々薄い――に『の』の字を描いて白魚のような指を滑らせ、可憐な唇でシンジの乳首を吸いながら、もう一方の手のひらでもうすっかり怒張した男根を優しく愛撫する合わせ技には、シンジもすっかり追い上げられてしまった。

「ミホちゃん……俺、もう……我慢できない」
「あっ……」
　たまらなくなったシンジがミホの体を組み敷く。すらりした両脚を割り、その間に腰を落ち着けたシンジの眼前に、ミホの全てが広がった。
「ああ……恥ずかしい……」
　ミホがあまりの羞恥に両手で顔を覆うのも構わず、蠱惑的な眺めを晒した秘奥にシンジはそっと指を忍び込ませてゆく。やはり栗色の陰毛はこれも綺麗に手入れされ、密やかに息づく花びらを覆い隠すにはあまりに小さい茂みだった。やわやわとデリケートな花弁のあわい目をあばくと、すでに露をためてテラテラと光る、真っ赤に熟れた襞々が覗いた。
（あのテクといい、結構、経験は多いのかな……？）
　その色合いにそんなことを思ったシンジだったが、強烈な誘惑の前に、そんな冷静な思考はあっという間に溶けてしまった。眼前に余すところなくあらわになった女体は、そっと挿入した指一本ですら、あまりにもきつく締め付けてくる。こみあげてくる欲望をシンジはなんとかこらえ、指をほんの少し上にずらした。
「いい眺めだ、ミホちゃん……ここはどうかな？」
「あああーっ……」
　敏感な肉芽をつまみ出され、ミホの体が跳ね上がった。ぺろんと皮を剥くと、これもまた赤く熟れた芽が顔を出し、強烈にシンジを誘った。
(……挿れたい！）
　シンジはあっさりと我慢の限界に達した。いささか慌て気味にコンドームを装着すると、ぐいと腰を落とし、位置を合わせて改めて少女の体に覆いかぶさる。
「ミホちゃん……いくよ……」

「ああ……せんぱ……い……」
　頼りなげに目を閉じ、来るべき挿入を待って体をこわばらせる少女の表情に見とれつつ、シンジはゆっくりと腰を押し出す。痛いほどに張り詰め、毒々しく血管を浮かび上がらせた男根が、ミホの体を貫いていった。
「……せんぱ、い……いたっ……あーっ！」
　奇妙な硬さを持った熱いものが侵入してくる鈍い痛みに、ミホの整った顔がゆがんだ。
450 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:41:59 ID:Tm4e9Wdj

（――ん？）
　少女の体に暖かく包まれ、陶然となりながらも、シンジは多少の疑問を感じていた。
　挿入の際のはっきりした抵抗感。あれほど積極的だったミホが、挿入したとたんにマグロ状態になり、シンジにしがみつくことしか出来ずになすがままにされていること。そしてなにより、呆然としたような、それでいて時折痛みをこらえて顔をしかめるようなミホの表情。
（まさか……初めてだったわけじゃ、ないよな……）
　ミホの体はかなり開発されて真っ赤に熟れていたし、第一、援助交際を持ちかけておいて処女であるはずもない。
（――遠慮はいらないはずだ――うん）
　疑問を振り払ったシンジは、欲望のままに腰を振り始めた。おのれの分身をきつく締め上げ、絡み付いてくる肉壷を存分に味わいながら――ゴム越しのために感覚が鈍くなっているのがもどかしい――思い切り突き込んではこつんと何かに当たる感触を楽しみ、ゆっくりと引いては膣の内壁をこすりあげる。
「あっ……ひっ……う、うあっ……」
　息も絶え絶えになってそれを受け止める、ミホの悲鳴ともあえぎ声ともつかぬ声を最高のＢＧＭに、シンジはやがて絶頂に達した。
「お、おおっ…ミホちゃん！」
　シンジの体がピンと反り返った。最後の一突きを浴び、ミホもまた体を硬直させる。その中で膨れ上がった男根が断末魔を迎え、生臭い欲望の汁が大量にコンドームの中に吐き出された。

451 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:43:24 ID:Tm4e9Wdj

　荒い息をついて余韻に浸るシンジの男根が、ずるりとミホの体から抜ける。
「はぁ、ああ……ミホちゃん……素敵だったよ……」
　シンジは自らコンドームを外し、その口を縛った。本当はミホに後始末をして欲しかったのだが、まだ呆然とした様子の少女は動けそうになかったのだ。

「せんぱ、い……」
　股間に残る鈍い痛みをこらえ、ミホは体を起こした。その双方の頬には、つぶらな二つの瞳から流れた涙の跡が、くっきりと残っていた。
　破瓜のショックからまだ完全には立ち直れないまま、ミホは、とうとう想いを遂げたという幸福感と、そしてそれ以上の後悔の念にとらわれていた。
　憧れの城島シンジに抱かれたとはいえ、シンジのミホに対する思いは、ただの援助交際の相手でしかない。金で体を売る女と認識された今、どう頑張っても恋人になどなれるはずもなかった。

　確かに、城島先輩に抱いてもらえたのは嬉しかった、しかし――。

いったいなぜ、素直に告白できなかったのか？　千円で自分を買えと持ちかけておいて、実は初めてだったなどと知ったら、先輩はどんな顔をするだろう？
だが、時間は戻らない。
ならばせめて、初めてだったとは気づいて欲しくない――。
ミホは精一杯に平静を装い、座りなおすと、シンジに背中を向け、後始末のためにティッシュに手を伸ばした。

だがそこには、ごまかしの利かない証拠が残っていた。
「……え……」
ミホが座りなおしたあとを見て、シンジは絶句した。薄いピンク色のシーツの上にくっきりと残っていたのは、鮮やかな赤い血痕。
それはミホの美しい純潔の証だった。
もしやとは思っていたが……援助交際を持ちかけてきた女の子が処女とは、いったいどういうことか？
「ミホちゃん……もしかして、初めて……だったのかい？」
「あ……」
気づかれた――。
ミホは何も言えなかった。ミホは突然に襲ってきた猛烈な羞恥にシンジに背中を向け口をつぐんだまま、股間をティッシュで拭い続ける。
（私は、馬鹿な女……千円で処女を売り、大切な人に尻軽と思われた、馬鹿な女……）
その瞳からもう一度涙が溢れ、頬を伝った。

452 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:47:32 ID:Tm4e9Wdj

（そうか……このコは……）
確かに、今までのミホに対するシンジの認識は売春婦のそれに近かった。まあ、そもそものきっかけが「私を千円で買いません？」では、それも当然だ。
だが、自らが奪った処女の証をはっきりと見せ付けられ、羞恥を含んで股間をぬぐうミホの仕草に、その認識は一変した。
シンジはとうとう、ミホの真情に気づいたのだった。
（……素直に告白したくても出来ない、か……俺にもそんなことがあったな……）
シンジの心に、かつての甘酸っぱい初恋の思い出が蘇る。だが、すぐさまそれを押しのけたのは、どこからか心の中に湧き出てきた、目の前の少女への確かな愛しさ。
そしてさらに――押し殺した声ですすり泣く、ミホのたおやかな背中のラインを眺めるうちに、その愛しさをも押しのけて込み上げてきたのは、圧倒的なまでの劣情だった。

この体を抱きたい……もっと！　もっと！！！！

「ミホちゃん……もう一回だ」
「えっ、きゃっ……ああっ……」
そっと優しく後ろから押し倒すと、少女の均整の取れた体はベッドの上に四つんばいになった。腰を高く持ち上げさせると、白磁の太ももの間から、破瓜を迎えたばかりの割れ目がこれ見よがしに覗く。
まろやかな尻たぶのカーブに目を楽しませつつ、腕を回して細い腰をがっちり固定すると、シンジは獣のように後ろからミホを貫いていった。
「あっ、あっ、そんな、あーっ……」

「ミホ……ちゃんっ！」
　表面的には拭き取られたとはいえ、まだ冷めていなかったトロトロに溶けた女の体が、シンジのそれを再び熱く包み込む。今度はゴムをつけていない――襞々の一枚一枚がきらめくような生命に満ちて、愛を、歓びを求めてシンジの肉棒に吸い付き、絡みついてくるようだった。
「おおうっ……気持ちいいよ、ミホちゃん……」
　シンジは少女の体に腕を回し、下向きになったためいやが上にも強調された胸の隆起に手を伸ばす。柔らかく張り詰めた乳房を思うがままに揉みながら、シンジは突き上げてくる本能のままに、ひたすらにミホの体を貪った。
　彼はいつしか、全身から汗を吹き出していた。
453 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:48:33 ID:Tm4e9Wdj

「あ、あっ、ああっ……」
　ミホもまた、暴れまわる熱い肉棒を受け止め、いつしか雌の反応を示し始めていた。
　バックスタイルとあって、シンジの顔が見えないのがどこか心もとない――だが、愛するシンジの燃えたぎる男根に貫かれ、ツンツンと体の芯を突付かれるうちに、先ほどとは違い、痛みだけではない別の感覚がどこかからともなくにじみ出てきたことに、ミホははっきり気づいていた。

　何度かマリアに悪戯された時にも、性感をかすかに感じたことはあった。だが、これに流されてはいけないと自分に言い聞かせ、快感に身を任せることをミホは断固として拒んだものだった。

　だが今度は違う。
　この感覚に身を任せ、いやむしろ全力でこれを味わうのが女の悦びであるはずだ――。ミホはこわばる体から力を抜こうと努め、体内で暴威を振るう肉棒に全神経を集中した。これこそが、愛するシンジの肉体なのだ！
　やがて圧倒的な性感は抗いようのない奔流となり、今やすっかり桜色に上気したミホの全身を駆け巡った。
「あ、あ、あーっ！」
「おおうっ……ミホちゃんっ……」
　再びシンジの体が硬直した。最後の一撃とばかり突き込んだ男根から、ピュッピュッと熱い想いがほとばしり、ミホの体内にぶちまけられた。
　シンジは再び、ミホの体を心行くまで堪能したのだった。

454 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:51:23 ID:Tm4e9Wdj

「ああ……」
　荒い息をつきつつ、ようやくシンジのほうに向き直り、膝を揃えて座ったミホだったが、まだ全身が痺れたように熱かった。羞恥を含んでぴっちりと閉じた股間から、今度は白く濁った液体がトロリと垂れてきたのに気づき、ミホは呆然とした。
「はぁ、はぁ……ミホちゃん……大丈夫？　ごめん、あんまり素敵だったから……その、つい……」
　欲望に任せ、ミホの体内に精液をぶちまけてしまったことは事実だ。とりあえずは謝ったシンジだったが、責任取って、とでも言われたら、どうすればいいだろう？

「あ、は、はいっ……あの、先輩……大丈夫です……」

　ミホはなんといっていいのか分からなかった。反射的に大丈夫と答えてしまったが、避妊をしてくれなかったことを怒るべきだったのか、妊娠した時のことを聞くか、それともいっそ結婚を迫るべきだったか？
　こんなことは小宮山先生も教えてくれなかった。まあミホ自身、どうしたらシンジに近づけるかばかりを考えていて、こうなった後のことは考えていなかったので、聞きもしなかったのだが。
　股間がまだジンジンと疼いているのをぼんやりと感じながら、ごちゃ混ぜの感情を整理することも出来ず、ミホは潤んだ瞳でシンジを見つめた。が、見つめ返してくるシンジの視線に耐えられず、つと目をそらす。
　これだけは確かだった。形はどうあれ、たとえ尻軽女と思われたとしても、ミホは長いこと空回りしていた思いを遂げ、愛する男性に女にしてもらったのだ。
　それだけで私は幸せだ――。
　ミホはそう自分に言い聞かせた。

　うつむくミホにシンジが声をかけた。
「……ミホちゃん」
「は、はい……」
「どうして初めてなのに、援助交際なんかしたのか、どうして君の体がこんなにも敏感なのか、それは聞かない。ただ……」
「……ただ？」
　ミホは、シンジが詮索してこないのが大いにありがたかった。一人で空回りした挙句、テンパって売春じみた話を持ちかけた理由など、話したくはなかったし、ましてや、『敏感なのはマリアに開発されたから』などと言えるはずもない。

455 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:54:14 ID:Tm4e9Wdj

「ただ、ミホちゃん……あの、お釣りなんだけど」
　そういえば、お釣りは次の機会に、といったきりだった。それもミホにとってはもう一度会える口実になるというものだが――愛の行為の後にベッドで話すにしては、あまりに色気のない話ではないか？
　かすかに口を尖らせながらも、ミホが答える。
「そうでした……明日でいいですか？」
　シンジは首を横に振った。いぶかしげに見つめるミホの栗色の瞳に見とれながら、シンジはどう持ちかけたものか少し考えた末、口を開いた。
「そうじゃなくて……その、お釣りをもらうんじゃなくてさ」
「……はい……？」
「あの、俺……もっと、もっともっと君を抱きたいんだ。今日二回したから、あと八回、させてもらえないかな。都合のいいときに連絡するから……」
　ミホの顔がぱっと明るくなった。
「あ、ああ……喜んで……」
　ミホは天にも昇る気持ちで、シンジとメルアドを交換したのだった。

「それじゃ、またね」
　叶邸を辞し、家路に着いたシンジだが、情けないことに足取りがなんとも重い。いか

に若いとはいえ、休憩なしの二連発は想像以上に体力を使ったらしい。
　取り敢えず公園のベンチに座り込んだシンジは、大きく息をついた。若さと成熟を見事に兼ね備えたミホの体が、ひとりでに脳裏に浮かんでくる――何度でも、いや何十回、何百回でも、あの体を抱きたい！
　シンジは、心は果てしない欲望に囚われていた。だが、体はぐったりと重い疲労を感じていた。今はともかく休憩が必要だ。
（――こんなとこで寝たら風邪ひくな――）
　そんなことは分かっていたが、圧倒的な疲労感には勝てない。目を閉じると、彼の意識はふっと遠のいていった。

456 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:55:35 ID:Tm4e9Wdj

「お兄ちゃん、朝だよ～」
　翌日の朝。階下からのカナミの声に、シンジは目を覚ました。
　またしても、股間にテントを作って。
（……美人だったなあ……）
　いまさらながらに、シンジはそう思う。
　夢の中で見たミホの体は、見事なまでに均整が取れていた。なにより、純潔を保ちながらもすっかり性に目覚めているそのアンバランスさが、どこか背徳的な感じがする。美しい体が小さな悲鳴を上げながらシンジ自身を咥えこんだ、あの瞬間の感動を生々しく心に描くと、パジャマの中の充血した男根は痛いほどに張りつめた。
（……いかんいかん。今日も学校だ）
　ベッドからのろのろと起きだしたシンジは着替えを始めた。

（あのコは……あのコにはいつも驚かされるが、思ったよりずっと強いんだな……）
　制服に着替えつつ、シンジはそんなことを思う。
　あれだけあの手この手でアタックを続けるのも、毎日体の手入れを欠かさないのにも、マリアにどんなにいじくられても染まらないのにも、強烈な意志の力が必要なはずだ。
　こればかりは、特に張り詰めた目標もなく、毎日をなんとなく過ごすシンジには全くないものだった。
（実はいいコなんだろうが……しかしなあ……あのコのラブレターは、変だからなあ）
　シンジは以前、「体がさみしいの　ミホ１６歳」とか、「無料」とか題のついた可愛らしい封筒が下駄に入っていたことを思い出し、苦笑した。

　多分、今日も学校では、ミホは木の陰からシンジを見つめてくるだろう。が、この娘のことは妄想だけにとどめておいたほうが良さそうだ。

（……強い女の子、か……よし、次は……）

　シンジの夢はまだまだ続きそうだった。

457 名前： トマソン ◆sZztcRmPbc [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 22:57:03 ID:Tm4e9Wdj

以上。

タイトルは「シンジの夢十夜　～第七夜　ミホ編～」で。

これは今までの六話とはちょっと違って、ミホ視点の箇所を幾つか入れてみました。
が、全てがシンジの夢という前提では、やはり不自然かなあ。
エロ描写はいささか手抜きですが、ネタ切れにつき御免。

それと、『一回千円、だが万札しかなく、お釣りがないので10回』というアイデアは、
原案はアカボシ氏の漫画から頂いたものです。
＃アカボシ殿、感謝です。

　皆様
http://www.k5.dion.ne.jp/~meisya/f-index.html

　こちらの「闘開道★不辞’s戯言スペース」もたまには見てくださいね。

次回はカオル編、微エロ位の予定。
が……プレイ内容が固まらん。
まあゆっくりお待ちください。

458 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/13(火) 23:15:34 ID:cqsuI4wL
>>457
ＧＪ！！
459 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/14(水) 00:15:37 ID:2YwKB4Gm
ルーク氏GJ！
トマソン氏GJ！
ダブルタイフーン乙＆次回に期待大家紋！
460 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/14(水) 23:20:08 ID:HzXRMMmz
遅れましたが皆様GJでございます
461 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/14(水) 23:41:23 ID:NmmndNhW
トマソン氏ＧＪ!!!
夢とはいえミホが幸せだとうれしくなります
462 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/15(木) 01:50:26 ID:AAxVDzHC
バレンタイン、ホワイトデーときて（静かだったが）、次は何のイベント祭だ
463 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/15(木) 05:18:22 ID:fWmB8lCQ
ミホは結局夢の中だけか・・・
まあ、あんな怪しいアプローチの仕方じゃ、シンジに警戒されても仕方ないよな。
464 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/15(木) 20:25:58 ID:OOZwIM8F
>>463 高校時代の俺ならもう、すぐに飛びついてるよ。モテる人は余裕でいいねえ。
465 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/03/15(木) 21:31:11 ID:ceolBUbK
ミホは惚れた相手の命令ならどんな内容でも従いそうだ
466 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/16(金) 07:24:28 ID:M1Y43Nvx
ベタボレだからな
しかしこのシリーズはイイ……！

467 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/16(金) 23:39:22 ID:U4Q0RORx
今は夢第何話なんっだっけ？
468 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/17(土) 00:38:40 ID:NdjSlnGv
いま第七夜。

トマソン氏ＧＪ！！！
469 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/17(土) 07:52:24 ID:RqCSltAW
トマソン氏 GJ！
やはり投下があってしかもちゃんとした話だとレスの進み具合が違うぜ！
470 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/18(日) 11:22:59 ID:rYtbUAqj
マサ視点一人称ってそういやあったっけ？
471 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/19(月) 23:44:37 ID:38U27rHl
静かだね…
472 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/20(火) 02:28:18 ID:XFK4Bcoh
シホが子持ち女学生アイドルをやる話というのはどうか
もちろん旦那はヒロキ
まぁミサキで子持ち女子高生でもあんま変わらんネタとは思うが

もういっそ全員孕ませ(ry
473 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/20(火) 11:34:27 ID:S39FmcXg
前スレ埋めしりとりで濱中の女性キャラほとんど孕んでたな
ついでに鈴木君凌辱されてたけど
474 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/21(水) 17:25:32 ID:mHsCV50p
かわいそうな鈴木くん…
475 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/22(木) 07:43:34 ID:OE5kiZF9
この静けさでは濱中終了一周年祭はナシか……
やはり投下あってこそだが、
今は年度末進行の時期でみんな忙しかろうし、
投下あってもタイミングや内容次第で盛り上がれなかったりするし

まぁマターリといきまっしょい
476 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/22(木) 08:22:55 ID:tfnOcYKK
前スレ埋めしりとり SS 面白かったな（゜∀゜）
ぜひ氏家 SS 保管庫に収録を！
477 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/22(木) 22:45:22 ID:77hLjMHW
５１８氏は元気だろうか。
478 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/23(金) 07:17:20 ID:wsYoskKO
上でも既出してるが、今はどこも忙しい時期だしな……
マターリと待とうや
479 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/23(金) 15:36:00 ID:SOTujqAS
濱中やあかほんとお別れしたように、
いつかはここの職人諸氏、住人諸氏、スレそのもの、そして２ちゃんと別れる日がやってくる
願わくば、その日がなるべく遠い未来の出来事であるように

桜の季節はどうも別れの印象が強くてしんみりしてしまうな
480 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 09:56:40 ID:Jzq+JvSB
今週・来週・再来週くらいまでは更新ないかもな
フワーリ待つか
481 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:04:42 ID:nzu9iJGa
元気です。

かてきょもの。
>>16 の続き。
ゆえに NG ワードは「アイ×マサヒコ」「エロなし」

482 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:05:25 ID:nzu9iJGa
「う～さむ」
ブルっと小さく震え、マフラーを巻きなおし、横を向く。
「先生、わざわざ元旦に神社行かなくてもいいじゃないですか」
寒さに弱いマサヒコはうんざりした様子で元家庭教師に話しかける。
「だめだめ。こーいった季節季節のイベントは大切にしなきゃだよ」
そう言って、クリスマス以来小久保家に入り浸っている……つーか住み着いているアイはマサヒコの腕を引っ張る。
「ほらほら、早く早く」
「わかりました。わかりましたから腕引っ張らないでくださいよ」
マサヒコは諦めた様子で、アイの為すがまま。
「それにもう神頼みでもしなきゃやってられないってゆーかね～。あはははは」
「早く行きましょう。ここの神社効くって噂ですし。さあ行きましょう。すぐ行きましょう」
今だ就職の決まらぬアイの笑みは、ちょっぴり怖い。
「ほら、屋台もありますよ。たこやきおごりますから」
「やきそばも食べたい」
「おごりますから。だからその焦点の合わない目で笑うのは止めてください」
訂正。
めっちゃ怖かった。

「お賽銭ちょっと奮発しちゃった」
「困ったときの神頼みですね。後でお守りも買っていきましょうか？」
「そうだね。でも最後にモノを言うのは自分自身の頑張りだからね。よーし！　がんばるぞー！」
濱中アイという人物はやるときはやる女性。
そのことはマサヒコが一番よく知っているつもりだ。
そんな彼女の少しでも力になれればと声援を送る。
「その意気ですよ、先生。頑張ってくださいね」
「うん。けど、まずはたこ焼きたこ焼き！　マサヒコ君たこ焼き！」

「はいはい。約束でしたもんね」
アイの元気の源はいつだって食べ物だ。
「あれ？　アイじゃん」
「へ？」
「やっ！　おひさ～」
財布の中身をマサヒコが確認していると三人組の女性がアイに声をかけてきた。
誰あろう、クリスマスにアイをハブった三人だ。
「みんなも来てたんだ」
「明けましておめでとうございます、濱中さん」
「…おめでとう」
「あけおめ～」
「うん。今年もよろしくね」
などと四者四様に挨拶を交わす。
483 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:06:21 ID:nzu9iJGa
その横でマサヒコはぽつんと取り残されていたわけなのだが。
「ん？　アイ、この子は？」
「あ、この子は前に言ってたマサヒコ君。元教え子の」
「どうも」
「あ～この子が。『あの』マサヒコ君なんだ」
「『あの』って……先生いったい何を話したんですか？」
「あう！　い、いやその……」
不思議そうに問われ、しどろもどろになる。
「そ、そんなことより！　マサヒコ君たこ焼きたこ焼き！　ほら、買ってきて！」
「ちょ！　分かりました、分りましたから押さないでください。地面凍ってるんですから」

促されるまま、マサヒコは人ごみの中に。
アイはふうとため息をつく。
「な～るほど。あんたの好みってあーゆータイプなわけか」
「タイプって……ち、違うよ～」
そう言って手をパタパタと振るが……顔が赤い。
三人娘はさらに畳み掛ける。
「だって言ってたじゃない。『マサヒコ君はいい子なんだよ～』って」
「う」
「そうですね。『マサヒコ君最近かっこよくなってきたのよ』って。嬉しそうに言ってましたもんね」
「うう……」
「…『マサヒコ君って女の子に興味ないのかな』なんて悲しそうにもしてたわね」
「うううう……」
そして三人でとどめ。
「「「まちがいなくショタコン」」」
「うぅぅぅぅ！！」
悶絶するアイ。
「ほれほれ、認めれば楽になるわよ。好きなんでしょ、あの子のこと？」
「…確かに顔は悪くなかったわね。けど、ちょっとパッとしなさそうでもあったわね」
「でも素直そうないい子でしたよ」
「よーするにちょっと頼りなさそうなのがアイの好みってわけなのね。母性本能強いのか

しら？」
三人に詰め寄られアイは「あうあう」と言葉に言いよどむ。
さらに三人がアイに詰め寄っていると、
「あんたらうっさいわよ」
「あ、すいま――って！　中村センパイ！？」
具合悪そうにベンチでぐったりしている中村リョーコの姿を目にして三人娘がズザザッと後ずさる。
エロさ大爆発で我が道を驀進するリョーコのことがちょっと苦手なのだ。
そんな三人の様子に不機嫌そうなリョーコの目がきらりと光る。
獲物を見つけた時の目だ。
「ちょいと後輩。先輩に新年の挨拶はなしか？」
「「「あ、あけましておめでとうございます」」」
「はいおめっとさん。親しき中にも礼儀あり、よ。挨拶がしっかりできないようじゃ立派な社会人にはなれないわよ」
もっともな意見に黙り込む。
傍若無人なくせに押さえるところは押さえるリョーコがやっぱり苦手な三人。
484 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:07:31 ID:nzu9iJGa
一方のアイはもう慣れたもの……っていうか、天然だからあんまり応えない。
「先輩は一人でお参りですか？」
「うんにゃ。セイジと来た。飲み物買いに行かせたんだけど、いつまでかかってるのやら」

後でしつけ直してやる……との恐ろしい言葉に三人娘ならず、アイすらもさ～っと引く。
正月の神社で負の気を発するとは罰当たりというか神をも恐れぬと言うか。
そんなリョーコの前にスポーツドリンクのペットボトルが差し出される。
「おそいわよセイジ！……ってあら？」
「どーも。あけましておめでとうございます」
「マサじゃん。何であんたが？」
「これ買ってる最中に豊田先生に会ったんすよ」
そう行ってホカホカ湯気の上がるたこ焼きを示す。
「んで、その時に中村先生に渡してくれって頼まれました」
「ふ～ん……まあいいわ。ありがと」
ドリンクを受け取ったリョーコは一気に半分ほど飲み干す。
「ぷはぁ……あ～五臓六腑に染み渡るわぁ」
「また飲みすぎたんですか？」
「まあね。それよりセイジは？」
「帰りましたよ。なんか足元が覚束無いようでしたけど」
「あたし置いて勝手に帰るとはいい根性してるわね」
むわぁっと、リョーコの発する負の気がより一段と濃密になる。
つーかすでにそれは瘴気。
触れたらどえりゃーことになりそうだがね。
「やっぱりしつけ直す必要がありそうね」
そう行って携帯電話を取り出そうとする。
が、その目の前に差し出されるたこ焼き。
「なによマサ？」
「一つどうですか？　買ってすぐに一つつまんだんですけど結構美味いですよ」
そう言ってややごーいんにリョーコに爪楊枝を握らせる。

「熱いですから気をつけてくださいね」
「あ、うん」
意外と素直にリョーコはたこ焼きを口に運ぶ。
「食べながらでいいんでちょっと聞いて欲しいんですけど」
たこ焼きの熱さにハフハフやってるリョーコに話しかける。
「豊田先生、今年も三年の担任やってるんですよ。
だからこれからの時期ものすごく忙しくなるんですよね。
なんと言っても受験の時期ですから」
「んぐ……それで？」
「まあ何というか、出来ればもう少しお手柔らかに、と言ったところですかね」
「ふ〜ん……」
じと〜っとした目でマサヒコを眺める。
「やけにセイジの肩持つじゃないの。ど〜いった風の吹き回し？」
「吹き回しも何も、豊田先生には去年お世話になりましたしね」
「なるほど……ＯＫ、わかったわよ。マサに免じてとりあえず今日はセイジと遊ぶのはやめとくわよ」
「……今日だけなんすね」
「わかったわかった。多少は自重するわよ。そのかわり、そのたこ焼きよこしなさい。
よく考えたら朝から何にも食べてないから腹ペコなのよ」
リョーコの言葉にマサヒコは苦笑しながらたこ焼きを渡した。

485 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:08:12 ID:nzu9iJGa

その二人をやや離れた場所から見つめる四人。
「すご……あの子中村センパイのこと説得したわよ」
「只者じゃないですね！」
「…勇者？」
マサヒコへの評価が急上昇する三人娘。
……ところでアイはと言えばマサヒコとリョーコのことをなんとも恨みがましそうな目で見つめている。
「ちょっとアイ、あんたなんて顔してるのよ」
「だって、先輩が……」
恨みがましいから憎憎しいへとアイの顔がシフトチェンジ。
三人娘は顔を見合わせ、ぷっと笑ってしまう。
なんともかわいらしい嫉妬じゃないか、と。
思ったわけなのだが。
「あのたこ焼き私のなのにぃ……」
「「「そっちかい」」」
ツッコミが見事にそろった。
アイはまだまだ色気より食い気なようだ。
つーかアイ先生、もう２０も過ぎてるのにそれでいいのか……。

ＥＮＤ
486 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:09:16 ID:nzu9iJGa
以上。

1月1日編終了。

以下。
1月7日編開始。

487 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:10:20 ID:nzu9iJGa
「先輩七草全部言えますか？」
「あん？　なによいきなり？」
「だって今日は一月七日ですよ」
「あ〜、七草の節句か。そーいやそうね」
「で、言えますか？七草全部」
「……そんなもん知らなくても生きていけるわよ」
「ダメですね〜先輩は。いいですか？　七草って言うのは、はぎ・おばな・くず・なでしこ……」
「アイ、それは秋の七草よ」
「今日食べるのは春の七草ですよ」
「ええ！　七草って春と秋があるんですか！？」
「「……」」
アイの天然にマサヒコとリョーコは顔を見合わせて、笑った。

今日は一月七日。
ここはマサヒコの部屋。
いるのはクリスマス以来住み着いたアイと、元旦以来入り浸っているリョーコの二人。
そして部屋の主たるマサヒコの三人だ。
冒頭の会話は「今日のご飯は何かしらね？」とのリョーコの言葉にアイが反応したものだ。

「しかし七草ねぇ。食べたことないけどおいしいものなのかしら？」
「正直言ってそんなにおいしいものじゃないですよ。要するに塩味の野菜粥ですから」
「そーよね」
「でも、七草粥を食べると健康になれるんですよ」
「迷信でしょ、そんなの」
リョーコの言うことにも一理ある。
「よーするに、七草粥ってのは正月に色々食べたり飲んだりして疲れた胃を労わるものなのよ。
だから健康になれるなんて保証は無いのよ」
「でも、だったら先輩には効果あるじゃないですか」
「あんでよ？」
「だって先輩、正月休み中ずっとマサヒコ君の家で食っちゃ寝飲んじゃ寝してたじゃないですか」
リョーコは「ふむ」と顎に手をやる。
「なるほど。一理あるわね。確かに最近ちょいと胃が疲れ気味だし、ちょうどいいかもね」

「あ、でも晩御飯が七草粥って決まったわけじゃあないんですよね」
「多分七草粥ですよ。母さんそういったイベント事結構好きですから」
「へ〜そうなんだ」

「アイも結構イベント事大切にするわよね。お母さまと相性いいのかも。ねえ、マサもそう思わない？」
「あ～。そう言われてみると結構いいコンビですね。確かに」
原付免許の時のことを思い出しつつ、マサヒコが同意。
アイと３年、母とは生まれたときから一緒なマサヒコが言うんだから間違いないだろう。
「よかったじゃないのアイ。お義母さまと相性よくって」
「なっ！　何がですか先輩！　ってゆーか今お母さまの発音がおかしく無かったですか！？」
「なんかおかしかったかしら？」
「まだ早いですよ！」
「あら「まだ」なのね？」
「はう！」
突っ込まれてアイが悶える。
そこをさらにリョーコが突っ込む。
「今から予習のつもりで言っておいていいんじゃないの？　お・義・母・さ・まって」
「そ、そんな……あう、その……はうぅ……」
あうあうはうはう言い出したアイ。
やれやれとマサヒコが口を挟む。
「まあまあ、中村先生その辺で――」
「ソレよマサ」
「は？　なんですか？」
唐突に言われ、疑問の声。
「あたしもう先生じゃないんだし。その先生ってのさ、やめにしない？」
言われてマサヒコは、
「……確かにそうですね」
納得する。
488 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:10:51 ID:nzu9iJGa
納得すると今度は別の疑問が出てくる。
「でも、じゃあなんて呼べばいいんですか？」
「あんたの好きに呼べばいいわよ」
「好きにって言われても……」
「あんたほんっとに現代っ子だねぇ。じゃああたしのことは「中村さん」でいいわよ。
アイのことは「アイさん」とでも呼んどきな」
「はあ……中村さんとアイさん……ですか？」
「そっ」
「ん～……なんかちょっと違和感ありますね」
「なにいってんの。今は家庭教師と教え子って関係じゃないんだから先生なんて呼ぶほうが変なのよ」
「まあ確かにそうですけど」
「前までは教える教えられるの上下の関係。今は対等の関係でしょ？
これからもそれなりの関係を築いていきたいんなら呼び方は変えときなさい」
確かにリョーコの言うことには一理ある。
いまだに先生と呼ぶほうがおかしいのは確かなわけで。
「分かりました。中村さん、アイさん。これでいいですか？」
「ええ。アイもそれでいいわね？……アイ、ちょっとアイ！」
ポーっとしていたアイ、リョーコに肩を揺すられてはっとする。

「ふぇ！？　あ、はい。なんですか？」
「なんですかって……まあいいわよ」
リョーコが苦笑していると、
「マサヒコ～ちょっと～」
「なんだろ？　すいません、ちょっと行ってきます」
母親に呼ばれてマサヒコが下に下りていく。
「アイ」
「なんですか？」
「あんたさぁ、マサに名前で呼ばれたくらいでぽや～んってのぼせ上がってどーすんのよ」

「な、なんのことですかぁ？」
「……まあいいけどね」
リョーコ、また苦笑。
「ま、がんばんなさい。マサは大分手強そうだけどね」
「……がんばります」
真っ赤になってうつむいてしまったアイの頭をリョーコはいい子いい子と撫でるのだった。

ＥＮＤ

489 名前：　518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日：　2007/03/24(土) 14:12:10 ID:nzu9iJGa
以上。
1 月 7 日編終了。

以下。
1 月成人式日編開始。
490 名前：　518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日：　2007/03/24(土) 14:12:51 ID:nzu9iJGa
「毎年毎年懲りないっていうか……なに考えてるんですかね？」
テレビを見ながらマサヒコ。
「そうだよね。お前らいくつだ！　って感じだよね」
「……いえ、みんな２０歳ですよ。成人式ですから」
「あ……」

今日は１月の第二月曜、成人の日。
場所はといえばいつものマサヒコの部屋。
いるのはマサヒコと、本格的に小久保家に住み着き始めたアイの二人だ。
冒頭の会話はテレビを見ながらの一幕だ。
「しかし荒れてますね」
「でもこんなのは極一部だよ。私達のときは特に何にも無かったしね」
「ああ、そーいえばアイさんはもう成人式終えたんでしたね」
「……それ、どーいう意味かな？」

なんだか地雷っぽいものを踏んだようだ。
マサヒコ、ちょっと慌てる。
「あ、いえ。特に他意はないんですけど」
「確かに私は童顔だけど……でも酷いよ」
「……すいません」
本格的に頭を深深と下げるマサヒコの様子に、逆にアイが慌てる。
「あ、べ、べつにそこまで本気で怒ってるわけじゃないから。
そんな本気で謝ってくれなくてもいいんだよ。ごめんね、気を使わせちゃったね」
あわあわおろおろとマサヒコのまわりをちょろちょろと動き回る。
そんな行動が幼さに拍車をかけているのだろうが……まあそれはよしとしよう。
気を取り直したマサヒコがアイに話しかける。
「ところで、アイさんは成人式にどんな服で出たんですか？　やっぱり晴れ着で？」
「ううん。私はスーツだったな。だって晴れ着って大変なんだよ？
着つけとか、ちょっと動くと着崩れちゃうしね。だからスーツで十分だよ」
そう言って笑うアイだが、
「……晴れ着、着たいとは思ったんですね」
「……」
マサヒコには通じない。
あっさりと本心を見破られて黙り込んでしまう。
「そりゃ、着たかったけど……」
しばらくして、ポツリともらす。
「実家ならともかく、こっちじゃそうもいかないよ。さっきも言ったけど、着物って色々面倒だから」
「そうですか」
「うん……」
そのまま、重い空気が流れる……かと思われた。
「ＯＫ。その願いかなえてあげましょう」
「母さん？」
グレートマザー参上。
「は〜い、アイちゃんこっちいらっしゃい」
「え？　ええ？　ええええっ！？　マ、マサヒコく〜ん……」
助けを求める目でマサヒコを見る。
「ちょ、母さん！　何する気だよ！？」
「悪いようにはしないわよ」
そのままアイは母親に引きずられていってしまった。
マサヒコ一人その場に取り残される。
491 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:13:27 ID:nzu9iJGa

少しばかりの後、アイは母と共に戻ってきた。
「えっと……どうかな？」
「……」
振袖を着て。
「あの……マサヒコ君？」
色鮮やかな着物。

うっすらと化粧もしているのだろう、いつもの、どこか幼さを感じさせるアイとは雰囲気が違う。
アップにされた髪からのぞくうなじかなんともかんとも……。
正直、たまりません。
「変、かな？」
ちょっとがっかりした様子で、しゅんとしてしまったアイの言葉に、マサヒコはぶんぶんと首を振り。
「変じゃないっす。すっごい……似合ってますよ。アイさん」
マサヒコの言葉にアイは顔を輝かせる。
「えへへ……ありがと。お世辞でも嬉しいよ」
「お世辞じゃないですよ。ホントに……キレイです。そのまま飾っておきたいくらいですよ」
真摯な目で見つめられ、甘い言葉を投げかけられ、アイは顔に血が上るのを意識する。
いや、意識なんてレベルじゃない。
カーッと一気に首から上に血が集まった結果。
「ふにゅ〜……」
「おわぁ！　せ、先生！　じゃない。ア、アイさん！」
「ちょっ！　どうしたのよアイちゃん！　しっかり！？　マサヒコ！　冷凍庫からアイスノン持ってきて」
「わ、わかった！」
倒れたアイを前に右往左往する小久保母子だった。

ＥＮＤ

492 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:14:40 ID:nzu9iJGa
以上。
1 月成人式日編終了。

以下。
2 月 3 日（節分）編開始。

493 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:15:37 ID:nzu9iJGa
「鬼は外〜！　福はうち〜！」
「カモーンラック！　ゲットアウトオーガ！」
「なんすかそれは？」
「意味もなく英語にしてみたわけよ」
「せんでください」

今日は２月３日。
節分だ。
そんなわけで小久保家では豆まきの真っ最中。
一人息子たるマサヒコと、その元家庭教師にして近頃めっきりマサヒコの部屋に寄生中のアイ。

その友人たるリョーコとマサヒコマザーの四人で。
父は出張中で不在だ。
御都合主義とかゆーな。こんにゃろ。
「でも、ちゃんと炒り豆を投げるんですね、ここでは」
「そうね。最近だと落花生を殻ごと投げるなんてとこも多いみたいなのにね」
「落花生なんて投げるんですか？　なんかそれって情緒が……」
「後々掃除が大変でしょ？」
マサヒコの言葉にふひ～と鼻から息を吐きつつ、ちょっと小馬鹿にしたような物言いをするリョーコ。
「これだから実家暮らしは……あ～やだやだ、苦労を知らないってやだわねぇ」
「まあ確かにそうですね」
特に怒るでもなく、ありのまま受け入れるマサヒコの様子に、
リョーコは不満顔でマサヒコの肩に腕を回す。
「ちょっとマサ、怒るとか不機嫌になるとかしなさいよ。つまんないでしょ？」
「んなこといわれたって中村さんの傍若無人っぷりは今に始まったことじゃないわけですし。はっきり言ってもう慣れました」
「……ふ～ん」
マサヒコの言葉にリョーコは少しばかりの愕と少しばかりの悦を覚えた。
つねに自分勝手に振舞うリョーコは敬遠されることが多々あるからだ。
そんなリョーコの行状を慣れたと言って受け入れてくれるこの年下の友人の存在。
「友こそがかけがえの無い宝、か」
「は？　なんすか？」
「何でも無いわよ。ほらほら、豆まきなさい……あんたも食べてばっかいないで」
「ふぇ？」
炒り豆を口一杯にほおばったアイ。
ハムスターみたいでちょっと愛らしい。
「そんな口一杯詰め込んでると詰まらせるわよ」
「んぐんぐ……ぷは。大丈夫ですよ～」
「……でしょうね」
言い終わるなり再び豆を頬張ろうとしたアイを見てリョーコは苦笑する。
「けど、その辺にしときなさい。メインディッシュはこの後でしょ？」
「はっ！　そ、そうでした！　え～っと、じゃあ。鬼は外ー」
手に持った豆を投げる。
「ぐは！」
全弾マサヒコに命中。
マサヒコの後部装甲中破。
「いてて……」
「あはは。隙ありだよ、マサヒコ君」
「後ろからとは卑怯ですよ……といいつつ福はうち！」
「はわっ！」
ぽいっとアイへと豆を投げつけたマサヒコ。
軽く投げたつもりだったのだが。
「痛い……酷いよマサヒコ君……」
なんとアイは顔を手で押さえてプルプルと震え出してしまった！
「す、すいませんアイさん。ちょっと強すぎましたか？」
えらいこっちゃと慌てて駆け寄ったマサヒコ。

494 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:16:51 ID:nzu9iJGa
「大丈夫ですか？」
「……隙あり！」
「後ろががら空きよマサ！」
罠です！
後ろからも敵が！
「「くらえー！！」」
「ぎゃぁぁ！　さんだー！！」
……すごくわかりづらいネタです。
ゴメンナサイ。

さて。
豆まきだか豆合戦だかも終わっていよいよメインディッシュ。
「母さん、今年の恵方ってどっちだっけ？」
「冷蔵庫がある方向よ。ところでマサヒコ、あんたなんか顔が……その赤い点々なに？ジンマシン？」
「弾痕…かな」
「え、男根！？」
「……あ～いや。なんでもないから」
なんか色々と諦めたマサヒコ。
さっさと太巻きを食べてしまおうと手に取る。
495 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:17:31 ID:nzu9iJGa
「えっと、無言で全部食べきるんだっけ？」
「そうそう。口を離しちゃダメなんだよ」
「きつそうだなぁ……アイさんなんかは楽勝っぽいけど」
「うん、私楽勝」
両手に太巻きを持って笑顔のアイ。
……両手？
二本食う気か！？
……な～んて。
考えてみたら今更驚くこっちゃ無い。
アイなのだから。
むしろ三本食べないことを驚くべきなのかも。
などと詮無いことを考えつつ、満面の笑みで太巻きにかぶりつくアイを横目に見つつ、マサヒコは太巻きにかぶりつく。
「……ねえマサ」
「？？」
喋るわけにいかないので目線だけで「どうしました？」とリョーコに問う。
「マサの太巻きもこれぐらいなのかしらん♪」

　ぷふぅ！

「きゃ！　ちょ、アイちゃん大丈夫！？」
アイが思いっきり吹いた。
それを見てゲラッゲラ笑い転げるリョーコ。
「あっはははは！　アイってばサイッコー！」

そんなリョーコに忍び寄る影。
「あはははは……は？」
マサヒコ。
右手には太巻き。
「マ、マサ？」
マサヒコは太巻きをゆっくり、天へと突き上げ、そして……全力で振り下ろした。
……リョーコの脳天へ。
「ふぎゃ！」
「こ、こらマサヒコ！　食べ物を粗末にしない」
「うるせーうるせー！！」

以上が。
後に小久保家において「マサヒコは反抗期～太巻きの乱～」と語り継がれることになる一部始終である。

くだらね～……

ＥＮＤ

496 名前： 518 ◆8/MtyDeTiY [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:20:33 ID:nzu9iJGa
終了。
誤字脱字表現間違い、および「なんか時期はずれじゃね？」等はスルーしてください。
イジメ、よくない。

記念日っぽい日ごとに書いてくと大変なことになりそうな予感。
6月ってなんかあったっけ？みたいな感じで。

以下古田氏への業務連絡。
一連の話は続き物ですので保管庫に保管する際は
ひとつグループっぽいものにまとめて置いてください。

ご面倒おかけいたします。

497 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 14:44:41 ID:CUA8LN4z
518氏ＧＪ！
住みついちゃったアイ先生が可愛すぎる
498 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 15:45:00 ID:U5tDH2nc
　_　∩
(゜∀゜)彡　マサヒコ！　アイ先生！
　⊂彡　　同棲！　同棲！
　　マサヒコ！　童貞！
499 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 21:59:31 ID:RDh98voa

518氏乙でした
何ともいえないほんわかした雰囲気のＳＳはさすがって感じですな

サッカーもフィギュアスケートも勝ったし、
勢いを込めて他のベテランさんも新人さんもガンガレー！とエールを贈ってみる
500 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/24(土) 22:32:59 ID:YtoT25Fk
超ＧＪ！！！！！！
これからもよろしくお願いしますよ！
501 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/25(日) 04:07:17 ID:WxmyF6WB
518氏GJです！
ギロリ…これは地球防衛軍！
502 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/25(日) 07:29:59 ID:VClWr89k
乙！
今までにも多くのエロなしや微エロが投下されたけど、これはまさに神髄！
503 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/25(日) 08:42:19 ID:uvH6tcCd
(´∀`)ほんわか
504 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/26(月) 08:24:23 ID:Nc230KVh
独特の軽妙な文体もあって、518氏のSSは読んでて実に楽しい
ベテラン勢は特にそうだが、それぞれに「色（作風・傾向）」があってそれを読み比べるのもなかなか面白い
505 名前： 名無しさん@ピンキー 投稿日： 2007/03/26(月) 22:46:20 ID:OLzslrAk
アイって名前のラブドールを昨日TVでみたんだ
506 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/27(火) 19:45:52 ID:5bzeTZgd
なにそのアイドール(*´Д`)ﾊｱﾊｱ
507 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/28(水) 07:16:08 ID:OcsvS8MB
ラブラドール・レトリバー？
508 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/28(水) 15:51:18 ID:7NAnZrwy
ラブドールアイ
ラブドールミサキ
ラブドールアヤナ
ラブドールリンコ
ラブドールマサヒコ
509 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/28(水) 18:56:42 ID:xjF2QMMo
アッー
510 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/30(金) 00:16:50 ID:4apcsvEc
マサとミサキのラブラブセクロスが読みたいです
511 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/31(土) 01:04:25 ID:GIcwQtZU
パチスロ・アイパラダイス
512 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/31(土) 15:10:33 ID:lU0FkiNo
出会いｹｲサイト
513 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/03/31(土) 16:42:17 ID:5gMQjR+Y
>>511
リオパラダイスのアイセンセVerか
そんなの毎日でも打ちにいく

>>512
ケイちゃんと出会いたいです
514 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 14:58:19 ID:BQy/OXtc
エイプリル・フールネタはないですか？
515 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 22:39:53 ID:LXRY4Weq
風邪を引きました。

と、いきなり言い訳全開気味ですが、今回投下するのはちょっと推敲が足りてないかもしれません。
…ただでさえレベル低いのに（ｒｙ

では投下。
タイトルは「幸せな日」で。
516 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 22:50:20 ID:LXRY4Weq
―とあるアパートの一室。そこで一組のカップルが、テーブルを境に向かい合っていた。
彼女の年の頃はまだ二十歳前と言った所だろうか、ずいぶんと深刻そうな顔である。
しばしの沈黙のあと、まずは彼女の方が重い口を開いた。

「…できちゃったの」
「……は？」
彼女の突然の衝撃告白を受けて、彼氏の身体が硬直する。

「だから、ね。最近…“アレ”が来てないのよ」
現代の既婚男の数割がおそらく体験しているであろう、この展開。
まあ大抵の場合、男はまずうろたえるもので。彼もどうやらその例外ではなさそうである。

「ひ、避妊はちゃんとしてたよな…」
「んと…でも…時期的にもバッチリ合ってるし…
あの日コンドームに穴が開いてなかったとは言い切れない…かも」
「？？なんで？？」
「ほら…ずっと前にさ、ふざけてコンドームの耐久実験やったじゃない？伸ばしたり楊枝でつついたり…
それをずっと捨てるの忘れてて、“あの日”に使っちゃったの…かも」
「……」
―そう言えば…そんなことが確かにあったな―と彼は思い返す。

彼女の口から告げられたその事実にまた黙りこくってしまう彼。
そして部屋の中がしんと静まり返る。
しかし今度の静寂は、彼によってすぐに途切れることになった。

「―結婚しよう」

「…え？」
意を決して発せられた彼の言葉。今度は彼女がその身を固くする。
「だから…結婚だよ！」
「えっ？えっ…まさか、本気？」
「ああ。確かにまだ俺の稼ぎは少ないけど…

君と子供を養っていける自信はある」
「え？え？本当に…私でいいの？」
彼女の問いに自信を持って彼は答える。
「当たり前だろ。絶対に…幸せにするからな」
「――くん…ありがとう。

…でもね」
517 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 22:51:20 ID:LXRY4Weq
「―なーんてね！！ドッキリでしたーっ！！」
「あっ…そうか！今日はエイプリルフール…」
「あはは、すっかり騙されてやんのー」
「う、うるさいな…しょうがないだろ、心当たりはあったんだし…」

―そう、今日は４月１日。
ウソつきの祭典、エイプリルフールである。

「あーもう、すっかり騙された…」
恥ずかしそうに頭を掻く彼に、彼女はくすりと笑いかける。
「へへ、演技うまかったでしょ？
ま、妊娠ってのはウソだから。安心していいからね♪」
518 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 22:53:39 ID:LXRY4Weq
「…いや。もう決めたよ」
「―え？」
笑っている彼女にそう告げると、彼の顔が一際真剣な表情へと変わる。

「『結婚しよう』って気持ちは…ウソじゃない」
「え？え？え？」
思わぬ彼の切り返しに戸惑いを隠せない彼女。
「…本当に？本気なの？」
「ああ、前からずっと言おうと思ってた。このまま宙ぶらりんのままじゃ…いけないってさ。

―改めて言うよ。結婚しよう」
「――くん…」

彼女の目に涙が潤んだその直後、彼の顔が少しにやっと笑う。
「じゃ…せっかくだから“妊娠”も本当のことにしちゃおっか！」
「え？ちょっと…待って」
「いや、待たない」
「ご、ごめん！ウソついたのは謝るからぁ！」
「いや、許さない」
うろたえる彼女の唇を彼の唇が塞ぎ、そのまま身体を前へと押し倒す。
初めは抵抗していた様子の彼女の口から甘い声が漏れ出したのは、

それから間もなくのことだった。

こうして幸せなカップルの夜は更けていくのだった―
519 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 22:55:28 ID:LXRY4Weq
「―とまあ、これが父さんと私の馴れ初めで…
マサヒコ、アンタを仕込んだのもこの時なのよ♪」
「…うそつけ」

―２００７年４月１日、小久保家のリビングにて。

ノリノリでそんな与太話をする母を、じっと冷めた目で見つめる息子。
せっかくの日曜の午後にこんな下らない話を聞かされるとは―
―とでも言いたげである。

まあそんなマサヒコの気持ちが分っているのか分っていないのか。
マサヒコの母はそのまま話を続ける。
「だからあ、ホントよ、ホント。ウソなんてついてないって♪
…でさあ、アンタもこんな感じでミサキちゃんと子供でも仕込んだらぁ？
生活費は私たちが援助してあげるからさ♪」
「うるせーうるせーっ！！」

（おしまい）
520 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 22:56:12 ID:LXRY4Weq
以上です。お目汚し失礼しました。
次回はずっとほっといた「兄は発情期」の完結編かもしれないです。
…まあ「予定は未定」なんですが。

それではまた。
521 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 23:03:52 ID:giD7K1ew
GJ!!!!!
522 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/01(日) 23:27:24 ID:xLMwHbB9
ママーンッ!!!
523 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/02(月) 02:53:35 ID:X8o5gbfy
素晴らしい！やっぱママンはこうで無くちゃ！！
524 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/02(月) 07:16:16 ID:uHi4Bbz0
ママン大活躍な話って確か今までなかったよね？
めっさ GJ！
525 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/02(月) 08:16:41 ID:pLUEfnZV
>>72 氏
いやぁ、よろしいでんなぁ。読んどるうちはいったい誰のことやらと思っておりましたが。
若き日のパパンがママンに負けてねぇってのが新鮮です。

>>524
ママン女食いシリーズがあったかと思いますが。
526 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/02(月) 17:16:41 ID:ny9gWwtc
72 氏乙でした！

>>524
82氏「在りし日のめもりー」
郭氏「マサヒコママは思春期」「雨に濡れても」
75氏「実母シリーズ」
トマソン氏「水入らずの夜」
コエル氏「マサ母は思春期」
ナット氏「欲求不満な母上」
マリリスト氏「レズシリーズ」

少なくとも代表的なママン登場ＳＳはこれだけありマリリンマンソン
527 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/02(月) 20:32:30 ID:MjdpQcAW
リンコ性知識講座のママンも好きだ
528 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/03(火) 13:08:46 ID:RxEdVd45
ママン話って結構あるんだな
529 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/03(火) 15:00:45 ID:igbb7D8J
エロエロだし
530 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/03(火) 17:55:43 ID:oRNF9+oL
ピンキリ氏の最初のSSもママンメイン
もっとも、アレはラストまでミサキメインのミスリードが施されているので
厳密にいえばママンSSではないかも試練

さて、それはともかくあかほんSSに飢えてまいりましたYo
531 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/03(火) 18:05:53 ID:5Eldm7qP
よろしいな(゜∀゜)b！！
532 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/04(水) 17:52:06 ID:p9jlSvBQ
一度でいいから代わってほしい
このスレのマサとシンジとヒロ君と

桂ウタマロです
533 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/04(水) 18:46:53 ID:WQBkj1Th
氏家キャラ　三苦労人問答

ヒロ「この中でいちばん気苦労が絶えないのは、オレのような気がするのだが・・・」
シンジ「・・・その代わり、あんたは給料貰っているだろうが。オレなんかタダだぞ！」
マサヒコ「・・・オレなんかお金払って、あの連中を周りに呼び寄せたようなもんですよ。

まあ、家庭教師代出しているのは親ですけど」

534 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/04(水) 19:04:04 ID:vUNwbu2e
まあヒロキはマネージャーという立場上、社会人としての責任があるしな
三人の言動に気を配ったり、仕事を取ってきたり、悪い虫がつかないようガードしたりせねばならん
よそとの関係もあるし、そういう意味では一番大変ではあるだろう
535 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/05(木) 21:05:11 ID:NTxWSkZn
>>533

だがマサヒコはアイ先生がいなければ
ミサキとはずっと疎遠のままで
二人が付き合うなんてことはまず無かったろうし…
この中では一番の幸せものじゃないか。
536 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/04/05(木) 22:19:31 ID:pRqiAqzg
だな。
自分に素直な嫁が手に入ってマサは幸せ者だ
ヒロキは将来名マネージャーとして名を残すだろう
シンジはどうなるんだろうな
少なくとも二人には好意を持たれてるわけだが
537 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/05(木) 22:29:02 ID:2pah/slx
右手と左手だろ？
538 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/05(木) 23:05:44 ID:dbE/VOdu
本当なら一番ハーレムに近い男のハズなのに…＞シンジ
539 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/06(金) 02:06:15 ID:Lfewj5ui
>>537
あとカナミの足
540 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/06(金) 13:13:51 ID:rkGYXbBO
設定だけ見ると本当にギャルゲ主人公だよな
氏家マンガの男主人公
541 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/07(土) 13:03:09 ID:UfbA/63s
だがマサ・シンジ・ヒロキは積極的に落としにいこうとしない
そこがギャルゲ主人公と決定的に違うところ
542 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/07(土) 13:29:59 ID:JgpX35qs
んじゃ二次ハーで
543 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 16:27:40 ID:JjwZ+0I0
>>541
単にヤル気が無いだけでは…
544 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 19:21:58 ID:jYzUzUgv
まあマサは一応ミサキの気持ちに応えた訳だし
完全に”事なかれ主義”ってコトも無さそうだけど…

シンジはチカたちを前に『恋人は右手でいい』と言い切ってしまったからな
…っていうか、シンジの場合、カナミを超える存在じゃないと無理なんじゃないかと…
545 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 21:44:06 ID:/reEt3rH
ヒロキはレイコに釘刺されてるし、保護者的立場だもんな
シンジはその気になればカナミにミホにチカにマナカにアキに今岡まで食えるのに……
546 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 23:45:27 ID:kmoFq1W8
古田氏、職人の皆さん、お疲れ様です。
濱中でハーレムネタです。
スルー対象ワードは「キャラ壊れ気味」「超ご都合主義」「ハーレム状態」「エロオンリー」です。
題は「ハッピー（セックス）ライフ　４」でお願いします。
547 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 23:46:39 ID:kmoFq1W8
「すごい、なぁ……」
　マサヒコは呟くと、息をほうっと吐いた。

彼の目の前には、物凄い光景が広がっている。
「マサ、ちゃん……」
「小久保君に、見られてる、見られちゃってる……」
「凄く、ドキドキするよぅ……」
「……ああ、マサヒコ君……」
　天野ミサキ、若田部アヤナ、的山リンコ、濱中アイ。
四人の可憐な女性が、マサヒコの目の前にいる。
揃って、身体には一糸も纏っていない。
それだけではない。
自らの太股に手をやり、大きく脚を開いている。
「こうして見ると、それぞれの違いがよくわかるな」
　当然ながら、秘所の形や色は個人個人でそれぞれ異なる。
だが、如実に違いがわかるのは、その秘所を覆うアンダーヘアの濃さだろう。
ミサキとアヤナは、その髪の色に比べてやや淡く、そして量も薄い。
リンコは本人が常々言っているように、一切生えていない。
そしてアイだが、やはり四人の中で最も年長なだけあって、色と量がともに最も濃い。
とは言っても、そこはやはり女の子、手入れがされており、
いわゆるだらしない感じは全くない。
「あ、あ……マサ、ちゃ、ん……」
　ミサキの目には、情欲の炎がポオッと宿っている。
いや、ミサキだけではない。
他の三人も同じだ。
愛する人の前で、はしたない格好を、自らの意思でしている。
そして、最も恥ずかしい場所を、じっくりと見られている。
その事実が、彼女たちの体をトロトロと焙っている。
「みんな、濡れてきてるよ」
　マサヒコはペロリと、唇を舌で舐めた。
乾きを潤すための行為だったが、
少女たちには、自分たちを食らう狼の舌舐めずりにようにも見えた。
無論、だからと言って恐怖を四人が感じることはない。
逆で、彼女たちは、マサヒコに「食べられたがっている」のだ。
「マサちゃ、あん……はぁ……」
「こ、くぼ……くぅん……」
「身体が熱いよぅ……」
「マサヒコ君、マサヒコ君……」
　床の上で、痴態を露わにする四匹の美しく、そして淫らなケモノたち。
マサヒコに命令されたから、はしたない格好をしているわけではない。
彼女たちは、自らすすんで、己の奥をマサヒコに供している。
ただ、マサヒコを愛するが故に。

548 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 23:47:51 ID:kmoFq1W8

　春のうららかな日差しが街の隅々を照らし、
本咲きとなった桜が、優しい風に吹かれ、人々の頭上で軽やかに揺れる。
四月に入って数日、学校でも社会でも、新しい年度がスタートし、
ワクワクとした気持ちが抑えきれないこの頃だ。

　マサヒコとミサキ、アヤナ、リンコ、そしてアイの関係は、昨年から全く変わっていない。
マサヒコは皆を愛し、皆もまた、マサヒコを愛する。
世間一般の常識で測ってみれば、イビツとしか言いようのない、五人の関係。
だが、五人にとっては、イビツでも妙でも何でもなく、これ以上ない完成された愛のカタチなのだ。
恋愛につきものの、嫉妬や羨みなどの感情は、人間なのだから、当然ある。
しかし、そこから綻びが生じることはない。
全てを包み込むマサヒコの男としての器の大きさと、
マサヒコをひたすらに愛するミサキたちの想いの深さ。
五人が五人とも、満たされている。
そう、何かが入り込む余地などない、幸せな世界―――

「あぅ……！」
　ベッドの上で、リンコはぷるっと小さく、身体を痙攣させた。
一番感じる秘所の粒を、マサヒコの人差し指がトントンと叩いている。
滲み出た愛液が、無毛の秘所をねっとりと濡らし、溢れ、飛び散る。
「的山は、相変わらず、敏感なんだ……な」
　マサヒコの声が途切れ途切れになるのは、
ミサキとアヤナ、アイが桜色の舌が身体を這っているからだ。
「くっ……！」
「きゃう……うぅ！」
　唾液の線が三つ、まるで蛇のようにマサヒコの体にぬらぬらと伸びていく。
三人の舌がくねる度に、マサヒコと、そしてリンコが呻く。
間接的に三人が、リンコを責めていると言えるかもしれない。
「あ……ん……っ！」
　リンコは朱が差した身体をぐっと仰け反らせ、顎を突き出した。
秘所から零れた愛液が珠となり、マサヒコの指から手首までに振りかかる。
「リンちゃん、イッちゃった……？」
「ああ、的山は感じやすいから、ちょっと触っただけですぐしょぐし……むぅ！」
　最後まで喋りきる前に、アヤナはキスでマサヒコの唇を塞いだ。
両手をマサヒコの首に回し、ぐいぐいと強引に吸いつき、舌をねじ込む。
549 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 23:49:29 ID:kmoFq1W8
「ん……」
「む、ちゅ……は、あ……んん、ぷ、はぁ」
　一分程後、アヤナはマサヒコから離れた。
マサヒコとアヤナの唇の間に、唾液の細い橋がつうっと掛かり、
重力に引かれて下に垂れ、そしてぷつりと切れる。
「小久保君……次は、次は私にシテ……」
　瞳を潤ませ、アヤナは情熱的にマサヒコに迫る。
「ああ、若田部」
　マサヒコはミサキとアイをちらりと見やった後、
リンコの愛液でべとべとになった指を、アヤナの秘所に潜り込ませた。
「あっ……！　はぁ、っ……！」
　大きな嬌声をあげて、マサヒコの指から送り込まれてくる快楽を貪るアヤナ。
「あ、あ……！　小久保くぅん、キモチ、イイ……っ！」

　マサヒコと関係を持った四人の中で、最も性に対して貪欲なのがアヤナだった。
普段は気高く、強気で、時にキツイと評される性格の彼女だが、
それだけに、愛欲には素直に身体と心が反応してしまうのかもしれない。
「マ、マサちゃん、私も……！」
　負けじと、ミサキもマサヒコにお願いをする。
ミサキとアヤナ、二人が揃ってマサヒコに抱かれる時、
先に激しい行為を要求するのは決まってアヤナで、
ミサキはいつもその後に、やや恥ずかしげに、マサヒコにねだるのがパターンだ。
勉学ではミサキの後塵を拝し続けてきたアヤナだったが、
セックスの場では、積極性で一歩リードといった感じだろうか。
「ミサキ……」
　涙目で求めてきたミサキに、マサヒコはそっとキスをすると、
アヤナを責めているのとは逆の腕を、ミサキの下腹部へと滑らせた。
　マサヒコは積極的かどうかで、行為に差をつけたりしない。
皆に等しく、そして最大限の愛と誠意をもって、優しく、時に激しく、快楽を施す。
それが、小久保マサヒコという男なのだ。
「二人とも……ぐっしょりだな」
「はぅっ……あっ、小久保く、ん、小久保くぅん！」
「マサちゃ、いいよ、凄い、よぉ……！」
　下から突き上げるような快感に、ミサキとアヤナは姿勢を保っていられず、
崩れるようにマサヒコの肩へと寄りかかっていく。
「お……っと」
　腰かけた状態では、さすがに二人分の体重を支えることは出来ない。
勢いに押され、トサリと背中をベッドに預けるマサヒコ。
「あ……」
　アイは艶がかった声を歯の間から漏らした。
ベッドにマサヒコが横たわったことで、股間の膨らみがはっきりとわかるようになったからだ。
「マサヒコ君の、が……」
　トランクスの布地を押し上げる、マサヒコの猛り。
速くトランクスの外に解放してほしい、と言わんばかりだ。
550 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 23:50:36 ID:kmoFq1W8
「す、ごい……」
「は、濱中先生！？」
　アイは手を伸ばすと、マサヒコのトランクスに手をかけ、下ろし始めた。
猛ったモノが途中で引っかかったが、アイは構わず、じりじりと力を込め、
足首の方に向かってトランクスを引っ張っていく。
「わ……」
　亀頭にかかったトランクスが外れ、その反動で、マサヒコのモノがぶるりと揺れる。
勢いよく天井に向かってそそり立つマサヒコのペニス。
その逞しさに、思わずアイは感嘆の声を上げた。
「ホント、すごいね……」
「そんな、別に初めて見るわけじゃな……むわわわ」
　マサヒコが指の動きを止めた隙に、ミサキとアヤナがキスをせがむ。
互いの額がぶつかり合うが、お構いなしだ。
「ふふ……」

　ミサキとアヤナに圧し掛かられた形になったマサヒコを見て、アイは微笑んだ。
そして、同じくマサヒコの下半身に覆いかぶさり、いきり立つマサヒコのモノに、そっとキスをする。
「む、あぁ……マサちゃん、マサちゃあん……」
「好き、大好きなの、小久保君」
「ぺろ……はむ、ぅ……、ふふ、マサヒコ君の、硬い……」
　ミサキとアヤナはマサヒコの口と頬に、アイはマサヒコのモノに。
唇と舌を這わせる。
何度も、何度も。
「う……ん……あ、あれぇ……？」
　そこに、リンコがようやく絶頂から覚めた。
目をパチクリとさせて、目の前で絡んでいる四人の姿を見る。
「……あ、ずるいよう、うぅ……」
　気を失っている間に置いてきぼりにされたことを悟り、慌てて輪に加わるリンコ。
アイの隣に身体を寄せると、一緒にマサヒコのモノにしゃぶりつく。
「ちょ、ちょっと皆、わむ、むむむ、むー！」
　いつもいつも、マサヒコのペースでコトが進むわけではない。
ミサキ、アヤナ、リンコ、そしてアイ。
四人が揃ってマサヒコと身体を重ねる時だけが、マサヒコの手から主導権が離れる。

「マサちゃん、そろそろ私に……」
「ダメ、ダメなんだから！　最初、一番最初は私に、アヤナにちょうだい！」
「ああん、ミサキちゃんもアヤナちゃんもズルいぃ……」

　窓の外では、満開の桜が揺れ、
部屋の中では、桜色の肌が揺れる。
穏やかで、優しくて、そして淫らなこの一時。

「三人とも喧嘩しないで、ほら、マサヒコ君も困ってるよ。ふふ……」
「いや、はははははは……」

　マサヒコは皆を愛し、皆もマサヒコを愛する。
五人が五人とも、満たされている。
何かが入り込む余地などない、そう、幸せな世界―――

F　I　N

551 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 23:51:31 ID:kmoFq1W8
ここまでです。
最初はもう少し激しいエロにするつもりだったのですが、
今回はちょっと断念しました（ペニバンとかの道具を使って……とか考えてました）。
また機会があったらチャレンジしてみたいと思います。
552 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/08(日) 23:53:19 ID:jpeUeuqX
ピンキリ氏GJ！
久々の投下とはじめてのリアルタイム投下に感動
553 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/09(月) 02:10:19 ID:sa3jUCnB

もう氏家は少マガでは連載しない、またはできないのかな？
だとしたら少し寂しいな
554 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/09(月) 16:46:34 ID:gF466deH
>>553
あかほんが失敗気味だったからな
復帰は難しいし、できるとしても先になるだろう
妹が終わったら氏家は漫画家続けられるのか心配ではある

まあ、マターリと氏家新作と
職人の新SSをwktkしながら待とうぜ（もう400KB越えちゃったけど）
555 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/10(火) 07:24:17 ID:UH/IOzU2
プロ野球も開幕して久しいし、エース陣の投球キボン＆フワーリ
556 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/10(火) 15:45:08 ID:2swsRIVR
投下待ち
557 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/10(火) 16:03:20 ID:oBvbR7wL
と
558 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/10(火) 16:04:31 ID:oBvbR7wL
悪いミスった

投下そのものは日曜日にあったのにｗ
盛り上がるためにはもう二、三発必要か？
559 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/10(火) 21:12:39 ID:yvWcRNDr
遅ればせながらピンキリ氏ＧＪでした。
やはり連載が妹一本ではちょっとつらいのかな？
560 名前： 116 [sage] 投稿日： 2007/04/11(水) 00:37:48 ID:05JYHYG0
じゃあ妹の話でも

加藤先生のセーラー服はテラヤバスｗ
以前も傘に入ってく？　みたいなシチュがあったが
家で旦那さんとセーラー服姿で・・・・とか
してたらたまらんよなｗｗ
561 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/11(水) 01:19:54 ID:3U35AabZ
加藤先生いいよね、旦那さんは果報者だ
小宮山や佐々岡みたいにエロ特化はいるけど、氏家女性キャラはみんないい奥さんになりそう（レズのマリアは除外）
562 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/11(水) 17:02:58 ID:i8tiBJAI
エロいアキが読みたい
563 名前： 117（´_ゝ`） [sage] 投稿日： 2007/04/12(木) 04:19:40 ID:eaf0m2u8
かつて多くの神職人や住人達で賑わっていた此処は、
現在は寂しくなったもんだねぇｗ
過疎化の農村状態みたいなｗｗ
564 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/12(木) 07:23:34 ID:LVfgLcN1
まあﾏﾀｰﾘとな
565 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/12(木) 07:41:59 ID:vX7UViqV
そしてﾌﾜｰﾘと
566 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/12(木) 08:28:51 ID:6goeo5mb

ﾏﾀｰﾘﾌﾜｰﾘﾊｧﾊｧして行きましょうや（´ー｀）
567 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/12(木) 08:51:21 ID:kBMzwzeg
太く短くって感じでしたなぁ・・・
568 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/12(木) 09:05:18 ID:M4VcvkwX
以前の栄えっぷりは中堅漫画にあるまじきもんだった品
職人の投下がさらなる新職人の投下を呼ぶインフレーション（一ヶ月でスレひとつ消費ってのもあったな）
メイン連載が終わり、流行り廃りの流れに捕われるのは当然のこと
それでも最盛期の呼び水になった初期職人は生きてるし、ぽつぽつ新人さんも来る
一月に数本投下がある、数は減ったかもしれないが雑談するくらいの住人もちゃんといる

これで不満言ったら罰が当たらぁな
569 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/13(金) 01:37:49 ID:YxMqS66T
あと二つ三つ投下があったら480KBくらいになるかな
正直鈴木君の末路がどのSSよりも気になってしまっている俺ガイル失礼サマソ
570 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/13(金) 16:33:47 ID:G+ejwnMT
そら氏はお元気でしょうか？
571 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/14(土) 11:15:32 ID:Vqwj+dnO
やっぱりみんなそれぞれに好きな（気になる）職人さんがいるのか
572 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/15(日) 01:39:04 ID:1+Cj0OHR
週末だのに人いねー
573 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/15(日) 15:10:08 ID:BF3o6tE6
σ(´･ω･｀)おれがいるぞ
574 名前： 郭泰源 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 00:32:41 ID:UtdLxUDi
はい、どうもお久しぶりの郭です。
遅れていましたが、シンジの女子中学生喰いシリーズ、チカ編の前編を投下します。
それでは、投下。
575 名前： 郭泰源 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 00:33:12 ID:UtdLxUDi
「よし、じゃあ今日はこんぐらいにしとこうか、チカちゃん？」
「あ……はい、そうですね。もうこんな時間ですし。
じゃあ、ちょっと待っていて下さい、シンジさん。お茶を持ってきますから」
「いや、お構いなく。もう授業も終わったし帰るよ」
「あの、もう少しだけダメですか？実はシンジさんに食べてもらおうと思って、
チーズケーキを焼いたんです。美味しくできたかどうか分らないけど、あの……」
「それはありがたいけど、でも、いいの？」
「はい。す、少しだけ待っていて下さい！」
嬉しそうにそう言うと、チカは立ち上がってドアの方向へと駆けていった。
「そんな急がなくてもいいって、チカちゃ」
若干ドジっ娘の気のあるチカのことをつい心配してしまうシンジだが、
あっという間に彼女は部屋から消えてしまっていた。
（ま、授業そのものは順調なんだし……ご馳走になるか）
のんびりとそう思うと、シンジはう〜〜〜ん、とひとつ伸びをした。

舞台は吉見家、少しだけじめじめとした梅雨の季節。
家庭教師シンジ、今日の生徒は吉見チカである。
英語に若干の不安を抱えるとはいえ、真面目でコツコツ型のチカは、

シンジの出す課題や授業にも熱心に取り組んでくれていた。
もちろん、彼女がシンジに対して好意を抱いているからこそ、というのもあるのだが。
（チカちゃんの、気持ちはそりゃあ……嬉しいんだ。でもな～～）
鈍いシンジとて、チカが自分に恋愛感情らしきものを抱いているということは薄々感づいていた。
しかしつい先月に従妹であるエーコと初体験を済ましたばかりであり、
そうなってみると今度はチカの気持ちを思ってしまって煩悶するのであった。
（チカちゃんの気持ちには……応えられない。でも、どうしたら傷つけずに……）
「お待たせしました！シンジさん」
「わ！ああ、ありがとう、チカちゃん」
「？びっくりさせちゃいましたか、シンジさん？」
「ん……いや、ちょっとね」
考え事をしていたところにチカが戻ってきて驚いてしまったシンジは、苦笑して彼女に答えた。
ちょっと心配そうにシンジを見ていたチカだが、シンジのその表情を見て安心したのか
少し照れくさそうな微笑みを浮かべると、ケーキをテーブルに並べ、お茶を淹れた。
「それじゃあ、どうぞ。は、初めて作ったんで、自信はあまり無いんですけど……」
「いや、美味しそうじゃん。いただきます。ん、大丈夫、美味しいよ！チカちゃん」
「ホントですか？」
「うん。甘さもちょうど良いし、ふわっとしてるし、すごく上手だよ」
「良かったあ！お母さんに教えてもらって、一生懸命作ったんです。
シンジさんに美味しいって言ってもらえて、嬉しいです！」
「うん、お世辞抜きでホントに美味しいよ。へえ～～、これならお店で出せそうなくらいだ。
あはは、あんま美味しいんでがっついてもう食べちゃった。ごちそうさま、チカちゃん」
「あ、ありがとうございます。すごく、すごく嬉しいです！シンジさん」
顔を赤くして、本当に嬉しそうにチカは笑顔を浮かべていた。その表情は、健気で、可憐で―――
（う……可愛い、チカちゃん……）
先ほどのシンジ決意も、ぐらり、と揺らぐほどだった。
最近でこそエーコの影響で妙なキャラ設定が追加されつつあるが、
元々清楚な感じのする、どこか守ってあげたくなるような正統派の美少女である。
そんなチカが自分に好意を抱いてくれているという据膳状態にシンジはまた悩むのだった。

（いや、確かにチカちゃんは可愛いけど……でも、そんな……それは……）
「……シンジさん？」
「！あ、ゴメン、チカちゃん、俺、またボーーーっとして」
「あの……シンジさん、なにか悩みでもあるんですか？」
「え！？」
図星を指され、ぎくり、としてしまうシンジ。
「授業中は普通でしたけど、なんだかヘンですよ？今日のシンジさん。
もしかして、私の勉強の進み具合悪かったりします？」
§
576 名前： 郭泰源 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 00:33:56 ID:UtdLxUDi
「！い、いや、そんなことないよ。チカちゃんは頑張ってるし、
最近苦手だって言ってた英語も力がついてきたと思うよ？あはは、ま、まあさ。

大学生ともなると悩みのひとつやふたつくらいは出てくるもんで……
それはともかく、料理、上手なんだね、チカちゃん？びっくりしちゃったよ」
「？はい、ありがとうございます」
なんとなくちぐはぐな会話になってしまうシンジだが、
チカはそんな彼のことを思い詰めたようにじっと見つめていた。
「あの、シンジさん？質問しても、い、いいですか？」
「？うん、俺に答えられることだったら」
「し、シンジさんは、あの……あ、アキさんと、付き合ってるんですか？」
「はひ？アキちゃんと？？？って、な、なんで？俺とアキちゃんが？」
「だって、シンジさんのおうちに遊びに行くと、いつもアキさんがいて。
ふたりとも、仲良さそうで。も、もしかして、付き合ってるんじゃないかって」
「あのねえ……そんなんじゃないよ。アキちゃんはね、カナミの大事な友達だし、
確かに一緒にいてすごく楽しいコだったけど、なんていうか、その、友達感覚っていうか」

「……付き合ってるわけじゃ、ないんですね？」
「ああ。ていうか、俺まだ女の子と付き合ったことなんて」
「……良かったぁ」
顔を赤くしたまま、ぷふぅ、と息を吐いてチカが満面の笑顔になる。
ちょっとだけ、泣き笑いの、笑顔。あどけなくて、可愛らしくて、清らかな笑顔だった。
（……いや、だから、なに見とれてるんだっての、俺！！！）
ぼんやりとチカの笑顔に見とれていたシンジは慌てて我に返った。
「でもね、チカちゃん、その、俺は」
「誰とも付き合っていないっていうことは……わ、私が、立候補しても、良いですか？」

（喜多――――――!!!!!!!!!!!!!）
「そ、それはその、あの」
（ええと……でも）
頭の中で何度も予想していたはずの場面だった。そのたびに、どうしても答えが導き出せなかった。
そして実際それが現実のものとなった―――目の前には、チカの、汚れ一つ無い瞳。
しかし結局なにも答えられず、しどろもどろになるしかない自分の意志の弱さを、シンジは呪った。
「あのさ……俺も正直、なんとなくだけど気付いてたんだ。
もしかして、チカちゃんが俺のことその、好きでいてくれるんじゃないかって」
「私……やっぱりバレバレでしたか？」
恥ずかしそうに、それでも幸せそうにチカが微笑む。
「バレバレっていうか〜〜うん、なんていうか多分、俺のこと、
お兄さんみたいな感じで懐いてくれてるのかなって、そんな風に」
「うふ。鈍いですよね、シンジさん」
「え？」
「私、初めて会ったときからシンジさんのコト、良いなあって思ったんです。
初恋が一目惚れなんて、私自身ビックリしたくらいです。そういうのに憧れとかあったけど、
私ってちょっと冷めてるし。あんまりそういうタイプじゃないのかな、って思ってたのに」

「チカちゃんみたいな可愛いコに、そんな風に言われるのは、マジで嬉しいんだ、俺。

でも、俺のどこが良かったの？正直好かれるようなことなんてしてないと思うけど」
「初めてエーコと遊びに行った日、私が転びそうになったのを抱きとめてくれたの、覚えてます？」
「……ゴメン、マジで覚えてない」
「うふふ、そのときなんですよ。学校でラブレターとかもらったときも、告白されたりしたときも、
全然そんなことなかったのに。シンジさんに、抱きとめられたとき、生まれて初めてドキドキして。
それで、気付いたんです。私が、シンジさんに、恋をしちゃったってことを」
（？？？それが、理由？全くワケが分らん？？にしても、チカちゃんって、モテるんだな）

思春期女子の恋のきっかけを聞いてもさっぱり分らないシンジだが、
チカが結構モテるということを聞いてほんの少し嫉妬したりして。
（そう言えば福浦さんもそんなこと言ってたし……確かエーコも言ってたな。
そりゃまあチカちゃんって普通に可愛いし、なんていうか、男の保護欲をそそるっつーか……）
男というのは、身勝手で、アホで、悲しい生き物である。
それまではどうやって彼女の恋心を断ち切ろうかと考えていたシンジだったのだが。
§
577 名前： 郭泰源 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 00:34:54 ID:UtdLxUDi
（考えてみれば、もったいないっつーか……こんな可愛いコに、
好きだとか言われるのなんて、俺の一生に何度あるか……）
急速に、シンジはチカを失うことが惜しくなり始めていた。
（それに、最近のエーコは……）

「あン……あっ、あふうッ、気持ちイイよ、シンちゃん！」
「た……頼む、エーコ……もう、今日三回目だし、俺、限界が」
「あ　ッ、アあッ、い、イイッ……からだじゅうが熱い……奥に、奥に、当たってるぅ！」

（聞いちゃいねえ―――！！！！）

そう、初体験以来、エーコは執拗なまでにシンジに肉体関係を求めるようになっていた。
初めのうちこそ、シンジ本人もエーコとのそれに溺れていたのだが。

（アイツ、もしかして、最初から俺の体目当てだったんじゃ……）

元々そちら方面に対する興味が強かったエーコのことであるし、
シンジ自身も性欲は少ない方ではないので、最初はまあ、上手くいっていた。
しかし、エーコの欲求は日増しにエスカレートするばかりで―――

「シンちゃん……我慢できないよう……」
「！∫！⊥！⊿え、エーコ！お前！！」
「えへ……下着なしだと、いつ人に見つかるかと思って、ドキドキして、
私、すごく濡れちゃったよ……ほら、ぐっちゃぐちゃ……すぐ、したい、ねえ、シンちゃあん……」

「シンちゃん……縛って」

「！＋！X$！ってエーコぉぉぉぉぉ！！」
「えへへ……嫌いじゃないでしょ、こういうの？で、このバイブで弄って？ね？」
「お、お前、どこでこんなもんを!!!!!!!!!!!!!」
「いいよ……シンちゃんになら、お尻も。この細いので……」

もはや歯止めがきかなくなりつつあるエーコに、正直最近のシンジはドン引き気味だったのだ。
それだけに、今日改めてチカの純情っぽさが新鮮に映るのも無理の無いところであった。
「私……私、本当に嬉しかったんです。シンジさんが、この町に来てくれて。
もしかしたら、私に会いたくて、それで、藤井寺大学を受けてくれたんじゃないかって。
そんな風に、思ったりしてました。ずっと好きだった人と、こんなに一緒にいられて、
それだけでも幸せなんですけど……でも、私はもっと、シンジさんと一緒にいたいです。

だから……こ、恋人に、なってくれませんか？」
（ぐぅううううう……だから、な、なんでそんなに可愛いんだっての）
狙ったわけではないのだろうが、背の低いチカがシンジを見つめようとすると、
自然上目づかいになってしまうワケで。結果、上目づかいフェチのシンジとしては堪らないワケで。
「シンジさん……」
うるうるとしたチカの瞳に見つめられているうち―――
“ぎゅッ”
（……負けた）
あっさりと、シンジの理性は欲望に負けた。チカの小さな体を、抱き寄せていた。
「嬉しいです、シンジさん……抱きしめてくれたの、二度目、です」
「チカちゃん……俺」
「あの……もっと、抱きしめて欲しいです」
「え？」
「もっと、ぎゅっと……私、シンジさんのこと、もっと……もっと、感じたいから」
「ち、チカちゃん……」
シンジは、ほんの少し、腕に力をこめた。チカの、柔らかなからだが密着してくる。
華奢なようでいて、どこか肉感的な感触がした。
「……」
無言のまま、チカがねだるように唇をすぼめる。
§
578 名前： 郭泰源 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 00:35:55 ID:UtdLxUDi
彼女のきれいなおでこを隠している、前髪を軽く手で梳くと、シンジは―――
“ちゅ”
静かに、唇を、重ねた。エーコの唇より、ふっくらとした感じがした。
ぷるん、とした唇の感触が、心地よかった。思わず、シンジはチカの唇を、吸う。
“ちゅう……”
「ん……んッ」
シンジの唇撫に、チカが軽く身悶えるように応える。耐えるような呻き声を、上げる。
チカの白い頬が、薄桃色に染まる。その滑らかな頬の真ん中に、小さな、ニキビの跡があった。
“つぷッ……ちゅ”
「！あ……ダメ、や……シンジさん、汚い」

「可愛いよ……チカちゃん」
「いや……だって、そんな、に、ニキビ」
チカは恥ずかしさから逃れようとするが、シンジはしつこいくらいに、そこを舐め続けた。

“ちゅッ……ちゅぴ”
「あ……ひゃ……」
ニキビを中心とするように、チカの頬の赤みが増してゆく。身を捩るチカを、さらに強く抱きしめる。
「やン……シンジさんの意地悪」
「なんでだろうね、チカちゃん？」
「え？」
「こんなに可愛いチカちゃんだから……なおさら、ニキビが愛しい。
不思議な、ものだね。はは、好きなコをいじめるガキみたいだけど」
（？？？良く、わかんないけど……）
シンジが、自分のことを、愛してくれていることだけは、なぜか良く分った。
チカには、ただそれが嬉しかった。
“ちゅ……ちゅッ”
「ん……」
シンジが、再びチカの頬にキスをしてきた。チカももう、避けることはしなかった。
小さく、呟き声にも似た声を洩らし、ただそれを受け入れた。
“ちゅッ……ちゅ〜〜〜、ちろ”
舌先で、頬に円を描くように舐めるシンジ。
くすぐったかったが、目を閉じることもせず、チカはシンジの舌撫に耐える。
（あぁ……そうだったんだ）
チカは――じっとシンジを見つめ返していた。勿論その瞳には彼に対する愛情が湛えられていた。
しかし、それは慈しみや優しさといった種類のものではなかった。
むしろ、ひどく強い、意志的なものであるように、シンジは感じていた。
（俺が……なかなか、チカちゃんの気持ちに応えられなかったのは、
チカちゃんの気持ちを、断ち切ることができなかったのは……）
怖かったからだ、と思った。一見、清楚で儚げな美少女であるチカの、
心の奥底にある強さを無意識のうちに感じていたからだろう、とシンジは思った。
チカは、エーコや、カナミや、今までに会ってきた少女たちとは違う、情念の人だという気がした。
“ちゅッ”
改めて、ゆっくりと唇を重ねた。
“ちゅうッ”
（チカ……ちゃん）
シンジに挑むように、チカはシンジの唇を吸ってきた。
唇だけで、シンジの全てと交わろうとするかのような、強い、キス。
依然、彼女の瞳はただ一心にシンジを見つめていた。
白目が、少し青みがかっている、とシンジは思った。初めて、それに気が付いたような気がした。
“ちゅッ、ちゅうッ”
ふたりは、ひたすら互いの唇を重ね、吸い、貪った。
唾液で、お互いの唇が、てろてろ、と腫れたように輝く。

「シンジ……さん、私、私、もう……」
唇を離すと、待ち焦がれたようにチカが強く抱きついてきた。
チカのからだが、さらにシンジに押しつけられる。
シンジのからだに馴染むように、弾くように、柔らかく。
§
579 名前： 郭泰源 ◆5pkah5lHr6 [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 00:36:26 ID:UtdLxUDi
今回は以上。タイトルは終了次第付けますが、多分『Some Girls#3』になるでしょう。
現在ちょっと仕事＆家事で忙殺されていますが、実はアイ×マサヒコでなんだか中編が、シンジ×ナツミ×ケイ×カズヤで短編が書けそうな感じ。いや、でも完成はいつになるやら（苦笑）
では股。
580 名前： 116 [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 00:45:05 ID:UETzOr7g
はげしくＧＪ！！！！

・・・そしてエーコのエスカレートにﾜﾛﾀw
581 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 00:47:55 ID:AiZLsXX7
郭氏 GJ！

いや、静かだったから暇潰しに調べたデータでもカキコしようかと思ってた矢先の投下！乙です！

えーとですね、最初のスレから現スレのここまでに投下した職人数、作品数を調べてみたんです
（シリーズ物は分割投下された数で計算しました）

今現在、氏家スレに足跡を残した職人は総勢 78 名
投下された SS は総数 632 作品、うち、あかほん 23 作、妹 218 作、濱中 391 作

なんという数（郭氏の最新作も含めました）…
ちなみに、投下数ランキングは上からこうなりました
郭氏（夫人含む）：83 作品（あかほん 4、妹 16、濱中 64）
ピンキリ氏：78 作品（あかほん 6、妹 14、濱中 58）
トマソン氏：51 作品（あかほん 0、妹 32、濱中 19）
518 氏：42 作品（あかほん 0、妹 1、濱中 41）
そら氏：39 作品（あかほん 0、妹 12、濱中 27）
ペピトーン氏：35 作品（あかほん 0、妹 32、濱中 3）
72 氏：31 作品（あかほん 2、妹 24、濱中 5）
アカボシ氏：17 作品（あかほん 0、妹 16、濱中 1）
クロム氏：15 作品（あかほん 0、妹 7、濱中 8）
ナット氏：14 作品（あかほん 0、妹 9、濱中 5）

これに以下で 10 作品以上投下はナット氏、541 氏、マリリスト氏、長時間氏、メリー氏、拓弥氏、264 氏、75 氏

上位投下者で投下総数の65%を占め、
逆に投下は一度だけの職人は37人にのぼり、職人全体の半分近く
バブル期の我も我もの加熱ぶり、そしてベテラン勢のタフすぎる継続ぶりがよくわかるデータとなりました（計算間違いあったらすいません）
582 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 01:24:20 ID:UETzOr7g
>>581 ＧＪ！！！
何の役に立つデーターかはわからんが
とにかくスゴイことだけはよくわかったｗｗ
583 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 16:57:56 ID:W+ooEX7S
郭氏GJっした！

>>581
郭氏の投下数すげえｗ
シリーズものでまとめたらもう少し減るんだろうけど、それでも莫大な数だなあ、100が目の前だ
郭氏はたぶんぶっちぎりでトップ投下だとは思ってたけど、
俺個人の中ではトマソン氏や518氏、そら氏あたりはもう少し多いとも思ってた
しかし、やはり上位は初期職人ばかりだな
ありがたいことだ、足を向けて寝られないね
584 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/16(月) 23:51:40 ID:UETzOr7g
上位で、そら氏までは（トマソン氏を除くと）多く書いてる人ほど濱中ネタが多いね
掲載誌がメジャーで入りやすいからか、単純にネタとして書きやすいのか
585 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/17(火) 07:19:49 ID:RgLGJGeV
思春期と濱中、どちらを先に目にしたかも関係あるカポネ
あと、これはかつて某職人氏が言っておられたと思うが、
氏家漫画は設定や展開がいい具合に大雑把で隙が多い、だから妄想しやすくSSが書きやすいと
これだけ大量投番できたのはそういう理由からなのかなぁ
586 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/17(火) 15:33:23 ID:y5h7P60R
しりとリレーの続きは残り10KBくらいになってからかな？
まだ数人職人さんが投下できそうだね
587 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/18(水) 16:55:49 ID:Ljbzs3Hr
しかしマジで人が少なくなった
以前は郭氏の投下があれば数時間内に10近くＧＪレスがついたもんだが
588 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/04/19(木) 07:03:49 ID:7vtrF2ey
郭氏GJです！
あとたまにはあげ
589 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/19(木) 18:01:11 ID:li/K9Iu+
このスレと氏家はこの先生き残れるのだろうか
590 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/19(木) 18:16:26 ID:POageGir
マガジンスペシャルNO.6から新連載始まるようです
「生徒会役員共」という四コマらしい…
591 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/19(木) 20:23:17 ID:uxw2/Mib
>>590
その情報だけで勃起した

頑張ってSS書くわ
592 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/19(木) 20:40:03 ID:li/K9Iu+
マガスペスレ覗いてきた

五月十九日発売号で新連載生徒会役員共
伝統ある女子高が少子化で共学に、女子467人男子68人、ちょっとHな描写あり

氏家復活　は　じ　ま　っ　た　か　？
職人的にもスレ的にも追い風だ
593 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/04/19(木) 21:58:26 ID:pCMuYoQ/
内容的にも濱中と思春期を足した感じになりそうだから職人さんもやりやすいと思う
594 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/19(木) 23:15:56 ID:hwdLSjdM
新連載ｷ…(-__-)ｷ(__-)ｷ!(-　　)ｷｯ!(　　)ｷﾀ(.　　゜)ｷﾀ!(　゜∀)ｷﾀ!!(゜∀゜　)ｷﾀ━━━
595 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/20(金) 08:43:59 ID:vfxlN3Ge
これはいい起爆剤だな
ベテラン職人陣も発奮するだろうし、新人職人もまた増えるかもしれない
まあ、あまりイレコミすぎずにフワーリと期待しようぜ！
596 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/20(金) 15:42:29 ID:J4TaDBiX
しかし、本当に学園下ネタしか守備範囲がない漫画家だな・・・
濱中終盤の展開を見るに恋愛モノも描けないことはないと思うんだがな
妹でも時々センスのある台詞があるし

濱中本スレなどで恋愛展開に批難轟々だったことを考えると、やはり柄じゃないし似合わないのかな
しかし、代わりというわけではないだろうが、恋愛展開を補填するようなＳＳを職人がいろいろと書いているのはおもしろいなｗ
597 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/20(金) 17:10:50 ID:zEi8vvfN
マガスペって乳首解禁ありだっけ？氏家マンガはそういうのないほうがいいな
598 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 04:31:40 ID:WhGQ8tAH
確かに・・・氏家マンガのエロス描写はフワーリ程度で(*・∀・*)ｲｲ
599 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 07:20:07 ID:BQRQMI9s
でも乳首券もフワーリも関係なくSSでエロるわけだけどね、このスレでｗ
600 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 10:30:46 ID:Lni0lKvj
600
601 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 13:23:44 ID:KutDZqEo
さて、どの職人が最初の生徒会ＳＳ書きになるだろうか
602 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/04/21(土) 14:23:25 ID:lqka2uhK
マガスペまだ読んでないんだがSS書きやすそうな内容なのか？
あかほんみたくならなければ良いんだが…
603 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 18:15:18 ID:IJzMNOea
そういやアカホン連載前から投下した鬼職人いたよな
604 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 18:54:53 ID:pWm9GYoc
>>596
恋愛展開事態は不評じゃなかったと思うよ。
変な派閥が出来て荒れやすくなっていっただけ。
それまではマッタリしていいスレだったんだよ。

あの派閥は最初からスレにいた人間がやったとは思えないけどな･･･

スレチなのでこのへんにしとくが
605 名前： ペピトーン ◆NerkxCFOyg [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 21:40:55 ID:edMrnKlb
test
606 名前： ペピトーン ◆NerkxCFOyg [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 21:43:20 ID:edMrnKlb
こんばんは。まだ生きておりました。
早速ですが、投下させていただきます。
タイトルは「おかしな二人　第四話　ショート寸前」で。
607 名前： ペピトーン ◆NerkxCFOyg [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 21:47:13 ID:edMrnKlb
セイジの部屋－
独身男の部屋らしく、掃除なんぞ滅多にしないので中はほこりだらけで陰毛なんかも
結構落ちている。リョーコがここ最近、セイジの部屋ではなく自分の部屋に呼び出して
いるのはやはりこんな汚い部屋ではプレーをしたくないからであろう。

ある日の日中－
ピンポーン
セイジが部屋にいるとチャイムが鳴った。セイジは玄関に迎えに行く。
「ああ、よく来たね。さあ、入って」
「サキでーす。今日はよろしくお願いします」
サキと名乗ったこの女はデリヘルの女である。セイジは懲りもせず違う女に
手を出しているのである。リョーコにバレたら只では済まないというのに。でもセイジに言わせると
ＳＭプレーばかりでは嫌だから違うプレーで楽しみたいらそうだ。
全くリョーコが悪いのか、セイジが悪いのか。
女は服を脱いで下着姿になると、
「サキ、只今入りましたー」
携帯で事務所に連絡を入れ、下着も脱いで全裸になるとシャワーを借りた。
セイジも服を全部脱ぎシャワールームに入り一緒に浴びる。中でたわいのない会話と共に
ちょっとしたお触りなどもしながらシャワーを済ませた。そしてベッドに行き、セイジは女を
仰向けにし、上から覆いかぶさり唇を重ね口の中に舌を入れた。そしてうなじ、乳房、乳首、
腋、臍、下腹部へと進み、恥部を舐め回す。
「はあ、あああ…」
女が甘い声を漏らす。セイジが舐め回すたびに恥部から愛液が湧き出てくる。すると、
「…指、入れてもいいよ」
女がそう言ったのでセイジは遠慮なく恥部に人差し指を入れた。クチュ、クチュと
いやらしい音が部屋に響く。
「ああん、もっと突いて…」
さらに中指も入れて激しく突く。クチュ、クチュと部屋に濡れた音がなおも響く。
「あっ、ああっ…あああああ！」

女が一際大きな声を上げると恥部からは大量の潮が噴き出し、シーツに透明のシミを作った。
どうやら濡れやすい体質らしい。

608 名前： ペピトーン ◆NerkxCFOyg [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 21:48:38 ID:edMrnKlb
「気持ちよかった…あ、ごめんね、ベッド濡らしちゃった…」
女が気にすると、
「いいよ、気にしなくても」
「…じゃ、仰向けになって」
今度は女がセイジを仰向けにし、セイジの全身に舌を這わせた。
そしてペニスに到達し、口で包み込むとセイジの身体に電気が走った。
女の舌使いはプロらしくさすがに上手で、このままでは早々と暴発してしまいそうだ。
これはたまらん、といった様子でセイジは女の頭を抑えて制すると、
「じゃ、素股でいかせてあげる」
女はセイジにまたがり、股間にこすりつけると思いきや、そのままペニスを自分の中に入れた。
（ああ、気持ちいい…って、こ、これは本番じゃないのか！？）
セイジが戸惑っていると、
「…ふふっ、これが私の素股よ」
そういうと女は腰の動きを激しくした。セイジは少しでも長く粘膜の擦れあう感触を味わおうと
イクのを我慢するが、間もなく限界を迎えた。
「おおっ、そろそろ出そうだ、あおぅ…」
「ああっ、中に出して…！」
セイジはたまらず女の中に大量の精液を女の子宮の奥に放出した。降って湧いたような幸運な
快楽の余韻をしばし楽しんだ後、再び二人でシャワーを浴びた。ちょうど身体を拭いている時に
女の携帯が鳴った。どうやら事務所から時間が来た事を知らせてきたようだ。
「サキ、只今上がりまーす」
そして女は帰り支度を整え玄関で帰り際に軽く唇にキスをすると、
「また、指名してねー」
そういって女は出て行った。セイジは首を縦にブンブン振りながら女を見送った。

609 名前： ペピトーン ◆NerkxCFOyg [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 21:51:30 ID:edMrnKlb
その日の夜－
またもやリョーコの部屋に呼び出しを食らうマサヒコ。嫌な予感はするのだが、
有無を言わせない口調なので断れない。
「おう、マサヒコよく来たな。まあ、一杯やんな」
「オレ、未成年なんですけど…」

「いいから！固いこと言うなよ」
言われるままに酒が注がれたコップを受け取るマサヒコ。しかし、それには口をつけず
リョーコの様子をうかがった。
リョーコは何か話しかけるわけでもなく、黙々と酒をあおっている。それなら別にマサヒコを呼ぶ必要など
無いはずだが、単に独りで飲むのが嫌だったのか。

しばらくすると玄関でガチャという音がして、セイジが部屋に入ってきた。すると、マサヒコと目が合った。
卒業式以来、久々の対面である。
「お邪魔しています」
「お、小久保じゃないか。おいリョーコ、未成年に酒なんか飲ますなよ」
「…ちょっとアンタに聞きたいことが有るんだけど」
セイジの言葉には応えず、トーンの低い声でセイジの顔を見据えた。
「これ、一体なんだ？」
そういうとリョーコは一本の髪の毛を取り出した。やや茶色く染まってある。したがってロングの黒髪の
リョーコのものでは無い事がわかる。
「さあな、オレのじゃないぞ」
セイジはしらばっくれている。さらにリョーコはセイジを寝室に連れて行くと、
「じゃあ、これは何なんだ！？」
語気を荒げてリョーコがベッドの掛け布団をめくると、シーツが濡れていた。
もうお分かりであろう。あろうことかセイジは自分の汚い部屋に女を呼ぶのが嫌だったので
リョーコの留守の間にリョーコの部屋を使っていたのである。こうなったらもう修羅場になるのは確実である。
「お、俺、これで失礼します」
危機を察知したマサヒコは素早く外に出た。
「じゃ、じゃあな、リョーコ」
とマサヒコに続いてセイジも出ようとすると、
「おっと、アンタはまだ帰さないわよ」
とリョーコに髪の毛をつかまれた。ズン、ズンと一歩ずつ、確実に部屋の中に引き戻される。痛い、痛い、
というセイジを強引に部屋に引き込むとリョーコは、
「マサ、気をつけて帰れよ」
と言ってドアを閉め、鍵を掛けた。
この様子を見た時、マサヒコの頭の中にはジョーズのテーマ曲が確かに流れた。
その後、セイジがどんな目に合ったかは分からない。ただ、セイジがようやく解放されたころには
部屋の中には毛根から抜けている髪の毛が二、三十本散乱していたとだけ言っておこう。

610 名前： ペピトーン ◆NerkxCFOyg [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 21:53:41 ID:edMrnKlb
セイジの部屋では、
「…シホ、カルナ、ユーリ…」
とつぶやきながらトリプルブッキングのポスターを布団の横に敷いて寝ている

セイジの姿があった。トリプルブッキングのＣＤを聞きながら全くめげる様子もない。

一方リョーコは、
（クソッ、セイジの奴…）
とふて腐れながら毛布にくるまり、ソファーで寝ていた。見ず知らずの女の愛液で
びしょびしょになったベッドの上でなど寝られるわけがないからである。

第四話　おわり

611 名前： ペピトーン ◆NerkxCFOyg [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 21:57:45 ID:edMrnKlb
以上です。
実は続編はほぼ出来上がっていたのですが、肝心のデータが消えてしまって…
次回の投下は未定になってしまいました。なるべく早く思い出しながら仕上げます
ので気長に待っていただけると幸いです。
では、これで失礼させていただきます。
612 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/21(土) 22:08:58 ID:158oh4vC
ＧＪ！！！！

つ 旦
まあ落ち着いて頑張ってください
613 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/22(日) 00:35:07 ID:jIZguUNW
GJ
やきもちリョーコﾓｴｽ
614 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/22(日) 00:59:00 ID:1AIGVuxM
乙っす
615 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/22(日) 01:20:40 ID:d/iYiZph
ペピトーン氏のセイジはアナーキーと言うかパンキッシュと言うか…
ずいぶん反骨精神旺盛ですな www
かなり好きです
616 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/23(月) 02:36:13 ID:UhkK3mKB
同じアイでも 518 氏と郭氏の書くアイは微妙に違う
トマソン氏の書くカナミとペピトーン氏のカナミも微妙に違う、他の職人もまたしかり
しかし、どの SS もアイはアイ、カナミはカナミ、シホはシホ、マサヒコはマサヒコ
混乱しないどころかちゃんとそのキャラに思えてくるから不思議だ
617 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/23(月) 12:16:44 ID:eMxcWKw1
フレキシビリティあふれる氏家キャラ
618 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/23(月) 21:43:10 ID:QGSs2dHQ
>>615
セイジはただのへたれ男ではないはず。
じゃなけりゃ、あのリョーコも付き合わないだろう。

619 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/04/23(月) 23:45:35 ID:0EXTc6PQ
氏家漫画の男キャラを格付けしようぜ
個人的には
マサ＞＞＞＞＞シンジ＞ヒロキかな
620 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/24(火) 01:30:18 ID:daWDpahn
リョーコと並ぶと大抵の男はヘタレに映るだろう
セイジは下克上されて以降は完全に振り回されっ放しなんだろうが……
そもそもこの二人は何で別れたんだ？
再会して後、明確にヨリを戻した描写はなかったが、案外リョーコはセイジを気に入ってそうに見えたんだが
621 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/24(火) 03:20:36 ID:sbQDGvyp
>>619。君も僕も男だ、という大前提はともかく、どういう視点での格付けであろうか？
俺もこんなになりたい、とか色男度とか、いい人度とか。マサは天然の色男だが、シンジは
本人さえ OK すりゃ３ｐ三昧なんだから簡単に優劣は決められないと思う、まあヒロ君は問題外
と言う事で。
622 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/24(火) 05:05:39 ID:SuOYj724
双方きちんと納得した上で別れたのだろう。
あるいは耐え切れずにセイジが逃げ出したかw
最悪の別れ方をしたら、意外な再会が縁で、またつるむということにはならない。
ヨリを戻してはいないだろうが。
623 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/24(火) 08:36:11 ID:1ZSmWmCP
マサが評価高いつうか読者に好感持たれてるのはツッコミ・常識人レベルはもちろんだが、このスレの SS も多少関与してる気がする
冷静に原作読み返したら顔は女装できるほど良いらしいが人間性・性格面は余り良くないっぽいぞ。
624 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/24(火) 11:30:32 ID:nML6QcAM
マサは良くも悪しくも普通の男の子だからなあ

セイジに関してはヨリを完全に戻してない希ガス
リョーコのセフレ（奴隷）扱いがいいとこに本編読んでて思えた
だからここでリョーコとセイジがいい雰囲気のＳＳを読むとかなり違和感（むろん職人が悪いわけじゃない）
625 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/24(火) 15:18:11 ID:nML6QcAM
･･･と、なんか誤解を招きそうな書きかたになってしまった、スマソ
あくまで俺がそう思うだけであるってことね
職人さんは当然別の思いがあって書いているわけで、
正しい正しくないの問題じゃないっていう意味のことを最後に言いたかった

スマンね
626 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/24(火) 18:14:50 ID:SLwGqTBB
>>625 いんじゃね？
だからこそこんなスレが立つわけだし
627 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/25(水) 02:54:32 ID:uU1c+2YR
絶倫マサも妄想ミサキも淫乱アヤナも 14 歳リョーコも謂わば改変にあたるものな

それを受け入れられるくらい、氏家漫画はいい意味で適当なんだろう
設定がガチガチならこうまでスレは伸びなかったかもしれん
628 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/25(水) 16:28:12 ID:xw2oTV/+
中堅にすら届いてない漫画家の作品にしちゃあ職人に恵まれたといえるんじゃない
629 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/04/25(水) 19:24:15 ID:W5sE3Spd
濱中の頃は中堅以上だったと思う
630 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/26(木) 16:26:24 ID:6bXPp9BU
しかし今の作風と絵柄であと十年、いや五年もつだろうか…
631 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/26(木) 20:54:42 ID:H4LaclVC
なんか否定的なカキコばっかりだな……
こんな時こそ神様、ｓｓ投下して……
632 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/26(木) 22:44:54 ID:SMj9gTiU
残りKBが微妙だしなあ
しかももうすぐ恐怖の黄金週間（帰省…もとい規制週間）
633 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:02:48 ID:W8SBJ2fd
どうもです。来月から氏家先生の新連載決定でキャホーイな気分の私です。
では、あかほんネタ投下します。

「オイオイ、この前言ってた『兄は発情期』の完結編はどうしたのさジョニー？」
とツッコまれるかもしれませんが、どうもすみません。まだ全然できてません。

私の座右の銘は「予定は未定」。
思いついたらそっちを書くぜ！が私の流儀なもんで。
（…という割には、今回は1週間かかっちゃんですが）

では投下。タイトルは「彼は敏腕マネージャー・シホ編」で。
634 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:05:12 ID:W8SBJ2fd
マネージャーの仕事というのは大変である。
受け持ちのアイドルの売り込み。出演予定のテレビやラジオ番組、その他もろもろの打ち合わせ。
そして彼ら彼女らのスケジュール管理…とまあ、枚挙にいとまが無い。
―しかし、それだけが彼の仕事ではない。
アイドルの内に秘めた魅力を引き出し、それを磨き上げることも
彼らにとって重要な仕事なのだ。

この物語は、駆け出しのアイドルであるTBの新人マネージャー・井戸田ヒロキによる
「汗と涙の奮闘記」である。

…たぶん。
635 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:09:53 ID:W8SBJ2fd
さてさて…TBの本日のお仕事は、とある漫画雑誌の水着グラビア撮影。
撮影スタジオで待つ三人をヒロキの元に、間もなくして水着に着替えた彼女らがやってきた。
「やっほー、ヒロちーん！！」
まずはいつもと変わらず元気良くヒロキに駆け寄ってくるシホだが。
「いや…俺にじゃなくて、まずはスタッフの人に挨拶だからな。これ基本。

あと…ヒロちんはやめて」
「はーい、分かってるってば…ヒロちん…こどもじゃないんだからさ」
「さりげなく下ネタを言うな。いいからさっさと行け」
ヒロキはそう言って彼女をたしなめると、シホをスタッフの元へと向かわせる。
他の二人は一足先に挨拶を済ませスタッフと談笑を始めており、シホもすぐにその輪の中へ入っていった。
「やれやれ…」
芸能界も立派な大人の社会のひとつ。目上の人に対する挨拶や礼儀とは大切なことである。

まだ社会を知らない（そしてこれからもそうであろう）彼女達に世間の一般常識を教えるのは、
マネージャーとしての重要な使命なのである。

簡単な打ち合わせを終え、まずはテスト撮影に入る三人。
それぞれカメラマンに注文されたポーズを決め、カメラのシャッターが切られる。
「うん、いいよー。その表情でお願いね、ユーリちゃん―」
「カルナちゃん、もう少し顔を上げて―そう、イイよ―」
「…あー、もっと自然にね、シホちゃん―」
パシャリパシャリとスタジオにシャッター音が響き、フラッシュの閃光が彼女たちを包む。

―ああ、やっぱり三人ともずっと可愛くなったな―

TB のマネージャーを始めてから、早くも半年以上が過ぎていた。
彼女たちの成長をずっと見守ってきたヒロキは、そうしみじみと思った。
ユーリは水色のワンピース、カルナは黒の大人っぽい水着、
そしてシホは白のビキニと、それぞれに個性があって良い。
―小学生に中学生、そして高校生。
ロリっ子にボーイッシュに清楚な少女。
それぞれが三者三様、異なる魅力を持っている―それが現在の TB の一番の“売り”なのである。
636 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:15:58 ID:W8SBJ2fd
しばらくしてテスト撮影が終わり、スタジオが一旦休憩に入った時である。
「―さて、と…」
「あ、井戸田くん。ちょっと待ってくれないか？」
一息つこうとスタジオを出ようとしたヒロキをカメラマンが呼び止めた。
「…えっと、なんでしょうか？」
彼は少し困った顔をしながら、先ほどテスト撮影した写真をヒロキに見せる。
「あのさ…ほら、見てもらうと分かると思うけど…
んー…シホちゃんの表情だけ、まだちょっと固くてね。
なんつーか…“女性の色気”ってのが出てないんだよねえ…」

―なるほど、確かにその通り。
ヒロキも傍から見ていて分かったが、ユーリやカルナの笑顔に比べ、
シホだけはなんともぎこちない表情である。
TB の他の２人に比べ、シホには溢れんばかりの“元気”があっても…“色気”が足りな

い。
本人も気にしていることではあるのだが、こればかりは生まれ持った素質というか、何と言うか。
ユーリのようにファンに媚びる可愛さを前面に押し出すことや、
カルナのように自分を器用に演じることなど、まず出来ない。
シホは何ともまっすぐで、不器用な性格なのである。

―だが、だからと言ってこのままにしておくわけにはいかない。
繰り返すようだが、彼女たちの内なる魅力を引き出すことも
マネージャーにとって大切な仕事の一つなのである。

ヒロキは少し考えた後、彼に向かってこう答えた。
「…分かりました。１０分ほど待ってください。
ちょっとシホをお借りします」

そしてヒロキは休憩中のシホを連れ、とある場所へと向かった。
―こんな状況に陥った時のための“対処法”を実践すべく。
637 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:18:41 ID:W8SBJ2fd
間もなく水着姿のシホを連れ、楽屋へとやってきたヒロキ。
誰かが不意に扉を開けないよう、部屋の鍵を閉める。
なにせ…今からすることを誰かに見られたら、彼らにとって非常にまずい事態になるからだ。

「これでよし、と…じゃ、はじめよっか、シホ」
「え…うん。やっぱり…“アレ”やるの？」
「ああ…大丈夫。俺に任せておけば、ね」
少し不安げなシホに優しく笑いかけてそう告げると、ヒロキはそっと彼女の肩を抱き―
―その唇に己の口を重ねた。
“ちゅ…”

『―いい、まずは彼女たちの緊張をほぐす事！！
そのためには“どんな手”を使ってもかまわないから―』
『―まあ…バレなければ、ちょっと過激なことやってもいいんじゃない？』
以前酒の席で聞かされた社長の言葉が、ヒロキの頭の中に浮かんでは消えていく。
―少々“過激なこと”をやっても―“どんな手”を使ってもいい―
ヒロキは今、その社長の教えを忠実に遂行しているのである。

―果たしてそれが社長の真意と同じであるかどうかは…定かでは無いが。
638 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:21:09 ID:W8SBJ2fd
“ぴちゃ…くちゃ…”
卑猥な水音を立てシホの舌とヒロキの舌が絡まりあう。
ヒロキは時折わざと強く音を立ててすすり、シホの心を昂ぶらせていく。
「ん…むっ…」
ただひたすらヒロキの愛撫に身を委ねていくシホ。
続いて、ヒロキはシホが上に羽織っていたジャンバーを脱がすと、
すぐさまその下からシホの水着と肌があらわになった。
健康的な白い肌と、白い水着。

その二つが見事に組み合わさったシホの姿は、ヒロキの目にはとても眩しく、そして美しく写った。
（やっぱキレイだよな…若いだけあって…）
「…ねえ…時間ないんでしょ？早く…しないと、ね？」
「はは、分かってるってば…」
その身体に思わず見とれていた事をシホに咎められつつ
ヒロキはその小ぶりな胸に軽く力を入れ―揉む。
“もにゅ…”
「あっ…」
カルナに比べれば小さいが、中学生にしては十分な大きさのその乳房。
ぐっと力をこめれば、それだけの反動はしっかりと手のひらへと返ってくる。
「うっ…むう…」
しばしその感触とシホの反応を味わった後、やがてその手は水着のブラをつかみ―
「よいしょっと…」
―そのまま白い布地をめくり上げると、シホの可憐な乳首が顔を覗かせた。
「あっ…」
「すっごく綺麗だよ、シホ…」
「え？いや、あの…恥ずかしいよ」
顔を少し赤らめて恥らうシホ。ここでようやく女の子らしい顔を見せてくれた。
（…ま、それはそれとして、だ）
639 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:24:16 ID:W8SBJ2fd
―せっかくなのでもう少しだけ楽しみたい。
そんな欲も段々と膨らんできたヒロキは、シホの乳首を指で押しつぶしたり
軽く突いたりしてじっくりと弄び始めた。
「あ…ふぁあ…う…ん…」
シホは甘い吐息を漏らしながら、彼の愛撫に溺れていく。
（だいぶ…良くなってきたかな…さて）
やがてヒロキの右手はシホの下半身へとゆっくりと下り、
シホの小ぶりなお尻の上をゆっくりと―その弾力ある若い肌を味わうように這い―
そのまま太ももと太ももの間をくぐって、ヒロキの指がシホの秘部の周辺をそっと撫で上げる。
“つつ…”
「あっ…むっ…」
秘所の筋に沿って指を擦るたびにシホの背筋がくんと伸び、細い体がびくんと震える。
止め処も無く漏れるシホの熱い吐息。愛撫を受け続けるその肌には、じんわりと汗が滲み始めていた。
そんな彼女の様子を横目で楽しみながら、ヒロキは再びシホの唇を奪った。
執拗に舌を絡め、シホに更なる快感を与えていく―
（反応いいな…時間もあるし、
もうちょっとだけ楽しませて貰おうかな…
…って待てよ）
640 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:27:39 ID:W8SBJ2fd
―いかん、流石にこの水着に染みを作るわけにはいかない。
何と言っても着ているのは真っ白な水着だ。
迂闊に汚して戻れば、二人が楽屋で何をしていたかは簡単にバレてしまう。
そうなったら大スキャンダルである。

はっと我に返ったヒロキは、そっとシホの下半身から指を離す。
それと同時に、二人の唇―顔―そして身体が順に離れる。
「ふ…ふはぁ…」
ヒロキに抱きしめられて少し苦しかったのか。シホは離れるとすぐに深く息を吐き、新鮮な空気を吸い込んだ。
シホの顔はほのかにピンク色に上気し、なんともいえない女性の色気を醸し出している。
先ほどの固い表情もどこへやら。今はすっかり緩みきった自然な感じだ。
これならあのカメラマンも納得してくれるだろう。ヒロキは心の中でそう確信した。
シホが愛撫で乱れた水着を直したのを見届けると、ヒロキは優しくシホに話しかける。
「―よし、じゃ行こうか。シホ」
「う、うん…」

―こうして無事にグラビア撮影は再開した。
シホは先程と比べても格段に良い表情が出せるようになり、
これでとりあえずはめでたしめでたしである。
641 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:30:15 ID:W8SBJ2fd
「ヒロ君…さっきはありがと」
撮影終了後、まだ水着のままのシホがヒロキの元へお礼を言いにやってきた。
「あ、いや、別にいいさ。これも仕事だしね」
シホの感謝の言葉に対し、ヒロキはそっとそれに小声で返す。
「うん…でさ…」
そこまで話して、もじもじしながら顔を俯けてしまう少しシホ。
右手は下半身をもぞもぞと抑え、何かに耐えているといった様子である。
ここまで来て、流石にヒロキもシホが“何を”求めているのかに勘付いた。
「…えと…もしかして？」
ヒロキが思いを察してくれた事に気づき、シホはこくりと頷く。
「うん―お願い。
続き…最後まで…しよ？」

そう言って、じっと潤んだ瞳でヒロキを見つめるシホ。
そのヒロキを求める表情は、完全に“女”のそれである。
（さあて…どうすっかな…）
一度火が点いてしまってはしょうがない。
それにそもそも彼女に火を点けたのは…他ならぬヒロキ自身なのである。
「まあ…しょうがない…か」
「じゃ、いこっかヒロ君♪」
シホは嬉しそうにそう言うと、先ほどとは逆に今度はヒロキの手を引いて
彼をどこか人気の無い場所へと誘って行く。
（やれやれ…あともう一仕事か…はは…）
積極的なシホにヒロキはため息をつきながらも、
彼の顔には隠し切れない笑みが浮かんでいた―

（つづく）
642 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:31:18 ID:W8SBJ2fd
すみません、ここで前半終了です。
…さて、後半はどうしますか。

まあ、ヤっちゃうことはほぼ確定なんですが。

ここで最後に訂正します。
本文9行目の「汗と涙の奮闘記」は間違いです。
正しくは「汗と愛液の奮闘記」でした。（オイ）

それではまた。
643 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 00:51:33 ID:eX+VzukX
ヒロ君、年上好きとか言ってたくせに、やっぱりロリコンだったのかYO(*´Д｀*)/ヽァ/ヽァ

644 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 02:04:12 ID:GHdprqem
GJ～

氏家漫画の男性キャラは実に「食いまくり」が似合うなあ
しかもどっちかというとサッパリ爽やかなご乱行がw
645 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 04:14:31 ID:Ro4HJa8v
ＧＪ
646 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 11:51:03 ID:EeZ7FZn4
GJ

マサヒコ→家庭教師と幼馴染とクラスメイトをコマせる
シンジ→実妹とクラスメイトと妹の友人と女教師と従妹関係の娘をコマせる
ヒロキ→アイドルと事務職員と女社長をコマせる

誰か俺と代われ
647 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 13:58:37 ID:eX+VzukX
ミホはどこにカテゴライズされるんだゴルァ
648 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/27(金) 20:50:23 ID:c+fwO0vW
なにはともあれ、ＧＪ
649 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/28(土) 07:21:27 ID:btvLk+Mr
なんかシリウスにも描くらしいぞ氏家……（短編読み切り？）
週少マガという本流じゃないが、妙に氏家元気だな
あかほんコケてヤンマガ以外は当分干されるかとも思ってたが、事情は違ったのか？
650 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/28(土) 11:49:02 ID:johK3k4y
なんにせよ氏家に仕事があるのは嬉しいことだ
651 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/28(土) 21:46:11 ID:i5ZUMlWc
それと同時にこのスレにも活気が戻ってくれたらいいな……。
652 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/29(日) 01:00:24 ID:WV01sDOs
職人は複数いるし、活気がないってことはなかんべえ
かつての一日数投下時代は状況が特殊すぎるよ

まあ、生徒会が始まったらもう少しは賑やかになるさ
マターリフワーリゆこうぜ！
653 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 08:51:21 ID:3dMSUfhU
フワーリ
654 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 09:10:26 ID:Ag4tt4y3

投下待ちふわーり
655 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 09:34:29 ID:nxhyY7Eq
新ヒロインもフワーリ
656 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/04/30(月) 13:50:33 ID:arzuM+/1
新ヒロインの可愛さは異常
657 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 18:23:11 ID:H1qHHyBA
I can フワーリ(´∀｀)
658 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 23:04:47 ID:MOdoeC9A
連休の前半終了ということで、小ネタをば投下。

タイトルは「夢と希望と黄金週間」で。
659 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 23:11:09 ID:MOdoeC9A
―２００７年４月３０日、城島家にて。

その日の午後、暇を持て余していたシンジは廊下で謎のメモを拾った―

28 日　A
29 日　B
30 日　C

３日　D
４日　E
５日　F
６日　G

「…なんじゃこりゃ…カナミの字？」
謎の内容に首をかしげるシンジ。そこに突然
「あー、それ私の！！見ないでーっ！！」
と叫びながらカナミが現れ、兄の持っていたメモを奪い取った。
「え？なに！？カナミ、どうした―」
「…見ちゃった？見ちゃったでしょ？見たよね！？」
「あ、うん…見たけど…それ、何だよ？」
「…え？何でもないよ」
シンジの問いに、慌てて誤魔化そうとするカナミ。
「？何でもないわけないだろ？気になるな…そんな必死になるなんて、さ？」
やけに慌てているのには、きっと深い理由がある。
早速カナミを問い詰めようとするシンジだが…

―話がややこしくなるのが嫌だったのか、それとも作者がこれ以上話を考えるのが面倒だったのか。

カナミはすぐに観念した様子で、シンジに真相を打ち明けた―
660 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 23:14:28 ID:MOdoeC9A
「…豊胸計画」

「…へ？」

「だからーっ！！ほ・う・き・ょ・う計画！！
このゴールデンウィーク中に、胸を大きくしようと思って…
いろいろ頑張ってて…たくさん牛乳飲んだりとか…
一日中ずっと豊胸体操とか…どうせ今年はヒマだし」
少し顔を俯かせながら、恥ずかしそうに兄に真相を告白するカナミ。

―なるほど、ここ最近牛乳の減りがやけに早かったり、
妹が連休中ずっと部屋に篭もりきりで、更に夜中に変な物音が聞こえていたのは…そのせいか。

最近起こっていた不思議な出来事を思い返し、その理由に納得するシンジ。
まあ元々大して気には留めていなかった事ではあるが、
それでも原因が分かるのはスッキリできて良いことだ。
「ほうほう…じゃあ、そのメモの意味は…？」
さて、今回の話の発端―メモの“謎”について、兄は妹に尋ねる。
…とは言うものの、ここまで聞けば彼にもなんとなく察しは付いた。
あのメモに記された日付と隣の英字の意味は―

「…目標カップ数。」
「やっぱり、か」
「一日目はＡで…二日目はＢで…で最終日はＧカップになるのが
目標っていうか…夢っていうか、えへへ…」
ちょっと照れた様子でカナミは舌を出す。

「……いくらなんでも夢がデカすぎるだろ、常識的に考えて…」
荒唐無稽な妹の夢に少しあきれ顔のシンジ。
そして、そんな兄の思いを悟ったカナミ。
次の瞬間、怒りの様子で思いのたけをぶちまける。

「いーじゃん！！夢を持つのは自由じゃん！！
夢だって、胸だって―でっかくなりたいのーっ！！
アキちゃんみたいになりたいのーっ！！」

・
・
・

―ああ、夢を見るのは自由さ…でもな―

―無理なモンは無理。

連休が始まる前と比べて何ら変わらないカナミの胸を見ながら、
シンジはしみじみとそう思うのであった。

（おしまい）

661 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 23:15:13 ID:MOdoeC9A
以上小ネタでお目汚し失礼いたしました。
それではまた。
662 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 23:24:49 ID:nxhyY7Eq
ＧＪ!!
カナミとマナカは宮本先生をイジッたツケが…
663 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/04/30(月) 23:39:15 ID:83pZsJmt
漏れの股間モコーリ(*´Д`)
664 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 01:10:38 ID:0+3dHVjF
職人の皆さん、古田氏、お疲れ様です。
濱中のマサヒコとミサキで同じく連休用の小ネタです。
第は「黄金週間の恋人たち」でお願いします。
665 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 01:11:35 ID:0+3dHVjF
「うふふ、ふふっ」
「何だよ、気味悪い笑いして」
「あ、ひどーい、笑ってちゃだめなの？」
「いや、いいけどさ……」
　ゴールデンウィークに突入し、いつも以上に人が溢れかえる街。
小久保マサヒコと天野ミサキの二人は、東が丘で一番の賑わいを見せている駅前のデパートへとやって来ていた。
目的はショッピングと食事で、つまりはデートというわけだ。
「ふふ……」
「おい、やっぱおかしいぞ？」
　連れだって家を出た時から、ミサキはずっとこの調子で微笑んでいる。
彼氏であるマサヒコでなくとも、「ちょっとおかしい」と思うくらいに浮かれ気味だ。
「ねえ、前に一度、マサちゃんの家にお泊りしたことがあったよね」
「ああ、中学の時な」
　もちろん、ミサキの態度には訳がある。
「あれからもう二年くらい経つのかな？」
「んー、そうだな、それくらいになるなあ」
「ふふっ、うふふ」
「……？」
　今日は日中にデートするだけではない。
丸ごと一日、マサヒコとミサキは一緒に過ごすことになっている。
何しろ、小久保・天野両家ともに、母が町内会の旅行で、父が出張で不在。
恋人となって以後、初めての「二人きり状態」になれるのだ。
それだけではない、リンコは家族で箱根、アヤナはハワイ、
アイは実家、リョーコは研修と、言わば横やりを入れてきそうな連中はことごとく東が丘を外出中。
文字通り、本当に「二人きり」というわけだ。
ミサキの頬が緩んでしまうのも、無理からぬことではある。
「ねぇマサちゃん、今日は何が食べたい？」
「まだ昼飯も食べてないのに、晩飯の話か？」
「いいじゃない、リクエストがあったら何でも言って」
「リクエスト？」
「大丈夫だよ、ある程度の料理なら作れるから」

「ある程度ねえ……」
「私、特訓したんだから」
　ミサキの料理の腕が上達しているのは、マサヒコも知っている。
だが、上達と言っても、失敗する回数が五回に三回から五回に二回に減ったという程度だ。

確かに、味そのものは以前に比べるとおいしくはなった。
しかし、形と言うか見かけと言うか、そちらはまだまだ向上の余地がたくさん残っている。

666 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 01:12:49 ID:0+3dHVjF
「じゃ、カレーで」
「……マサちゃん、疑ってるでしょ」
「そんなつもりはないけど」
「愛情は極上のスパイスって言うじゃない、ホントに大丈夫なんだから」
「いや、その台詞を先に言っちゃマズイだろ」
　腕を組んで、二人はデパートの中へと入っていく。
その様は、独り者が見れば腹立たしくなるぐらいにお似合いでアツアツだ。
「一応、おばさまからもレシピを貰ってはいるんだけどね」
「……やめとけ、どうせまたニンニクとか山芋とかが食材に入ってる」
　再度以前のお泊りの事を思い出し、マサヒコは首を振った。
思えば、あの時すでにマサヒコにけしかけるようなことを言っていた母だ、
レシピにマムシの血やスッポン、果ては子宝漢方まで書き込んでいる可能性がある。
「ニンニクや山芋って……せ、精力剤？」
　ミサキは思わず、顔を赤らめてうつむいた。
「な、何だよ」
「う、ううん、別に……」
　一日二人きりということは、当然夜も一緒。
夜も一緒ということは、すなわち……。
「……」
「……」
　一転、黙りこむマサヒコとミサキ。
「夜のこと」を一瞬、想像したためだ。
　付き合い始めてから一年、二人は恋人として進むべき道を「ちゃんと」進んでいる。
もちろん、肌と肌との触れ合いも。
「そ、それはともかく、ミ、ミサキは何が欲しいんだ？」
「え、え、ほ、欲しいもの？」
「そ、そう、欲しいもの」
「ほ、ほ、欲しいものは、マサちゃん……」
「バ、バカ！　ショッピングの話だよ！」
「あ！？　え！？　あ、う、い」
　マサヒコとミサキ、顔だけでなく耳まで、リンゴもかくやという程真っ赤っかに。
「ほ、ほら行くぞ！　服か？　それともアクセサリーか？　俺が何でも買ってやるから、
さっさと行くぞ！」
「え、あ、う、うんっ」
　マサヒコはミサキの腕を掴むと、半ば引きずりながら目の前に止まったエレベーターへ
と乗り込んだ。
こっ恥ずかしい会話と夜の想像を、振り払うように、勢いをつけて。

　ゴールデンウィーク、大型連休。
お客さんでごった返す駅前のデパート。
エレベーターは幸せそうなカップルを乗せ、上へ上へとあがっていく―――

　　F　　I　　N

667 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 01:13:54 ID:0+3dHVjF
以上です。
ではまた。
668 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 06:12:49 ID:OEdfKf7d
うは超ｱﾏｽｗｗミサキﾃﾗｶﾜｽ
72 氏のカナミも
お二方 GJ！
669 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 07:25:21 ID:voIAt6p3
な　ぜ　シ　ン　ジ　は　手　伝　わ　な　い
670 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 08:07:42 ID:qiaeEOG/
>>669
シンジ「いくらカナミの胸といえど、連休中揉み続ければ……何っ!?」
671 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 08:11:49 ID:ZpoOCzLN
72 氏 GJ！
カナミエロカワイイよカナミ
672 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/01(火) 17:17:49 ID:tODd+oXF
乳がデカいカナミはカナミじゃないＹｏ
しかしデカくしようと努力するカナミは(*´Δ`) ﾊｱﾊｱﾓｴｽ
72 氏ＧＪ＆乙！
673 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/02(水) 01:25:18 ID:4NlaBvy/
まだシリトリにゃはやいかね
連休中はマッタリ保守か、それとも急いで次スレをたてるか
微妙なところだなも
674 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/02(水) 08:13:37 ID:O00VlWUJ
>>673
これといって動きないし、急ぐ必要ないんじゃないか？

それはそうと、カナミかわいいよカナミ
675 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/02(水) 11:58:18 ID:ByqtJOPm
ひんぬーコンプレックスの少女はイイ
72 氏には久々にそれを思い出させてもらった、ありがたや
676 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/02(水) 20:59:52 ID:4NlaBvy/
>>674
それもそうですな

ところで、ひんぬーと言えばカナミ、マナカ、チカ、ミサキ、リンコ、宮本先生、シホあたりが該当か（ユーリや園児除く）

逆にきょぬーはアキ、加藤先生、アヤナくらい？カルナはわからん
小宮山、今岡、リョーコ、アイ、マサママン、社長あたりはなんか美乳って感じですが
677 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/02(水) 22:38:19 ID:MZ9/tSnO
巨乳要員である今岡ナツミを忘れるとは何事だ(`ﾊﾟﾒ)ｺﾞﾙｧ
678 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/05/03(木) 00:20:44 ID:S+2bCrZO
ミホやショーコは何処に該当するの？
679 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/03(木) 00:21:41 ID:v+3mVxmk
ナツミって巨乳の描写あった？
バストは83だったけど
680 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/03(木) 00:56:08 ID:drWCAuoF
>>679
どっちかっていうと美乳じゃないか？

で、　ミ　ホ　は　？
681 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/03(木) 01:15:24 ID:Gm1W2Q3Z
貧乳組ではシホがスタイル良さそう、スレンダーって感じで（アイドルになれるくらいだし）

ミホもスタイル自体はいいんじゃない？巨乳ではないかもしれんが
682 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/03(木) 20:12:02 ID:zsEL1IPW
いたいけな乳房・・・
683 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/03(木) 20:16:11 ID:v+3mVxmk
ケイちゃんは？
684 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/04(金) 09:30:56 ID:/FLrnrua
実は隠れ巨乳？
685 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/04(金) 09:35:22 ID:37YKXVr3
ぶっちゃけ乳があるないの差はあれど、氏家女性キャラは皆スタイル良さげだけどな（巧く描けてるかは別の話）
686 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/04(金) 18:49:16 ID:GpRQNPdD
新ヒロインが気になる…
687 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/04(金) 19:08:08 ID:J/tB6qoi
>>686
自分の脳内では小柄な貧乳キャラになってる
688 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/05/04(金) 19:46:04 ID:eSmRNR1+
画像見たかぎりだと貧乳っぽいね
後タカトシと比較して背が小さい。タカトシがでかいのかもしれんが
689 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/05(土) 16:26:01 ID:VkO7X/WS
セイジはもとから教師を目指しており、また制服好きだったため中学教師になった
「右も左もわからん」「巨乳のお姉さん好き」を公言するヒロキはなんであの業界に入ったのやら
690 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/05(土) 17:03:49 ID:+DzF/pbq
「右も左もわからん」
→どんな仕事でも最初は右も左もわからん
「巨乳のお姉さん好き」
→普通仕事より巨乳のお姉さんと接する機会は遥かに多い

691 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/06(日) 00:15:55 ID:5LtZPBv2
あっという間に連休も最終日。
皆様いかがお過ごしでしょうか。というわけで小ネタです。

タイトルは「五月五日はこどもの日」で。
692 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/06(日) 00:20:18 ID:5LtZPBv2
―２００７年５月５日。本日は素晴らしい晴天、絶好のレジャー日和である。

―で、ここはとある郊外の遊園地。
休日を楽しむ多くの家族連れやカップルで溢れるその中に、あの二人もいたわけで。
「―なあに？まさかもうバテたの？」
一人は中村リョーコ。現在の職業はいつつば銀行の職員、そして「セイジのご主人様」。
「ああ…お願いだから休ませて…」
もう一人は豊田セイジ。現在の職業は中学校の教師、そして…「リョーコの奴隷」。
元気が有り余っている感じのリョーコに比べ、セイジは随分とお疲れのご様子で。
リョーコの催促も聞かずに近くのベンチへと座り込んでしまった。

「何よ…ずいぶんと情けないわね」
と少し呆れ顔のリョーコに、セイジはたまらず愚痴をこぼす。
「だってさ…一昨日は買い物、昨日はドライブ、
そして今日は遊園地でデートって…」
連休の後半戦が始まってから、ずっとリョーコに振り回されっ放しのセイジ。
流石に愚痴の一つや二つや三つや四つ…言いたくもなる。
まあリョーコにもセイジの気持ちはある程度分かっているのであろうが…

「ふーん…で？だ・か・ら？」
と、にっこりと満面の笑顔で返すリョーコ。
（ああ、いつもこれだもんな―）
セイジの経験上、彼女がこの手の笑顔を見せる時は
「テメエの意見など完全に無視する」という意思表示である。
もともとセイジも大して期待はしていなかったが、今回も彼女には彼を労わる感情は無いようだ。

―そう、微塵の欠片も。

―そして、おそらく“これからも”…ずっと。
693 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/06(日) 00:22:50 ID:5LtZPBv2
「―まあ、いいじゃないの、セイジ。
これも立派な『家族サービス』なんだからさ♪
さあ、張り切って次行くわよっ！！」
「ああ、そうだな…

……

……？……

……Σ（゜Д゜；）ﾊｯ…

……待て、リョーコ」
―と、次のアトラクションへ向かおうとするリョーコを
“何か”に気づいたセイジが引き止める。

「…ん？なに？」
「お前…今…もしかして、ものすごく“重要な事”をさらりと流しやがったな！？」
「はっはっは…やっぱ気づいた？」
「気づくわ！！今の『家族サービス』って何だ！？どういう意味だ！？
もしかして…」
694 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/06(日) 00:29:30 ID:5LtZPBv2
「そ、デキたわよ。アンタとの子供が…ね♪」
と、さらりと言ってのけるリョーコ。
そして…いきなり父親である事を知らされたセイジは呆然とした様子で。
リョーコのワガママにも、突然の呼び出しにも―あらゆる状況に慣れていたはずだったが…
腰が砕けてふらふらとまたベンチに座り込んでしまうセイジ。
「マジすか…」
「いやーマジもマジ、大マジよ♪
怪しいなー、と思って先週医者に行ったらさ…三ヶ月だってさ。
たぶん時期的にバレンタインの時に盛り上がったヤツが原因だと思うけどね♪」
―ああ、そういやそんな事が…あの時は奴隷と女王様プレイだったな…ってそんなことはどうでもいい。
セイジは頭をぶんぶんと振り、手渡されたペットボトルのお茶を一気に飲み干して心を落ち着かせ―
「結婚式はいつにしようかな？

―あ、新婚旅行はもちろん海外ね。

―これから頑張ってよ、お父さん♪」
…とまあ勝手気ままに話を進めるリョーコの言葉は、既にうわの空。
セイジは今後の身の振り方について、ただひたすら頭を抱えるのであった―

「―さ、急いで帰るわよ、セイジ。今日から忙しくなるんだからね」
「ああ、よーく分かってるって…」
機嫌が良いリョーコに急かされながら、閉園時間の迫った遊園地を出るセイジ。
駐車場へと向かうその帰り際、彼はふと後方の遊園地のゲートを見る。
夕日に照らされてすっかり赤く染まったそれは、
「そんなに気を落とすな、また遊びに来なよ」とでもセイジに語りかけている様に見えた。

―確かに、来年か再来年の GW にも、彼らはこの遊園地を訪れる事になるだろう。

―その時はおそらく、家族“三人”で。

（おしまい）
695 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/06(日) 00:30:33 ID:5LtZPBv2
以上です。お目汚し失礼いたしました。

分かってらっしゃる方もいるかと思いますが、
「重要な事をさらりと流す」の元ネタは少し前の絶望先生の話からです。
それでは連休最終日、皆様卑猥にお過ごしください。
696 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/06(日) 00:51:07 ID:cupdSwB8
72 氏ＧＪ！！！

卑猥にッスかw
697 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/06(日) 01:05:18 ID:uSZeb9YK
72 氏 GJ です
最近筆がのってますな、充実ぶりがうかがえますよ
これからも期待しています
698 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/06(日) 14:09:10 ID:OTg5k1hk
７２氏乙です。
ベテラン勢の一角が好調ですね。これにつられて他の職人さんが乗って
くれれば何よりですな。
699 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/07(月) 01:16:32 ID:5FcUUF0U
この一ヶ月は 72 氏絶好調でしたな。
郭氏とペピトーン氏も元気に投下されていて実になにより。
お三方、これからもフワリとよろしくお願いします！
他の職人さんもフワリとガンガって下さいね！
700 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/07(月) 16:45:31 ID:wM7f2utA
三人とも初期からの生き残り職人なんだな・・・
701 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/08(火) 16:13:57 ID:Rxq5OZ1T
今、まだ活躍されてる職人さんは何人？
702 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/09(水) 06:47:49 ID:V2FpLFoM
生徒会役員共連載開始まで…あと１０日
703 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/09(水) 07:22:21 ID:Tzwe2TyS
あかほんの二の舞だけは避けてほしいところだが、
氏家タイプのマンガは常に人気以外の理由で打ち切られる可能性があるからなあ…
逆に言えば、便利使いってか穴埋め感が編集から見捨てられない理由でもあるんだろうが
704 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/10(木) 07:10:12 ID:nUsdHhW6
もうダメか
705 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/10(木) 16:35:16 ID:fO35MVtI
みんなは復活してほしい職人さんっている？
俺はマリリスト氏と新参者氏に復帰してほしいなあ・・・・・・
706 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/10(木) 18:31:52 ID:i9Q/QnAq
書かなくなった人達は、もうここを見ていないのかなあ
707 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/10(木) 23:34:12 ID:qOSuoxnq
ドミンゴ氏の『デュエル』の続きが読みたいぜ
708 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/11(金) 02:25:45 ID:1e8S/P1P

残ってる職人さんに引き継いでくれとも言えんしなあ……
それはどちらの職人さんに対しても非礼になるし

やはり信じて待つことだけが道か
709 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/11(金) 15:56:25 ID:wxWcyUIu
未完もまた歴史の中さ
710 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/05/12(土) 01:51:51 ID:p+UVR/uk
職人の皆さん、古田氏、お疲れ様です。
あかほんで埋め用小ネタです。
一応時事ネタで。
タイトルは「申し訳ありませんでした」でお願いします。
711 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/05/12(土) 01:52:41 ID:p+UVR/uk
「ねーねー、聞いた聞いた？」
　朝一番、レイ・プリンセス事務所に飛び込むなり、
おはようの言葉もなく、飯田シホは早口でまくしたてた。
「聞いたって、何が？」
　有銘ユーリがシホに問い返す。
その横で、如月カルナも「？」といった感じに首を傾げる。
「元アフタヌーン娘。の久慈ちゃんがデキちゃった婚てやつ！」
　ちなみに、現在は午前九時半。
今日は仕事の打ち合わせで事務所に集合になっているのだが、その待ち合わせ時間は九時である。
つまり、シホは堂々遅刻をしてきたわけだが、これはもう日常茶飯事になっていたりなんかする。
共同生活中は、時間や約束にうるさいカルナが取り仕切るため、シホだけが遅れて登場するということはない。
だが基本的に共同生活を営むのはレコーディングやコンサートなど大きな仕事の前だけで、

通常はそれぞれの家に帰っているため、ユーリとカルナの二人が事務所でシホ待ち、という状況が度々ある。
「あ、朝のワイドショーでやってたねー」
「相手は確か若手俳優だったわね」
「そうそう、えーと、ミラクルマンコ、スモの主役の人」
「中途半端なところで言葉を切るな」
　ユーリとカルナも慣れてきたもので、噛み癖はともかく、遅刻に対してはいちいち突っ込まない。
年長者であるカルナはシホが時間を間違える度に注意をしてきたのだが、
シホがマイペースで一向に反省の態度を見せないので、半ば諦め、
問題さえ起こさなければいい、と最近では思い始めている。
「……シホちゃん、自分の荷物は自分で持っていけよ」
「あ、ごめーん」
「謝るくらいなら最初から……って、ちゃんと二人にも謝ったか、遅刻のこと」
「うーい、ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでしたー」
「……真摯さが感じられんな」
　シホに遅れること数分、ＴＢのマネージャーである井戸田ヒロキが事務所に入ってきた。

彼は別に、遅刻してきたわけではない。
寝坊したシホを車で迎えに行き、その車を駐車場に停めに行っていたため、最後に顔を出すことになったのだ。
「はい、皆おはようさん」
　柏木レイコが、コーヒーのカップを片手に、四人の前に現れた。
今日の打ち合わせは、彼女と事務の三瀬エリコを含めた合計六人で行うことになっている。

「あ、しゃちょー！　遅れてすみませんでしたー」
「はいはい、次から注意するように。内輪の打ち合わせだからいいけど、仕事だったら大目玉よ」
「はい、申し訳ありませーん」
　シホもさすがに、レイコには素直に頭を下げる。
この辺り、案外この娘は要領がいい。
「で、、しゃちょーは知ってます？　久慈ちゃんのこと」
「当然知ってるわよ、同じギョーカイのことだもの」
「デキちゃった婚ってことは、当然ヤルことヤッてたってことですよね、久慈ちゃん」
「そりゃあ、ヤラなきゃデキないからね」
　レイコはカップをテーブルの上に置くと、タバコを取り出して火をつけた。
「多分今頃、あっちの事務所はてんてこまいでしょうね。会見は開かなきゃならないし、スケジュールは見直さなければならないし」
「あ、そうか、そーですね」
「……でも、人ごとじゃないわよ。アナタたちも注意しなさいよ」
「えっ？」
「前々から言ってるでしょ、アイドルは夢を売る仕事なの。そっち系のアクシデントはご法度なんだからね」
　砕けた口調から一転、真剣な表情でシホたちに語るレイコ。
彼女の言う通り、今回のデキちゃった婚報告は、言ってみれば完全に事故そのもの。
ファンや関係者にしてみると、晴天の霹靂以外のナニモノでもない。
「自由に恋愛や結婚出来ないってのは不自由でもあるけど、芸能界はそういうところなのよ」
「はーい」
「はぁい」
「……わかりました」
　頷く三人。
少なくとも、彼女たちは今のところ、そちら系のアクシデントとはまったくの無縁である。

何しろ、相手がいないのだから。
712 名前：　ピンキリ　◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日：　2007/05/12(土) 01:54:29 ID:p+UVR/uk
「特にカルナは注意しなさい、恋愛云々以前に、アナタくらいの歳になると色々と男に目をつけられやすいから」
「はい」
「ユーリとシホも油断してちゃダメよ、このギョーカイはアブない趣味のオジさんがわんさといるんだし」
「はい、ロリコンオジサンってやつですね？」
「……社長、何で私はユーリとひとくくりなんですか？」
　何となく、納得出来ない表情になるシホだったが、

実際まだ彼女は中学生で、尚且つ体格もグラマーではない（ユーリが言うところの「熟れてない身体」）ため、
十分に特殊性癖者の対象内である。
「さ、おしゃべりもここまで。先に会議室に行ってなさい。私と三瀬は資料持って後から行くから」
「はーいっ」
「よし、じゃ、行こうか」
　ヒロキに先導されて、三人は会議室へと入っていく。
「……」
　彼女たちの背中を、タバコを吹かしつつ、見つめるレイコ。
「……あの年頃は、すぐに大きくなるわね」
「え、何か言いましたか、社長？」
　資料を両手に抱えた三瀬エリコがレイコの側を通りかかり、その呟きを耳に止め、問いかける。
「いいえ、別に」
「はあ」
「で、資料は揃ったの？」
「あ、は、はい、今プリントアウトしているので最後です」
「そう」

　レイコはふと、思った。
ＴＢに関しては、一番身近にアクシデントの素がいるのではないか。
マネージャーの井戸田ヒロキ。
彼が将来、ＴＢの三人のうちの誰かと「いい関係」になる可能性は、下手をすれば余所の俳優や歌手以上にあるかもしれない、と。
アイドルとマネージャーの恋愛については、事あるごとにレイコがヒロキに釘を刺した。
ヒロキ自身も好みは巨乳のお姉さんと言ってはばからない。
だがしかし、どう転ぶかわからないのが、人の感情だ。
「……ほとんど勢いで彼をマネージャーに任命したけど、もしかしたら爆弾の近くでマッチを擦るようなもんだったかな」
　レイコは、ほう、と煙を吐き出すと、タバコを灰皿に押しつけた。
「ま、どうなるかは出た賽の目次第、か。『申し訳ありませんでしたー』で済むようなレベルだったらいいんだけど」
　まったく、タバコの火のように、この種のアクシデントは簡単に揉み消せはしない。

「三瀬、まだ？」
「は、はい、今終わりました！」
「よろしい」
　レイコは立ち上がると、コップを手に取り、冷めきったコーヒーを喉の奥に流し込んだ。

「じゃ、とっとと打ち合わせをするとしましょうか」

　レイコとエリコは、資料を手に、四人が待つ会議室の扉を開ける。
二人の背後、机の上の灰皿から、完全に消えなかったタバコの煙がすぅとあがり、天井へと細く昇っていく―――。

F　I　N

713 名前： ピンキリ ◆UsBfe3iKus [sage] 投稿日： 2007/05/12(土) 01:55:51 ID:p+UVR/uk
以上です。
714 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/12(土) 08:19:39 ID:ZPMG4nUs
ピンキリ氏ＧＪ!!
ラストが何か暗示してるようでいいですな
715 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/12(土) 10:48:40 ID:oTnuZhcw
あかほんSSは総じて「マンガで描かれなかったその後の話」の様相だな
連載が早期に終了してしまったのは残念だが、職人にとっては逆に書く幅が広がったということか
鉱脈といおうか、未開の沃野が多数残っているといおうか
716 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/12(土) 12:44:25 ID:M5B2eDQP
続きあんのかw
717 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/05/13(日) 00:34:04 ID:2/wV/MQY
あかほん予告四コマみたいに生徒会予告四コマとか無いかな
てかヒロイン可愛すぎ
718 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/13(日) 10:53:50 ID:zzAAWYma
職人さんのいない寂しい週末…
719 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/13(日) 11:40:11 ID:BCnVpy2W
ピンキリ氏ＧＪです！
720 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/14(月) 10:09:43 ID:0qR//siQ
マサヒコとミサキはちゃんとセクースできてるかなあ
最低でもチッスは済ませてるだろうなあ
721 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/14(月) 17:42:09 ID:p81Nk1jy
いつまでも手を出さないチキンなマサヒコにミサキがブチ切れ。
マサヒコを押し倒して濃厚なディープキス。マサヒコが動揺している
間に服を剥ぎ取って、自分はパンツだけ脱いで、脱いだパンツを
マサヒコの口に押し込んで黙らせると、、騎乗位で攻め立てて中田氏フィニッシュ。
さめざめと泣くマサヒコと、すっきりした顔でご満悦のミサキ。

という展開をｷﾎﾞﾝﾇ
722 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/14(月) 20:36:27 ID:bqsvqw9p
マサヒコハード
723 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/15(火) 00:13:09 ID:sVawyx32
>>721 問題はマサのアソコがミサキチの希望通りになるか、だと思う。無理ジャマイカ？
724 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/15(火) 00:23:35 ID:mJbY4VIb
>>721
男がそれをやるとｺﾞｰｶﾝﾚｲｰﾌﾟで即豚箱だが、女だとそうはならないこの不条理
725 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/15(火) 01:31:05 ID:gFI2Ip0n

>>721
ミサキチ君とマサミちゃんという言葉が思い浮かんだ
726 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/15(火) 16:46:32 ID:GjaeEEX8
まぁマサが覚醒して本気だしたらみんな妊娠だよ
シンジやヒロキもそうだな
727 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/16(水) 13:04:20 ID:M3Tu1Bf1
豊田や鈴木君も妊娠
728 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/16(水) 19:35:52 ID:At4BVfTT
,,--、 ____
' __ij_, , - ´::::::::::::::: ` ::: ヽ
>´ ノ ,、ヽ /:::::;;、;;、;::::::::::::::::::::::::: ヽ
l ` };; - l .l::::::::| l:ハ::::::l ヽ::::::::::l
ト.´ヽ、 _, -、>ー く,_ l ___. l:::l,l::l、 ノ i ,l::/、|::::::::::::| _____
_____
/ 〈 ` l´ li| ゝ-、/ ii ` Y´ 八 l:::| ___ _ij__|::::::::::::| ／
/::.:< - 、/ l ヽ、ヽ/へ/、 l _´ > ヽ l:::::| ゞノ ゞノ|::::::::::::::|< マサヒコ！これを着なさい
/::.:.:.:/´ ` |>=;;;;O;;;;;;;;;< | 〉 :.:.:.|:::::| ''' ____'''l::::::::::::::| ＼ ____
.l:..:.:.:.:: ヽ ー ゞ;;/-l_i__ゞノ i ` ‐ -、>:.:.l:::::l l l /::::::::::::::|
_____

l:.:.:.:.:.:く ,_, , = ＼}:.:.:.:/l:::::: ヽ、, ヽ、ノ ハ::::::::::::::|
ヽ..:.:.:.:. ヽ l´ / l´:.:.:.:.:.:.:.l::/i、::::l ` 「l_ヽ' l:ハ/-`''-、
` l'':.:.:／i ヽ、 i<:.:.:.:.:.／ ' 、l`'i. l l ` ／／ l
l:.:.:.:.l 〈 ＼ .| l:.:.:.:.:} ヽ、__ヽ l | l V ／ / |
l:.:.:.:.:.} } 、-、} 、 }:.:.:.:.l `-/ ` ´/ / |
l:.:.:.:. 〈 / 、_——-- __ ` ニ,'' ＼:.:l / ゝ、_, l ヽ l
.l:.:.:.:.:／ ＼ ` ‐ 、 'ー-ッ ` ー- 、_ヽ、,,,, / ` ー,-'-' i |
l:.:.:.／ ＼ '- _つ _,. -- 、_ ` ー' / l l
l:.:l ---- ´ ヽ、 'ー ' ヽ:.:.:.:/ ` ー- 、__ / -- ヽ ヽ
l/ ヽ;_<_, l ´、 _,,l - ヽ
/ .l ` o/ | ` ヽ _,.- _,,.--:.: ヽ
/ |--' '、_—-—_,,／´:.:＝=.:l:. ヽ
,' .| ` {:`::
´:.i:.:i:.:/,.:.:.:.:.:.:. ヽ:. ヽ
l | |.:.:.:.. ゞ;.:/
´:.:.:.:.:.:.:.:.:.l:.:.:l
.l |
.l:.:.:.:.:.:.:.:l:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:l:.:.:l
l |
.l:.:.:.:.:.:.:.:l:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:i:.:.:l

729 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/17(木) 13:55:08 ID:RJ8Q1Gr4
そういやマサ女装話は初期にあったね
730 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/17(木) 15:57:11 ID:hYF1VLLQ

ミサキはどんな言葉で告白して、マサはどんな言葉で応えたのかね
ミサキはともかくマサは想像できん
731 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 09:23:12 ID:3CYMWXoZ
一つのスレが随分長もちするようになっちまったなぁ・・・・

これがいわゆるリョーコ聖水ってやつか・・・

・・・すいませんすいませんすいません・・・
732 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 11:09:14 ID:2j9peTdD
以前はハッキリ言って異常だったからね
今残っている職人が撤退したら、その時はこのスレも寿命を終える
それが歴史さ
733 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 13:29:32 ID:lEutSD4E
>>731
それをいうならエーコ聖水だろ

エーコちゃんのおしっこゴク g （ry…
734 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 15:40:05 ID:l1W6Ukjq
俺は正直、もって数スレであぼんすると思ってた
それが二十突破したんだから、本当に運がいいスレだよ
十分すぎるほどに立派だな
735 名前： 名無しさん@ピンキー [age] 投稿日： 2007/05/18(金) 18:14:21 ID:XmLg0ee5
生徒会は学校をテーマにしてるから書きやすいと思う
生徒会で初めて SS 書くのは誰だろ
736 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:00:40 ID:XdLc1bLH
ども。とある事情で数ヶ月忙しいことになりそうな 72 です。
…つか、もうなってるんですが。
こういう時こそなんかいろいろストーリーが浮かんでしまったり…
というわけで、一作投下します。

タイトルは「アイとマボロシ」で。では投下。
737 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:05:04 ID:XdLc1bLH
―町外れにある古びたラブホテルの一室。
その部屋の一角にあるシャワー室の中で、シャワーから流れ落ちる水音に紛れて
二人の男女が愛の営みにふける卑猥な音が響いていた。

「…あ…うわ…先生…気持ちいい―」
“くちゅ…ちゅぱ…ぺろ…”
裸で立ち尽くし声を漏らす少年と、
そして同じく全裸でその彼の前にしゃがみこみ、彼のいきり立った分身を愛撫する女性。

若さに溢れる彼の固くなったそれを、彼女は口で咥えたり、指先で扱いたりして優しく奉仕していく。
時折自らの柔らかな乳房の間に彼の分身を軽く挟みこんで擦ったり―
舌先で男根の先端をちろちろと舐めて責め上げたり―

彼女はそれに初々しく反応する少年の姿を楽しんでいた。

やがて彼の我慢も限界に達したようで、
「あ―もう、ダメだ…先生っ！！」
“びゅくっ…どくっ…”
彼の背中がびくんと震えたかと思うと、その男根から彼の溜まりきった白い精が放たれ―
目の前に座り込んでいた彼女の顔や髪を思う存分に汚していった。

「す、すみません…」
気弱そうな少年は、顔に付いた精液をシャワーで洗い流している彼女に向かって
申し訳なさそうにそう告げる。
「いいよ、別に…男の子だもん、しょうがないよ…

…それより、まだイケるよね？」
女教師“濱中アイ”は、まだ顔に残った精液を舐めとりながら、彼に悪戯っぽく微笑んだ。

738 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:07:07 ID:XdLc1bLH
間もなくシャワー室を出た二人は、すぐさま身体を抱き合ってディープキスを交わし、
そしてそのままベッドへと倒れこんだ。

“ぐちゅっ…ぬちゅっ…”
ベッドの上に仰向けになったアイに覆いかぶさった少年が、懸命に腰を動かし続ける。
すっかり回復した彼の分身は、愛液で濡れたアイの秘部を擦りあげて、淫猥な音を奏でていく。
先程とは違い今回はアイは為すがまま、彼の欲望をその身体全てで受け止めた。
夢中で乳房を揉みしだき、舌でその固くなった先端の突起を貪る。
まるで赤子のような彼の様子に、愛おしさを感じたアイは彼の背に手を回し、きゅっと強く抱き締める。
互いの肌が密着し、二人の汗が一つになりベッドのシーツへと垂れて落ち小さな染みを作っていく。
アイが少年に唇を合わせ、舌を吸い、絡めあう。アイの乳房は強く抱きしめあった二人の間に挟まれ
少年の胸板の上でぐにゅりと潰されていた。決して巨乳ではないが、十分に豊かな膨らみを持つアイの胸。
その弾力と女性特有の滑らかな肌の感触が、彼に更なる興奮をもたらしていく。
「はあっ…先生…すごいよっ…！！」
それは少年の若さゆえか。彼は休むことなく自らの分身で
アイの濡れそぼった膣内を更に激しく突き上げ、めちゃくちゃにかき回していく。
「あっ…いいよ…凄いっ…！！」
「先生…アイ先生っ…！！」
こうして二人は互いに絶頂へと昇りつめていく。

―その一方でアイは、彼女を悦ばせようと必死で頑張る少年の姿に、
かつて愛してしまった“教え子”の影を重ねていた―
739 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:08:27 ID:XdLc1bLH
―マサヒコのことが好き。

アイが自分の本当の気持ちに気づいたのは、中学の卒業式が終わり
ミサキがマサヒコに正式に思いを伝え、二人が付き合い始めたことを知った時だった。
ずっと『ただの教え子』だと思っていたマサヒコが、
いつの間にか彼女にとって、かけがえの無い存在になっていたのだ。
しかしそれに気づいた時には全てが遅く…
アイの心の奥に、ぽっかりと大きな穴が開いてしまった。

―アイは二人を祝福した―しかし…彼女のマサヒコへの思いは日々募るばかりだった…

そしてアイはある決心をする。
マサヒコへの思いを断ち切るために…
740 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:10:10 ID:XdLc1bLH
高校の入学式の前日、密かにマサヒコを呼び出したアイは
彼に今まで隠していた自分の思いの全てを伝えた。
当然ながらマサヒコは動揺した。彼には既にミサキという彼女がいたし、
今の今まで家庭教師として普通に振る舞っていたアイに、そんな感情を持たれていた事を知らなかったからだ。
アイにもそれは十分に分かっていた。決して許されることじゃない。でも―

「―ゴメンね、もうマサヒコ君とは会わないようにするから。

…でも、最後にひとつだけ我儘を聞いて。

私に思い出を…ちょうだい」

―マサヒコにはそのアイの願いを拒むことなど…できなかった。
741 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:12:02 ID:XdLc1bLH
その日、町外れのラブホテルを訪れた二人は抱き合い、互いの身体を求めあった。
アイもマサヒコも初めての経験だったにも関わらず、熱く燃え上がった二人。
マサヒコの愛撫はまだ未熟だったが、それでもアイを何とか悦ばそうと精一杯の努力で答えた。
そんなマサヒコの様子に、哀しさと嬉しさの半々の感情で複雑に揺れるアイ。
二人は背徳心も何もかも全てを忘れて絡み合い、やがて互いに果てた。
こうしてアイは教え子に己の純潔を捧げたのだった。

―それが最後。アイとマサヒコとの関係はそれきりである。

―そしてそれから数年後、彼女は中学の教師になった。
742 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:13:08 ID:XdLc1bLH
「―あ、うんっ…もう…だめぇっ…！！」
「う…かあ…で…出るっ…！ううっ…くっ…！！」
少年が本日二度目の臨界点に達したのか、下にいるアイにその旨を伝えた次の瞬間。
“どくっ…”
「う…くううあああっ！！」
「…あっ…いひいっ…ふあああっ！！」
アイの中で少年の精がはじけ飛ぶ。
そして…それとほぼ同時にアイも快楽の奔流に包まれた。

「う…先生…止まらない…」
「いいよ…その熱いの、全部私の中へ出しちゃって…」
「あ…はい…」
アイにそう促され、少年は腰を小刻みに震わせながら
彼女に欲望の全てを吐き出していった―

アイがこのような淫らな日々を送るようになったのは、
教師として中学校に赴任した半年後のこと―
ある男子生徒から告白されたのがきっかけだった。
過去の経験から、彼の思いを受け入れる事は出来なかったアイだったが…
それでも彼の真剣な様子と己の寂しさから、彼に身体を許してしまった。

―こうして簡単に“タガ”は外れた。
743 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:15:15 ID:XdLc1bLH
『アイ先生は誰とでも寝るヤリマン』
『タダでヤラせてくれる淫乱教師の濱中アイ』

やがてその噂を聞きつけて、毎日のようにやって来る性欲に溢れた男子たちを
アイは一切拒むことなく受け入れた。
希望さえあれば、同時に二人以上の生徒達とも、
そしてある時は『口止め』のために同僚の教師とも―
愛らしく女子生徒からも人気のある外見とは裏腹に、彼女はすっかり淫乱な女性へと変貌していた。

「先生…どうも…ありがとうございました」
全てが終わった後ベッドの上で休むアイに、少年が感謝の言葉を伝える。
「うん、こちらこそ…“マサヒコ君”」
「え？マサ…あの、僕の名前は…？」
「あ！な、なんでもないよ！はは…」
思わずマサヒコの名前を出してしまった事を、アイはすかさず笑って誤魔化した。

―そう。マサヒコと会わなくなって二年以上経った今も、
アイはまだ彼の事をふっ切ることができないでいた。
彼女が狂ったように男を求めるのも、哀しいかなそれ故なのである。

アイがマサヒコへの思いを断ち切り、新たな恋を始めるのはいつになるのだろうか。
それは誰にも分からない。

―今日も彼女は、今や“幻”となった彼の姿を教え子たちに重ね、そして肌を重ねあう―

（Ｆ　Ｉ　Ｎ）
744 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:17:29 ID:XdLc1bLH
・
・
・

「―で、どう？感想は？」
「……いや…なんですかコレ」
「ナニって…私の書いた官能小説？」
「そうじゃなくてっ！！なんで先輩の小説に私とマサヒコ君が出てるんですか！？」
「あ、そこは安心なさい。雑誌に投稿する時はちゃんと名前は変えてあげるからさ」
「だから、そうじゃなくて…！」
「ああ、あと一応この続編も考えてるから♪
今度は卒業式の日にアイが暴走した教え子達に輪姦されてね…」
「もう、いいかげんにしてください！！」

昼下がりのオープンカフェにて原稿用紙片手に喚き散らすアイと、
いつものごとく軽い調子でそれを受け流すリョーコ。
…なんにしても、場所的にも時間的にも随分合わない会話ではある。
心なしか歩道を歩く人々の波が、彼女たちを少し避けているように見えた。
745 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:19:15 ID:XdLc1bLH
「―もう、勝手に私の名前を使わないで下さいよ。
マサヒコ君にも失礼です」
「はいはい…ゴメンゴメン」
「ちゃんと真面目に謝ってください！全くもう…」
ぷんすかと怒りながら、アイは目の前のショートケーキをぱくりと口の中へと放り込んだ。

「それにしても…アンタのお腹は底なしね。
そっちこそいいかげんにしないと…太るわよ」
本日五個目のケーキを完食したアイに、リョーコはあきれた様子でため息をつく。
「…別にいいじゃないですか。どうせお金は私が払うんですし、太るのは私ですし」
と、ちょっと拗ねた様子で紅茶をすするアイ。
「ま…私には関係ないけど、さ。
でもやっぱり食べすぎは身体に毒…

…そっか、今日はこれから彼と“二人”で激しい“運動”するから、
バテないように食いだめしてるのか♪
あー、それなら納得納得♪」
「セ、センパイ！？」
リョーコにからかわれ、思わず顔を赤らめて焦るアイ。
「―あ、そうこう言ってる内に来たみたいよ、“彼”が」
リョーコが指差す方向には、やや駆け足でこちらに向かってくる青年の姿が見えた。

「―遅れてすみません…待ちました？」
「ううん、ぜーんぜん！じゃ、行こっか。マサヒコ君♪」
「あ、はい。じゃあ中村先生、これで俺たち失礼します」
「そう…行ってらっしゃい」
746 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:20:45 ID:XdLc1bLH
―リョーコの書いた小説とは異なり、現実には“あの後”彼ら二人の関係が潰えることはなかった。
マサヒコへの思いを結局断ち切れなかったアイ。
アイの気持ちをただ無下にする事が出来ないまま、結論を出せなかったマサヒコ。

やがて二人は、今日のように時折ミサキに隠れて会うようになっていた。
そして短い時間の中で互いに身体を貪り、重ねあい―
こうしてそんなマサヒコとアイの関係は二年以上続き、今に至る。
（今のところこの事実を知っているのは、二人以外にはリョーコのみである）

もちろんこれはマサヒコのミサキに対する裏切りに他ならず、
いつまでもこんな日々を送れるとは到底思えない。

今のままではいつか―“夢幻（ゆめまぼろし）”のごとく全てが崩壊する時は―必ずやってくる。

“その日”が来るまでに…二人のこのいびつな関係に何らかの終止符が打たれることが果たしてあるのだろうか？

（…これから一体どうなるのかね、アイツら…）

次第に遠ざかっていく二人の後ろ姿を、リョーコは少し悲しげな目で見送った。

（おわり）
747 名前： 72 ◆jQvWLkj232 [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 22:22:00 ID:XdLc1bLH
以上です。お目汚し失礼しました。
さて明日はマガスペ発売日。ｗｋｔｋしながら待ちます。

>>735
流石にいきなりは無理っす。
…と言いつつ、明日書いてたりするかもしれんけど。

それではまた。
748 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 23:04:37 ID:XNdehDMV
７２氏ナイスです。
何気に２２時間目の主戦をつとめてくれましたね。
それにしてもアイとマサヒコ、切ないですね…
749 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/18(金) 23:15:17 ID:2j9peTdD
72 氏 GJ です
今スレの最多当番＆抜群の安定感でしたねえ、エースの力をたっぷり堪能しました

さて、そろそろアナルトリですか？
750 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/19(土) 11:22:44 ID:+PLo0Zzp
GJ～

ノリノリですな！　今スレのＭＶＰですな！
751 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/19(土) 18:40:49 ID:MSu/JCXi
>>747
ネガティブなレスを吹き飛ばす７２氏の快投、GJ！です。
生徒会のほうもイイ感じで始まったことだし、（個人的に会長最高！）
まだまだたそがれるには早そうですね。

752 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/19(土) 19:33:24 ID:MSu/JCXi
【濱中アイ】氏家ト全総合 11 時間目【妹は思春期】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1129514442/
【濱中アイ】氏家ト全総合 10 時間目【妹は思春期】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1127110404/
【濱中アイ】氏家ト全総合 9 時間目【妹は思春期】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1125079101/
【妹】氏家ト全総合　８時間目【濱中アイ】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1122381257/
【濱中アイ】氏家ト全総合　７時間目【妹は思春期】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1120910446/
【濱中アイ】氏家ト全総合　６時間目【思春期】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1118937114/
【女子大生】氏家ト全総合　５時間目【思春期】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1117279379/
【家庭教師】氏家ト全総合　4 時間目【思春期】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1114597887/
【ｶﾃｷｮ】氏家ト全総合　３時間目【妹】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1109699736/
【濱中】氏家ト全総合　２時間目【妹】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1106563195/
家　庭　教　師　濱　中　ア　イ
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1095652398/

古田氏作の SS 保管庫
ttp://yellow.ribbon.to/~hamanaka
753 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/19(土) 19:33:43 ID:MSu/JCXi
【お願い】
作品の投下は以下のようにしてくれると助かります。
（１）．投下します宣言
（２）．本編投下
（３）．ここまでです宣言

また、作品のタイトルは上記の（１）、（３）のどちらでも良いのですが、
１行独占で書いてくれると助かります。本文に紛れると見落としてしまうことがあるので。

↓こんな感じ
タイトル：「？？？？？」
名前欄はこれまで通り作家さんのコテでよいです。
754 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/19(土) 19:40:05 ID:MSu/JCXi
というわけで、次スレ立ててまいりました…

【あかほん･濱中】氏家ト全 23 時間目【妹･生徒会】
http://sakura03.bbspink.com/test/read.cgi/eroparo/1179570516/

誤爆はするは、前スレの時間を間違えるは…ｏｒｚ

以後、精進いたします。
755 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/20(日) 00:03:55 ID:YFwjLHsQ
乙
では古田監督が保管庫を更新されてから一気にシリトリに移行かね
それまでは新スレともどもフワリ保守か
756 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/20(日) 18:25:02 ID:DSnM7SY9
浣腸で分かる年の功。　　う。
757 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/20(日) 19:52:49 ID:H3xcVk+2
乙ー

鶉の卵で産卵プレイ

“い”
758 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/21(月) 00:14:19 ID:+pdyzGk7
淫乱な家族

“く”
759 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/21(月) 01:21:35 ID:ErQ+gjCg
保管庫のこともある、未更新のうちはゆっくりいこうぜ

「く」やしい、ビクビ「ク」
760 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/22(火) 06:54:07 ID:AXCBrQhP
でもうっかりしてると圧縮されるからね

「く」りとリス

「す」
761 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/22(火) 21:41:45 ID:G5Vbq4Wx
「素股がいいの?　それとも手コキがいい?　マサちゃん?」
「お前の口から、素股とか手コキという言葉が出てくるとけっこうくるな・・・」
「そんなこと言って、もうこんなにおっきくなってるよ、マサちゃんの」

「の」
762 名前： 名無しさん@ピンキー [sage　更新期待！] 投稿日： 2007/05/23(水) 10:25:57
ID:9XN+23Os
ノリノリである

「る」
763 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/24(木) 07:12:18 ID:WwyQjKN1
瑠璃色性生活

つ
764 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/24(木) 21:32:18 ID:L81R77Xq
ツンデレと幼馴染

「み」

765 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/25(金) 00:47:24 ID:U+R3pJDf
耳はダメなの小久保君！　お願い、やめてってば！

「ば」

766 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/25(金) 13:35:29 ID:nVpjLV8d
「バカ……耳はやめてって言ったのに……///」
「今日はその気はなかったのに、その気になっちゃったじゃない……だから……その……小久保くんが責任取って最後までしなさいよ！」

「よ」
767 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/25(金) 13:43:13 ID:yn7JKAP5
よがり狂うミサキ

「き」
768 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/25(金) 15:03:47 ID:imy4c8Dv
気をやりまくるアヤナ

「な」
769 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/25(金) 16:17:49 ID:JUnfHHtQ
涙を流し悶えるリンコ

「こ」
770 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/25(金) 17:45:19 ID:yt+XwDCQ
この丸太につかまるんじゃ!!

「や」
771 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/25(金) 21:58:24 ID:OKqs7RzU
やおいにすっかりはまったリンコ
「こ」
772 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/25(金) 23:42:33 ID:Ez0JZAmx
こぶしが入るくらいまで広がりました

「た」
773 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/26(土) 00:27:44 ID:VuPOY+Ps
たくさん子供を作ってください
一人につき最低でもサッカーチームが作れるぐらいに

「に」
774 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/26(土) 01:46:53 ID:9jGur+I3
ペースあげると保管庫収納前にパンクするってば

「に」ラニラとママン笑「う」
775 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/27(日) 11:50:26 ID:DY1/qKPm
上の口がええんか？それとも下の口か？

〔か〕

保管庫ﾏﾀﾞｰ
776 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/28(月) 10:15:47 ID:KFDsoplA
かまぼこの板で角オナ……使えますね、このネタ

「た」
保管庫まだー　チン
777 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/29(火) 09:48:16 ID:nuoVegmR
たっぷりイカせてやるぜ！

（ぜ）
778 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/29(火) 21:40:56 ID:Lp5y9B0S
「全部脱ぐの！　私だって裸なんだから、小久保君も裸になって！」

「て」
779 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/29(火) 22:21:26 ID:K7Zvp8gu
「ていうか服を着てください…豊田先生」

「い」
780 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/30(水) 00:45:20 ID:vqh18Pl/
「いや～!!　マサちゃん、豊田先生、なにやってるのよ！
卑猥！　淫行！　薔薇！」

「ら」
781 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/31(木) 07:13:40 ID:luigiMGA
ららら奇人君ららら奇人君ららららっ
避妊は計画的に

に
782 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/05/31(木) 23:02:37 ID:KtpWUHCS
「二次元SSだからといって、やりたい放題だなこいつらは。マサヒコくんも気の毒に・・・
ま、俺だって似たようなものか」
そうつぶやくシンジであった。

「た」
783 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/01(金) 07:48:51 ID:HQeZGMhj
助けてください、誰か助けてください!!(性的な意味で

『で』

by マサヒコ
784 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/02(土) 10:20:59 ID:3wvARAZk
でんでん武勇伝
今日もたっぷり絞られる

る
785 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/02(土) 14:57:57 ID:adb/+tNg
留守番プレイ

「い」
786 名前： 名無しさん@ピンキー [sage ッター] 投稿日： 2007/06/03(日) 16:10:37 ID:x89PQlGY
いい　からだ　を　しているな。
せいとかい　に　はいらないか？

か
787 名前： 名無しさん@ピンキー 投稿日： 2007/06/03(日) 22:09:21 ID:t0EUyvbW
あげ
788 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/05(火) 07:09:39 ID:u6W34gKu
からだが目当てなのねっ！

つ
789 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/06(水) 16:47:40 ID:wLBFvznH
突き！突き！突き！高速で突きィィィィィ！

……ドピュ

ゆ
790 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/07(木) 04:37:18 ID:0tYJtJyv
夢である～よおに～

マサ「ミサキとアヤナとリンコとアイ先生が同時に出来ちゃったとか言ってくるやな夢みちゃったよ」

よ
791 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/07(木) 23:45:31 ID:HPZBJ/3b
よいではないか、よいではないか。

　か
792 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/08(金) 17:28:27 ID:Op1dYueb

仮性人来襲

う
793 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/08(金) 20:27:18 ID:mdLSNdew
「嘘だよね・・・マサちゃん、まさか仮性人じゃないよね?」
泣きそうな顔でマサヒコを見つめるミサキ。
「なにいってるんだよ。俺が火星人のはずないだろ? 変なテレビでも見たのか?」
半ば呆れたように、苦笑しながらマサヒコは答える。
「じゃ・・・今すぐここで証拠を見せてよ！」
「おいミサキ・・・火星人じゃない証拠なんて、どうやって見せろっていうんだよ?
あっ・・・バカ・・・おい、なに人のズボンとトランクスを脱がそうとしてるんだ・・・
あっー!!」

「ミサキちゃんとマサヒコ君のやりとり、微妙にかみ合ってないみたいですね、先輩?」
「・・・なかなかやるじゃないミサキちゃん。入れ知恵した甲斐があったわ」

「わ」

794 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/10(日) 01:03:46 ID:3HJbVGBR
わぁ、大きい……

い
795 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/10(日) 11:01:57 ID:nsyt6GWX
「…いやっ！仮性人どころか真性人じゃないのマサちゃん!!!」
「新成人??おれまだ高校生だけど」
「見損なったわマサちゃん。さようならもう興味はありません」

「マサヒコ君が真性人…(*´ﺎ`)ﾊｱﾊｱ」
「ショタコンの血が騒ぐようね。アイ」

「い」
796 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/12(火) 02:13:10 ID:ZAFyh+RJ
「いけない、もう限界ギリギリだよう」激しく身悶えするミサキチを冷静にリードする
マサであった。「だってお前が体硬いのいやだ、って言ったじゃん？」その言葉にアイセンセ
との事を思い出して急に嫉妬に燃えるミサキであった。実際ぎりぎりですね。
「た」　　とっても不謹慎な想像で古田監督にも別の人にも失礼なんだが、もし古田監督の
本名のイニシャルがＭなら・・・とか思ったりして、本当にご免なさい。
797 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/15(金) 06:53:58 ID:NcqJFiAo

卵を使って産卵プレイ

「い」
798 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/15(金) 14:55:33 ID:Z/fquHoG
「一体なんだってんだ！　火星人がなんだの新成人がなんだの！ 挙句の果てに
人のトランクスを脱がしておいて見損なっただの・・・訳分からん」
怒っていいのか呆れるべきなのか、マサヒコは名状しがたい、複雑な表情を浮かべている。

「アイ・・・チャンス到来よ。ミサキちゃんがマサを見限った今、あんたがマサを篭絡しても問題ないわよ！
あんたの手で、マサのアレを剥き剥きして、真性人小久保マサヒコを、大人の男にしてあげなさい」
「お言葉ですけど先輩、私はマサヒコ君を大人の男なんかにしたくありません。マサヒコくんはあのままで
いいと思います。ﾊｱﾊｱﾊｱﾊｱ(*´Д`)」
やれやれ、せっかく初彼氏ゲットのチャンスを作ってやったのに、この処女のショタコンの半ボケ娘は、
あくまでも自分の性的嗜好に殉ずる気なのか・・・呆れるリョーコであった。
「アイには勿体無いわね。いっちょ私が、マサを男にしてやろうかね」

「ね」

新着レス 2007/06/19(火) 20:13
799 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/18(月) 21:39:32 ID:O1+Dsh00
寝取り

「り」
800 名前： 名無しさん@ピンキー [sage] 投稿日： 2007/06/18(月) 22:13:56 ID:PDXKbi6d
「『倫理を守る上で我々にできることは何か』これが今日の議題だ」
「正直私もそれはうちが男子校になってから憂慮してましたけど……そんなに心配
することないんじゃないですか？」
「そうよ。目安箱に男の子からセクハラされたって報告はないし、津田君だって
真面目だもん」
「（そう言ってるあんたらが下ネタ発言で悉く倫理を破壊してるのでは……？）」

「は」